

平成30年度佐賀県小・中学校学習状況調査〔4月調査〕
結果報告

平成30年7月12日(木)

佐賀県教育委員会

－ 目 次 －

I	調査の実施概要	1
II	教科に関する調査の概要	4
III	教科ごとの調査結果とその分析	
	◎ 国語	
	(1) 結果の概要	6
	(2) 成果と課題及び指導改善のポイント	8
	(3) 各学年の設問ごとの正答率	10
	(4) 地域別の正答率	21
	◎ 算数・数学	
	(1) 結果の概要	22
	(2) 成果と課題及び指導改善のポイント	24
	(3) 各学年の設問ごとの正答率	26
	(4) 地域別の正答率	37
	◎ 理科	
	(1) 結果の概要	38
	(2) 成果と課題及び指導改善のポイント	40
	(3) 各学年の設問ごとの正答率	42
	(4) 地域別の正答率	46
IV	児童生徒意識調査（小学5年生・中学1年生・中学2年生）、 児童生徒質問紙調査（小学6年生・中学3年生）、学校質問紙 調査及び教師意識調査の概要	
	(1) 授業に対する関心、理解度、有用性について	48
	(2) 学校での学習について	57
	(3) 家庭での学習について	62
	(4) 学校生活、家庭生活について	68
	(5) 教師意識調査から	74
	(6) 地域別の状況	78
	(7) 結果の考察と指導改善のポイント	92

I 調査の実施概要

1 調査の目的

学習指導要領に示されている目標や内容の定着状況、学習に対する意識・態度や生活習慣及び教師の指導に関する意識を把握し、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

各学校は、児童生徒一人一人の調査結果を踏まえた指導改善を行うとともに、教育委員会は、課題解決に向けた施策の見直しや充実を図る。

なお、調査に当たっては、市町教育委員会と県教育委員会が連携・協力し、実施する。

学力は、知識や技能に加えて、自ら学び、判断・行動し、問題解決する資質や能力等までを含めたものです。今回の調査結果は、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面を示すものです。

2 調査実施日

小・中学校とも平成30年4月17日(火)

3 調査内容

① 各教科の目標や内容の定着状況に関する「教科に関する調査」

- ・ 小学5年生 国語、算数
- ・ 小学6年生 国語、算数、理科
- ・ 中学1年生、中学2年生 国語、数学
- ・ 中学3年生 国語、数学、理科

② 学習に対する意識や生活習慣等に関する「児童生徒意識調査」

③ 学習指導法等に関する「教師意識調査」

※ 小学6年生及び中学3年生は、全国学力・学習状況調査の「教科に関する調査」「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」を活用

4 調査方法

① 教科に関する調査

- ・ 小学校 各教科45分(小学6年生は、全国調査の活用のため40分)
各学校で時間を設定して実施
- ・ 中学校 各教科50分(中学3年生は、全国調査の活用のため45分)
各学校で時間を設定して実施

② 児童生徒意識調査

- ・ 小学校及び中学校 15分程度
各学校で時間を設定して実施

③ 教師意識調査

- ・ 小学校 小学4年生、小学5年生、小学6年生の国語、社会、算数、理科の担当教職員が対象(平成30年2月実施)
- ・ 中学校 中学1年生、中学2年生の国語、社会、数学、理科、英語の担当教職員が対象(平成30年2月実施)

5 調査の成果指標

① 教科に関する調査

学習指導要領の目標や内容の定着状況を到達基準〔注1〕として、「おおむね達成」と「十分達成」の2つの基準値を設定し、全学年・全教科において「十分達成」を超えることを目指している。

② 児童生徒や教師に対する意識調査

児童生徒の学習に対する意識・態度、学校や家庭での学習習慣、生活習慣、教師の指導方法などについて、経年での改善・向上を目指している。

6 調査対象及び調査人数

	学校数	学年	人数
小学校調査	165	第5学年	7,662
		第6学年	7,471
中学校調査	95	第1学年	7,113
		第2学年	7,120
		第3学年	7,131
		計	36,497

小学校調査学校数及び人数は、義務教育学校前期課程（6校、537名）県立特別支援学校小学部（4校、10名）を含みます。中学校調査学校数及び人数は、義務教育学校後期課程（6校、777名）県立中学校（4校、1,404名）及び県立特別支援学校中学部（5校、12名）を含みます。

〔注1〕 到達基準について

佐賀県では、平成20年度調査から、学習指導要領の目標や内容に照らして、児童生徒に求められる正答率の目標値を「到達基準」として設定している。これにより、同じ指標による経年比較も可能となる。

「到達基準」は、修正エーベル法〔注2〕の考え方に沿って、小問ごとに設定した「期待正答率」を集約したものである。「期待正答率」とは、受検した児童生徒のうち正答することが期待される者の人数の割合であり、問題の特性や難易度に応じて判断し、小問ごとに「十分達成」「おおむね達成」という2つの基準値を設定している。

「到達基準」のうち

○「十分達成」の到達基準は、学習内容の習得が十分であると判断される基準（目標到達基準）

○「おおむね達成」の到達基準は、最低限これを上回ることが必要であると判断される基準（最低到達基準）

このように、事前に設定した「到達基準」と調査結果を比較することにより、到達度を測ることができる。

また、各学校においては、この到達基準を基に、自校の調査結果を分析し、自校の取組を検証するとともに、課題に応じた重点目標を設定し、解決に向けた指導の工夫・改善に取り組む。

〔注2〕 修正エーベル法について

- 1972年にエーベルが提唱したエーベル法に橋本重治が修正を加えて考案した到達基準の設定方法で、個々の小問の判断に基づくエーベル法をより簡略化して利用できるようにしたもの。
- 各小問を、関連性と困難度のマトリックスにおいて分類する。
- 関連性は、「基礎的・基本的」（後の学習への関連性が高く、その学年でぜひとも身に付けさせたい目標を測る問題）と「発展的・応用的」（比較的高度で、後の学習への関連性がそれほど高くないが、その学年で身に付けることが望ましい目標を測る問題）の2区分である。
- 困難度は次の分類表のとおり、「平易」「普通」「困難」の3区分。ただし、「基礎的・基本的」に分類される「困難」な問題は妥当ではないので、分類から除外する。全ての小問が、(A)(B)(C)(D)(E)のいずれかに割り振られる。

■修正エーベル法における問題の分類表

	平易	普通	困難
基礎的・基本的	(A)	(B)	
発展的・応用的	(C)	(D)	(E)

- 本調査では、過去の調査結果の傾向を踏まえて、次の表のように小・中学校別に期待正答率を設定している。

■小・中学校別期待正答率

(注) 上の数字は「十分達成」、下の数字は「おおむね達成」の場合を示している。

		平易	普通	困難
小学校	基礎的・基本的	(A) 0.85(85%) 0.65(65%)	(B) 0.80(80%) 0.60(60%)	
	発展的・応用的	(C) 0.75(75%) 0.55(55%)	(D) 0.70(70%) 0.50(50%)	(E) 0.65(65%) 0.45(45%)
中学校	基礎的・基本的	(A) 0.75(75%) 0.55(55%)	(B) 0.70(70%) 0.50(50%)	
	発展的・応用的	(C) 0.65(65%) 0.45(45%)	(D) 0.60(60%) 0.40(40%)	(E) 0.55(55%) 0.35(35%)

Ⅱ 教科に関する調査の概要

- 平成30年度[4月調査]の到達状況を見ると、県で設定した「到達基準」(p2 [注]参照)に対して全ての教科(小学校5教科、中学校7教科)で「おおむね達成」の到達基準を上回っており、本県児童生徒の学習内容の習得状況はおおむね良好であった。

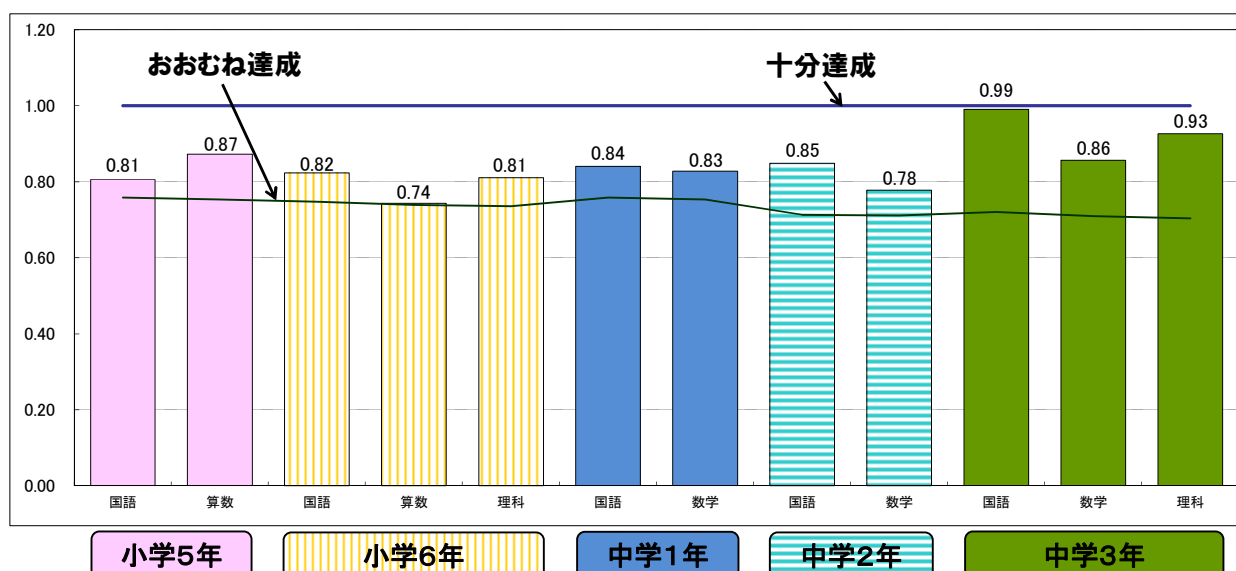
[表1]

[表1] 各学年・教科の到達状況

教科	平成30年度[4月調査]の到達状況				平成29年度[4月調査]の到達状況			
	県正答率 (A)	到達基準		「十分達成」に 対する割合 (A/B)	県正答率 (A)	到達基準		「十分達成」に 対する割合 (A/B)
		十分達成(B)	おおむね達成			十分達成(B)	おおむね達成	
小5国語	66.6	82.7	62.7	0.81	61.5	82.5	62.5	0.75
小5算数	70.6	80.9	60.9	0.87	65.4	79.8	59.8	0.82
小6国語	65.0	79.0	59.0	0.82	68.0	80.2	60.2	0.85
小6算数	57.0	76.7	56.7	0.74	65.5	77.7	57.7	0.84
小6理科	61.3	75.6	55.6	0.81	—	—	—	—
中1国語	69.5	82.7	62.7	0.84	68.5	82.3	62.3	0.83
中1数学	67.1	81.1	61.1	0.83	68.5	79.6	59.6	0.86
中2国語	59.1	69.7	49.7	0.85	58.0	69.8	49.8	0.83
中2数学	53.8	69.2	49.2	0.78	54.3	68.7	48.7	0.79
中3国語	70.8	71.5	51.5	0.99	74.4	70.4	50.4	1.06
中3数学	58.9	68.8	48.8	0.86	57.2	70.0	50.0	0.82
中3理科	62.4	67.4	47.4	0.93	—	—	—	—

※ 網掛けについては「十分達成」に対する割合が1.00を上回っている教科を示している。

[グラフ1] 各学年・教科正答率の「十分達成」に対する割合(十分達成=1.00)

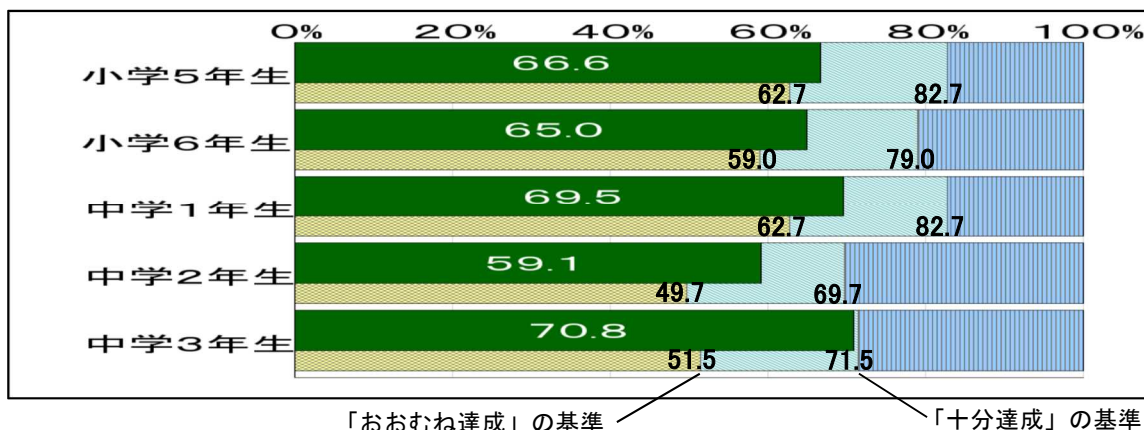


Ⅲ 教科ごとの調査結果とその分析

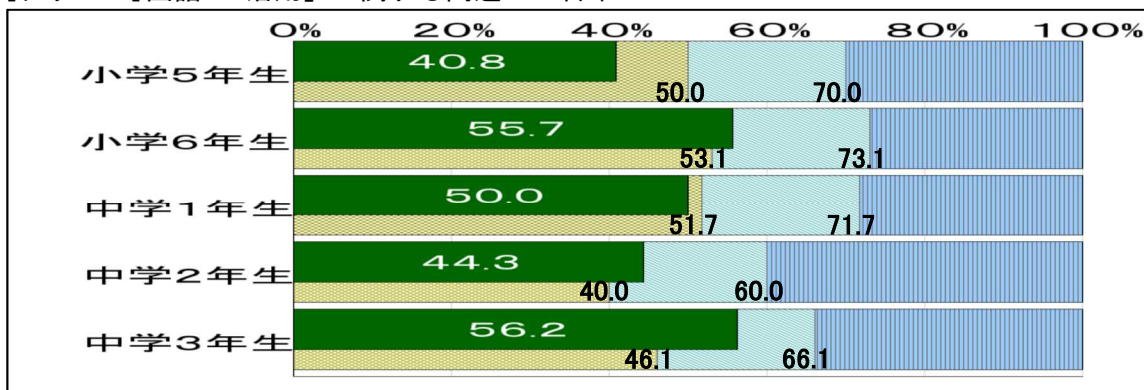
(1) 結果の概要

- 教科正答率は、小・中学校共に全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。
[グラフ1]
- 「活用」に関する問題については、小学5年生と中学1年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ2]
- 観点別に見ると、中学2年生と中学3年生は、全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回っている。「知識・理解・技能」については、小・中学校共に全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。特に、中学3年生は、「十分達成」を上回っている。「読む能力」については、小学5年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。「書く能力」については、小学6年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ3～6]
- 内容・領域別に見ると、「語句に関する知識」については、小・中学校共に全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「漢字の読み」については、小学5年生と中学3年生で「十分達成」を上回っており、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。「漢字の書き」については、中学3年生で「十分達成」の基準を上回っており、中学1年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ7～11]

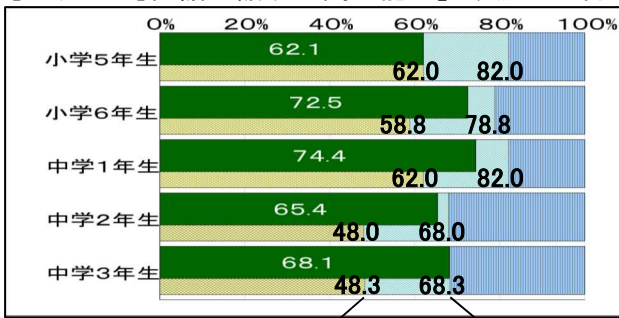
[グラフ1]国語 教科正答率



[グラフ2]国語 「活用」に関する問題の正答率

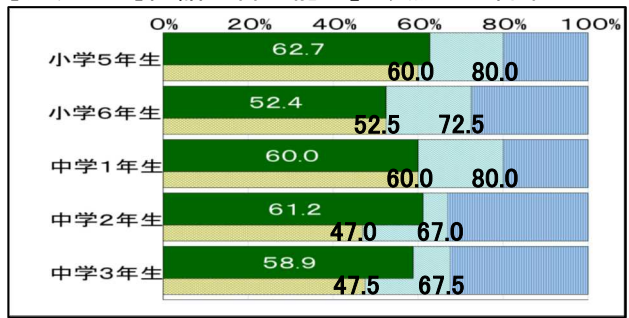


[グラフ3] 国語「話す・聞く能力」観点の正答率

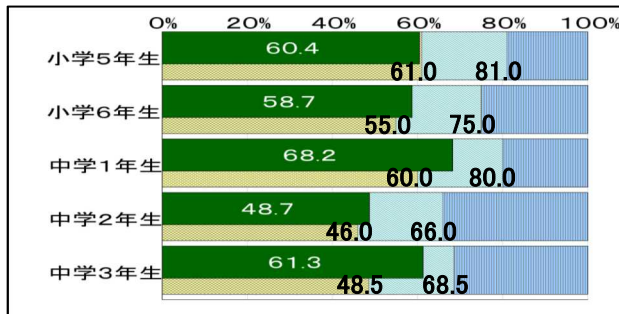


「おおむね達成」の基準 「十分達成」の基準

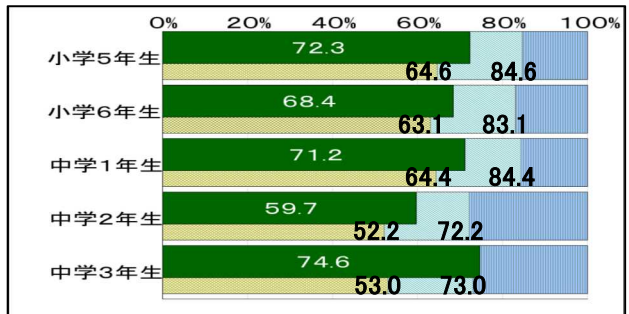
[グラフ4] 国語「書く能力」観点の正答率



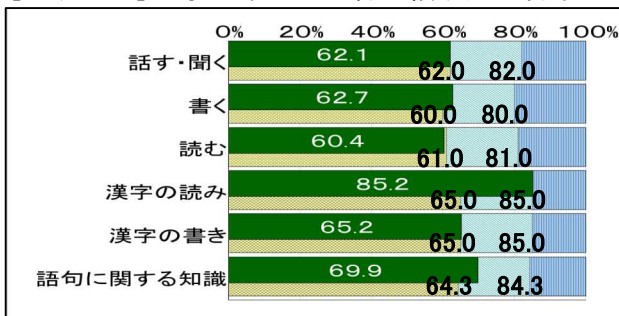
[グラフ5] 国語「読む能力」観点の正答率



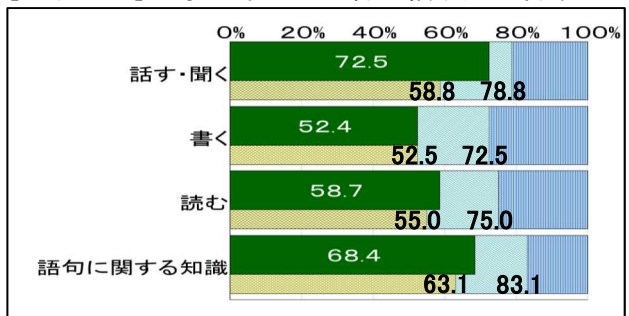
[グラフ6] 国語「知識・理解・技能」観点の正答率



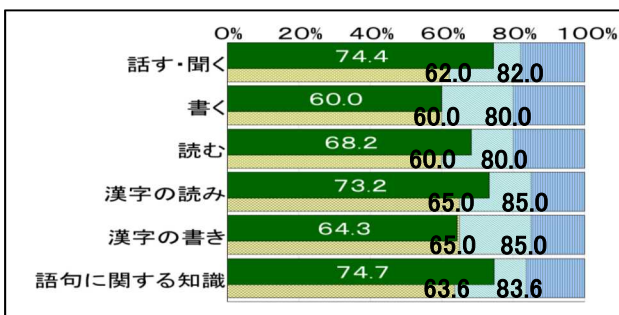
[グラフ7] 小学5年生 内容・領域別正答率



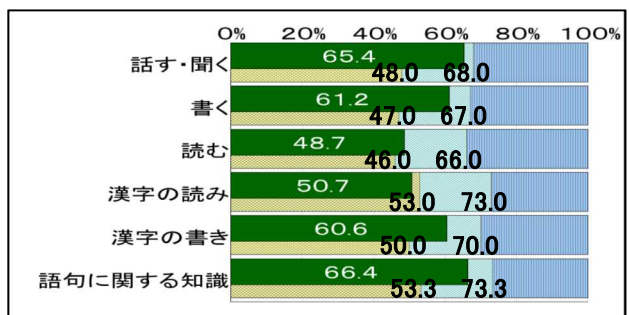
[グラフ8] 小学6年生 内容・領域別正答率



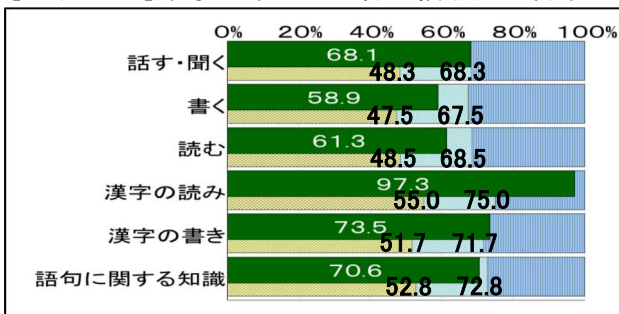
[グラフ9] 中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ10] 中学2年生 内容・領域別正答率



[グラフ11] 中学3年生 内容・領域別正答率



※ [グラフ8]について

「漢字の読み」「漢字の書き」については、今年度、出題されていない。

(2) 成果と課題及び指導改善のポイント

小学校国語（小学5年生、小学6年生、中学1年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 平成29年度[4月調査]で「おおむね達成」の基準を下回っていた「叙述を基に、登場人物の気持ちの変化を捉える」ことを問う設問が、「おおむね達成」の基準を上回っており、改善の傾向が見られる。
(小学5年生[3]一、中学1年生[3]一二)
- ◇ 司会の役割を考えながら話し合いを進めることや、司会の役割に基づいて計画的に話し合うことができている。
(小学5年生[1]二、中学1年生[1]一)
- ◇ 国語辞典の使い方や慣用句の意味、熟語の構成について理解できている。
(小学5年生[5]五、小学6年生A問題[6]、中学1年生[5]三123)
- ◆1 自分の考えを明確にして話したり、自分の立場を明確にして理由を挙げながら話したりすることに課題が見られる。
(小学5年生[1]四、中学1年生[1]五)
- ◆2 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書いたり、資料にある文を引用して、自分の考えが伝わるように書いたりすることに課題が見られる。
(小学6年生B[2]二、中学1年生[2]五)
- ◆3 文の中における主語と述語との関係を捉えることに一部課題が見られる。
(小学5年生[5]三1、小学6年生A[5]、中学1年生[5]五12)

平成29年度佐賀県小・中学校学習状況調査[4月調査]Web報告書 参照
指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆1 自分の考えや立場を明確にしながらか話し力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 児童が目的と意図を理解してから、話したり聞いたりする活動に取り組んでいますか。
 - 発表原稿やスピーチメモなどの模範となる例を示すことで、構成の仕方について児童が理解できるようにしていますか。
 - 声量や速度、抑揚や間の取り方、改まった言葉や丁寧な言葉、敬体や常体との使い分けなど、その場に応じた適切な表現の仕方について指導していますか。
 - 話す活動の後に、自分の発言や友達の発言について、話の構成や内容、話し方などの評価の観点を明確にして振り返る時間を授業に位置付けていますか。

- ◆2 資料にある文を引用して、自分の考えが伝わるように書いたり、話の中心を明確にして詳しく書いたりする力を育成するためには、書く活動で、次のような指導を行うことが大切です。
 - 何のために引用するのかという目的や、引用した部分と自分の考えとの関係を明確にするなど、児童が書く目的や意図を理解できるようにしていますか。
 - 教師が書いた文章や教科書の例文などのモデルとなる文章を提示し、どの児童も書くことができるようにしていますか。
 - 「○字以内で書く」、「○分以内で書く」といった字数や時間だけでなく、書き出しを指定して書かせるなど、条件を与えて書く活動を授業に位置付けていますか。
 - 自分が書いた文章を児童自身が推敲するだけでなく、互いに読み合っよよいところを伝え合う活動を授業に位置付けていますか。

- ◆3 文の中における主語と述語との関係を捉える力を育成するためには、書く活動や読む活動などで、次のような指導を行うことが大切です。
 - 読む活動では、述語に照応する主語を見付けたり、主語が省略されている文に主語を補ったりするようにしていますか。
 - 書く活動では、書いた文の主語と述語が照応しているかを、児童自身で確かめたり、互いに読み合っよよ確かめたりするようにしていますか。
 - 単文・重文・複文といった文の構造や、呼び掛けや疑問、推定や伝聞を表す文の性質や機能など、いろいろな文の構成に気付くような場を設定していますか。



他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

中学校国語（中学2年生、中学3年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 全体と部分に注意して話を構成したり、話の論理的な構成や展開などに注意して聞いたりすることができている。
(中学2年生¹三、中学3年生A¹一)
- ◇ 伝えたい事柄について効果的に記述したり、書こうとする事柄のまとまりや順序を考えて文章を構成したりすることができている。
(中学2年生²三、中学3年生A²一)
- ◆ 1 話題を捉えて相手の発言を注意して聞いたり、全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話したりすることに一部課題が見られる。
(中学2年生¹四、中学3年生B²三)
- ◆ 2 表記を確かめて正しい文にしたり、内容を整理して書いたりすることに一部課題が見られる。
(中学2年生²二、中学校3年生B¹三)
- ◆ 3 文章に表れている書き手のものの見方や考え方を捉え、自分の考えを広くしたり、文章とグラフの関係を考えながら内容を捉えたりすることに課題が見られる。
(中学2年生³三、中学3年生B¹一)

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 話題を捉えて相手の発言を注意して聞いたり、全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話したりする力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 話を聞く場面や話合いの場面で、相手が何を伝えようとしているのかを話のまとまりごとに整理するような言語活動を授業に位置付けていますか。
 - 例えば全校集会で行われた校長先生の話について要旨をまとめさせるなど、日常生活の中の話に注意して聞くことができるような機会を授業に位置付けていますか。
 - 対話や話合いの場面では、相手の伝えたいことと、それを支える部分の関係を検討し、納得したり、合意形成したりできるように指導していますか。

- ◆ 2 表記を確かめて正しい文にしたり、内容を整理して書いたりする力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 書いたものについて、生徒自身が読み直すだけでなく、推敲の手引きなどを基にして、互いに修正したり訂正したりするような活動を授業に位置付けていますか。
 - 必要な条件や情報を教材から抜き出し、整理した上で目的に応じて再構成するような学習活動を授業に位置付けていますか。

- ◆ 3 文章に表れている書き手のものの見方や考え方を捉え、自分の考えを広くしたり、文章とグラフの関係を考えながら内容を捉えたりする力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 「指導事項」「言語活動」「単元を中心とする思考操作」を明示した学習課題を設定し、生徒が自分の問いをもって読み進めることができるようにしていますか。
 - 少人数のグループで生徒の考えを引き出し、学級全体でつなぐような話し合う活動を授業に位置付けていますか。
 - 文章を図表と関連付けながら読んだり、思考ツールなどを活用して文章を図化したりする活動を授業に位置付けていますか。



他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

(3) 各学年の設問ごとの正答率

[表1] 小学5年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,469	66.6	3.5	82.7	62.7	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	62.1	0.8	82.0	62.0	
	書く	5	62.7	1.3	80.0	60.0	
	読む	5	60.4	2.7	81.0	61.0	▼
	漢字の読み	3	85.2	2.9	85.0	65.0	◎
	漢字の書き	3	65.2	5.0	85.0	65.0	
	語句に関する知識	7	69.9	7.4	84.3	64.3	
評価の観点	①話す・聞く	5	62.1	0.8	82.0	62.0	
	②書く	5	62.7	1.3	80.0	60.0	
	③読む	5	60.4	2.7	81.0	61.0	▼
	④知識・理解・技能	13	72.3	5.8	84.6	64.6	
問題形式	選択式	15	70.1	1.4	84.0	64.0	
	短答式	10	69.2	6.7	84.5	64.5	
	記述式	3	40.8	3.7	70.0	50.0	▼
活用	「活用」に関する問題	3	40.8	3.7	70.0	50.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式	活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む					④知識・理解・技能	十分達成	
1	一	司会の役割を考えて話し合いを始める	○					○					62.2	0.4	85	65	▼
1	二	司会の役割を考えながら話し合いを進める	○					○					85.6	0.3	85	65	◎
1	三	自分の考えと比較しながら聞く	○					○					75.4	0.4	85	65	
1	四	自分の考えを明確にして話す	○					○					47.2	0.7	85	65	▼
1	五	理由を明確にして、話す内容を構成する	○					○			○	○	39.9	2.3	70	50	▼
2	一	目的に応じて、計画的に書く	○					○					37.8	0.4	80	60	▼
2	二	目的に応じて、内容の中心を明確にして書く	○					○					87.9	0.4	85	65	◎
2	三	目的に応じて、書くために必要な事柄を調べるための計画を立てる	○					○					60.2	0.9	80	60	
2	四	目的に応じて、理由を挙げて自分の考えを書く	○					○			○	○	57.8	3.6	70	50	
2	五	間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりする	○					○					69.6	1.2	85	65	
3	一	叙述を基に、登場人物の気持ちの移り変わりを捉える	○					○					89.0	0.5	80	60	◎
3	二	叙述を基に、登場人物の気持ちを捉える	○					○					69.1	0.7	85	65	
4	一	文章の内容を的確に捉える	○					○			○		59.8	4.6	85	65	▼
4	二	文章全体の内容と構成を捉える	○					○			○		59.2	2.2	85	65	▼

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み書き	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式				十分達成	おおむね達成	
4	三	文章の内容を踏まえ、引用や要約をする		○				○			○	○	24.7	5.3	70	50	▼	
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む「熱湯」			○				○				83.0	3.0	85	65		
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む「救助」			○				○				89.3	2.1	85	65	◎	
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む「省く」			○				○				83.3	3.6	85	65		
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く「家族」				○				○			69.2	4.0	85	65		
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く「列車」				○				○			65.3	6.6	85	65		
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く「寒い」				○				○			61.2	4.4	85	65	▼	
5	三1	文の中における主語を捉える					○			○			59.9	2.7	85	65	▼	
5	三2	文の中における主語を捉える					○			○			74.8	2.7	85	65		
5	四	ことわざの意味と使い方について理解する「宝の持ちぐされ」					○			○			80.8	3.9	85	65		
5	五	国語辞典の使い方を理解する					○			○			92.3	3.4	85	65	◎	
5	六①	ローマ字で書く「uta」					○				○		53.1	11.1	85	65	▼	
5	六②	ローマ字で表記されたものを読む「じっけん」					○				○		57.2	15.4	80	60	▼	
5	六③	ローマ字で表記されたものを読む「しろ」					○				○		70.9	12.5	85	65		

[表2] 小学6年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,380	65.0	2.2	79.0	59.0	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	4	72.5	1.2	78.8	58.8	
	書く	6	52.4	3.0	72.5	52.5	▼
	読む	4	58.7	2.6	75.0	55.0	
	語句に関する知識	8	68.4	3.1	83.1	63.1	
評価の観点	①話す・聞く	4	72.5	1.2	78.8	58.8	
	②書く	6	52.4	3.0	72.5	52.5	▼
	③読む	4	58.7	2.6	75.0	55.0	
	④知識・理解・技能	8	68.4	3.1	83.1	63.1	
問題形式	選択式	16	71.9	1.7	80.9	60.9	
	短答式	1	32.8	2.7	80.0	60.0	▼
	記述式	3	38.9	4.9	68.3	48.3	▼
活用	「活用」に関する問題	8	55.7	2.5	73.1	53.1	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
A 問題	1	相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話す	○				○				○		90.1	0.0	85	65	◎
	2	自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える		○				○			○		71.7	0.2	80	60	
	3	目的に応じて必要な情報を捉える			○				○		○		73.0	0.1	80	60	
	4	登場人物の心情について、情景描写を基に捉える			○				○		○		72.0	0.2	85	65	
	5	文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く			○					○			32.8	2.7	80	60	▼
	6	日常生活で使われている慣用語の意味を理解し、使う			○				○		○		90.5	0.7	80	60	◎
	7	相手や場面に応じて適切に敬語を使う			○				○		○		60.7	1.5	80	60	
	8	ア 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う			○				○		○		74.8	3.2	85	65	
	8	イ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う			○				○		○		82.8	4.0	85	65	
	8	ウ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う			○				○		○		83.5	4.0	85	65	
8	エ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う			○				○		○		67.5	4.3	85	65		
8	オ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う			○				○		○		54.6	4.5	85	65	▼	
B 問題	1	話し合いの参加者として、質問の意図を捉える	○				○				○		81.6	0.0	80	60	◎
	1	二 計画的に話し合うために、司会の役割について捉える	○				○				○		74.1	0.2	80	60	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等				評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待 正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式				十分達成	おおむね達成	
1	三	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる	○	○								○	○	44.3	4.5	70	50	▼
2	一	目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える		○						○			○	56.6	0.9	75	55	
2	二	目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く		○								○	○	30.4	1.8	70	50	▼
2	三	推薦するためには、他のものと比較して書くことで、よさが伝わることを捉える		○						○			○	69.1	2.1	75	55	
3	一	目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む			○					○			○	47.7	1.8	70	50	▼
3	二	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしなが読む	○	○									○	42.0	8.5	65	45	▼

[表3] 中学1年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

県	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,033	69.5	3.4	82.7	62.7	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	74.4	0.5	82.0	62.0	
	書く	5	60.0	2.5	80.0	60.0	
	読む	5	68.2	2.1	80.0	60.0	
	漢字の読み	5	73.2	2.7	85.0	65.0	
	漢字の書き	5	64.3	9.8	85.0	65.0	▼
	語句に関する知識	7	74.7	2.9	83.6	63.6	
評価の観点	①話す・聞く	5	74.4	0.5	82.0	62.0	
	②書く	5	60.0	2.5	80.0	60.0	
	③読む	5	68.2	2.1	80.0	60.0	
	④知識・理解・技能	17	71.2	4.9	84.4	64.4	
問題形式	選択式	17	75.3	1.6	83.2	63.2	
	短答式	11	68.5	6.0	85.0	65.0	
	記述式	4	47.6	3.7	73.8	53.8	▼
活用	「活用」に関する問題	3	50.0	3.8	71.7	51.7	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式	活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況	
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む					④知識・理解・技能	十分達成		おおむね達成
1	一	司会の役割に基づいて計画的に話し合う	○					○						87.6	0.2	85	65	◎
1	二	司会の役割を考えながら話し合う	○					○						82.3	0.3	85	65	
1	三	目的や意図に応じて、発言の構成を工夫しながら場に応じた適切な言葉遣いで話す	○					○						77.6	0.3	85	65	
1	四	発言の意図をはっきりさせながら話し合う	○					○						75.4	0.6	85	65	
1	五	自分の立場を明確にして、理由を挙げながら話す	○					○			○	○	48.9	1.0	70	50	▼	
2	一	表現したものを確かめ、よりよい表現に書き直す	○						○					65.5	3.3	85	65	
2	二	グラフを基にして、自分の考えが伝わるように書く	○					○						67.4	0.4	80	60	
2	三	相手が読んで理解しやすいように、よりよい表現に書き直す	○						○		○			40.3	3.5	80	60	▼
2	四	文章全体の構成の効果を考えて、自分の考えを明確に表現する	○						○					85.5	1.2	85	65	◎
2	五	資料にある文を引用して、自分の考えが伝わるように書く	○						○		○	○	41.2	4.4	70	50	▼	
3	一	叙述を基に場面の描写を捉える	○						○					78.8	0.8	85	65	
3	二	登場人物の心情を表している描写を捉える	○						○					77.4	1.0	80	60	
4	一	接続語に注意して読み、事実と事実の関係を捉える	○						○					62.9	1.2	80	60	
4	二	文章の内容を的確に押さえる	○						○					62.3	1.5	80	60	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式	
4	三	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、様式に合わせてまとめる		○					○			○	○	59.8	6.1	75	55	
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字) 「覚める」			○				○		○			95.3	1.2	85	65	◎
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語) 「復旧」			○				○		○			90.9	1.6	85	65	◎
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字) 「経る」			○				○		○			60.2	2.6	85	65	▼
5	一4	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語) 「帰省」			○				○		○			53.2	4.2	85	65	▼
5	一5	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語) 「散布」			○				○		○			66.3	4.1	85	65	
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字) 「保つ」				○			○		○			79.7	10.4	85	65	
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字) 「敗れた」				○			○		○			65.9	5.8	85	65	
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語) 「快晴」				○			○		○			58.6	10.3	85	65	▼
5	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語) 「夕刊」				○			○		○			52.3	14.8	85	65	▼
5	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語) 「建築」				○			○		○			65.0	7.8	85	65	
5	三1	熟語の構成について理解する「無」					○		○		○			93.3	2.3	85	65	◎
5	三2	熟語の構成について理解する「未」					○		○		○			92.6	2.4	85	65	◎
5	三3	熟語の構成について理解する「不」					○		○		○			92.5	2.4	85	65	◎
5	四	漢字の由来について理解する「上」					○		○		○			42.3	3.3	80	60	▼
5	五1	文の中における主語を捉える					○		○		○			82.3	3.2	85	65	
5	五2	文の中における主語を捉える					○		○		○			53.9	3.4	85	65	▼
5	六	ことわざの意味と使い方を理解する「絵にかいたもち」					○		○		○			66.3	3.4	80	60	

[表4] 中学2年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,038	59.1	8.4	69.7	49.7	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	65.4	3.0	68.0	48.0	
	書く	5	61.2	3.8	67.0	47.0	
	読む	5	48.7	7.3	66.0	46.0	
	漢字の読み	5	50.7	11.2	73.0	53.0	▼
	漢字の書き	5	60.6	19.8	70.0	50.0	
	語句に関する知識	6	66.4	5.8	73.3	53.3	
評価の観点	①話す・聞く	5	65.4	3.0	68.0	48.0	
	②書く	5	61.2	3.8	67.0	47.0	
	③読む	5	48.7	7.3	66.0	46.0	
	④知識・理解・技能	16	59.7	11.9	72.2	52.2	
問題形式	選択式	10	64.3	2.0	70.5	50.5	
	短答式	15	58.4	12.3	72.0	52.0	
	記述式	6	52.3	9.4	62.5	42.5	
活用	「活用」に関する問題	4	44.3	11.3	60.0	40.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式	活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況	
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む					④知識・理解・技能	十分達成		おおむね達成
1	一	取材した材料を基に話題を決める	○					○				○	○	53.2	6.5	60	40	
1	二	相手が言いたいことを確かめ、必要な情報を聞き出す	○					○			○			66.1	0.4	70	50	
1	三	全体と部分に注意して話を構成する	○					○			○			82.9	0.4	70	50	◎
1	四	話題を捉えて相手の発言を注意して聞く	○					○			○			54.4	0.5	70	50	
1	五	相手や場に応じた言葉遣いで話す	○					○			○			70.6	7.1	70	50	◎
2	一	集めた材料を分類、整理して文章を構成する	○					○			○			76.9	0.5	75	55	◎
2	二	表記を確かめて正しい文にする	○					○			○			55.6	2.1	70	50	
2	三	伝えたい事柄について効果的に記述する	○					○			○			65.6	3.8	65	45	◎
2	四	書いた文章の材料の用い方について話し合い、表現の参考にする	○					○			○			57.6	1.7	65	45	
2	五	自分の考えを根拠を明確にして書く	○					○			○	○		50.7	10.6	60	40	
3	一	文章の展開を読み取る	○					○			○			53.8	1.9	70	50	
3	二	中心的な部分と付加的な部分を読み分け、目的に応じて要約する	○					○			○	○		42.8	16.1	60	40	
3	三	文章に表れている書き手のものの見方や考え方を捉え、自分の考えを広くする	○					○			○	○		30.7	12.1	60	40	▼
4	一	登場人物の心情や行動に注意して読む	○					○			○			62.1	3.0	70	50	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	十分達成	
4	二	表現の特徴について、自分の考えをもつ		○					○					54.2	3.6	70	50	
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語) 「縦横」			○				○					63.8	12.6	70	50	
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字) 「類(い)」			○				○					33.6	13.6	70	50	▼
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語) 「設営」			○				○					76.7	5.8	75	55	◎
5	一4	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字) 「快(い)」			○				○					65.4	8.3	75	55	
5	一5	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語) 「養蚕」			○				○					14.2	15.7	75	55	▼
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語) 「精密」				○			○					46.0	22.1	70	50	▼
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字) 「縮(んだ)」				○			○					78.0	15.0	70	50	◎
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字) 「敬(う)」				○			○					53.7	27.1	70	50	
5	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語) 「改善」				○			○					48.3	24.5	70	50	▼
5	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語) 「磁石」				○			○					77.1	10.2	70	50	◎
5	三	文の成分について理解する					○		○					42.0	8.5	70	50	▼
5	四	漢字の成り立ちについて理解する					○		○					61.7	3.4	70	50	
5	五	行書で書かれた文字を、字形を整え、配列などを理解して楷書で書く					○		○					90.7	2.9	75	55	◎
5	六1	歴史的仮名遣いについて理解する					○		○					55.2	8.4	75	55	
5	六2	文語のきまりを知り、古文と現代語訳を読み比べて、内容を理解する					○		○					75.3	7.2	75	55	◎
5	六3	古文を読むときに、主語を押さえながら読む					○		○					73.2	4.7	75	55	

[表5] 中学3年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

県	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,079	70.8	3.2	71.5	51.5	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	6	68.1	3.7	68.3	48.3	
	書く	6	58.9	4.2	67.5	47.5	
	読む	10	61.3	2.3	68.5	48.5	
	漢字の読み	3	97.3	1.1	75.0	55.0	◎
	漢字の書き	3	73.5	16.2	71.7	51.7	◎
	語句に関する知識	16	70.6	2.8	72.8	52.8	
評価の観点	①話す・聞く	6	68.1	3.7	68.3	48.3	
	②書く	6	58.9	4.2	67.5	47.5	
	③読む	10	61.3	2.3	68.5	48.5	
	④知識・理解・技能	22	74.6	4.4	73.0	53.0	◎
問題形式	選択式	27	73.2	0.6	72.8	52.8	◎
	短答式	11	73.2	8.1	71.8	51.8	◎
	記述式	3	40.3	9.3	58.3	38.3	
活用	「活用」に関する問題	9	56.2	3.3	66.1	46.1	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式	活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む					④知識・理解・技能	十分達成	
A 問題	1	—	話の論理的な構成や展開などに注意して聞く	○						○			87.5	0.1	70	50	◎
	2	—	書こうとする事柄のまとまりや順序を考えて文章を構成する		○					○			89.6	0.3	75	55	◎
	2	二	伝えたい事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように書く		○					○			60.4	3.2	70	50	
	3	—	文脈の中における語句の意味を理解する			○				○			87.2	0.2	75	55	◎
	3	二	場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する			○				○			79.7	0.2	70	50	◎
	4	—	書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分に表されているかを検討する		○					○			60.1	0.2	75	55	
	4	二	段落相互の関係に注意し、読みやすく分かりやすい文章にする		○					○			76.7	0.3	70	50	◎
	5	—	段落が文章全体の中で果たす役割を捉え、内容の理解に役立てる			○				○			71.4	0.4	70	50	◎
	5	二	文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える			○				○			59.5	0.3	75	55	
	6	—	話合いの話題や方向を捉える		○					○			70.9	0.7	75	55	
	6	二	話合いの話題や方向を捉えて的確に話す		○					○			59.2	14.1	65	45	
	7	—	語句の辞書的な意味を踏まえて文脈上の意味を捉える				○			○			86.2	0.6	70	50	◎
	7	二	接続詞の働きについて理解する				○			○			87.2	1.0	75	55	◎
	8	—1	文脈に即して漢字を正しく書く				○			○			77.1	13.9	70	50	◎

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	十分達成	
3	一	場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する		○					○		○		○	77.9	0.4	70	50	◎	
3	二	登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てる		○					○		○		○	64.9	0.4	70	50		
3	三	相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く	○	○		○		○	○	○		○	○	45.6	13.5	60	40		

(4) 地域別の状況

- 県内5地域の国語の学年別平均正答率の対県比は[表6]のとおりで、依然として地域間の学力差はみられる状況にあるが、5学年中3学年で、昨年度と比べて地域差が縮小している。
- 学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況は、学年によって差はあるものの、全ての学年・地域で、「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ12]

[表6] 県内5地域における学年別平均正答率の対県比

学年・教科	実施年度	対県比(地域平均正答率/県平均正答率)					地域差	
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津		
小学校5年生	国語	H30	1.01	0.99	0.99	1.01	0.98	縮 0.03
	H29	1.03	0.97	0.95	1.00	1.06	▲ 0.11	
小学校6年生	国語	H30	1.00	1.02	0.98	1.01	0.97	縮 0.05
	H29	1.01	1.02	0.96	0.98	1.02	0.06	
中学校1年生	国語	H30	0.98	1.02	0.99	1.02	0.99	縮 0.04
	H29	1.00	1.02	0.97	1.01	0.99	0.05	
中学校2年生	国語	H30	0.99	1.05	0.96	1.01	0.97	拡 0.09
	H29	1.00	1.02	0.97	1.01	0.95	0.07	
中学校3年生	国語	H30	0.99	1.04	0.97	1.00	1.00	拡 0.07
	H29	1.00	1.03	0.97	0.99	1.00	0.06	

※ 「対県比」は、県平均正答率を1.00として算出

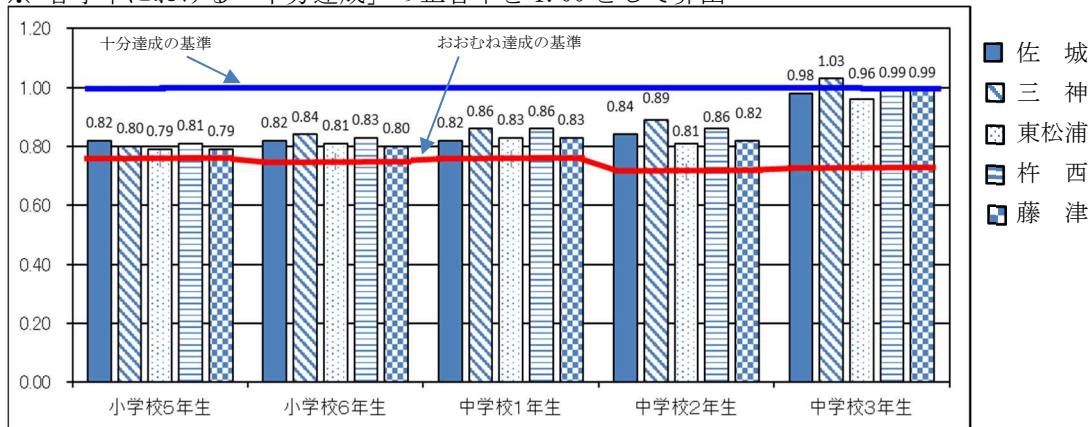
※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「拡」は、平成29年度調査より地域差が拡大した学年を、「縮」は縮小した学年を示す

[グラフ12] 県内5地域における学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況

※ 各学年における「十分達成」の正答率を1.00として算出



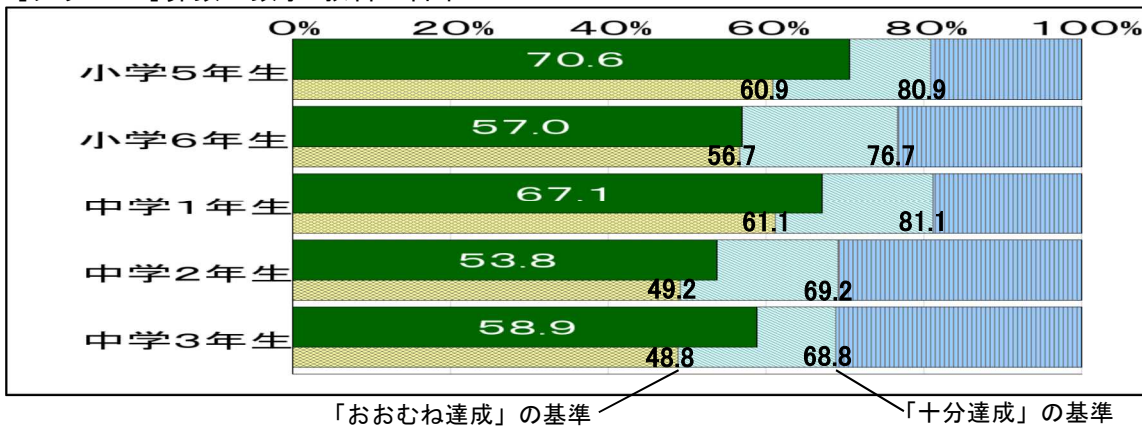
※ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐城	佐賀市、多久市、小城市
三神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤津	鹿島市、嬉野市、太良町

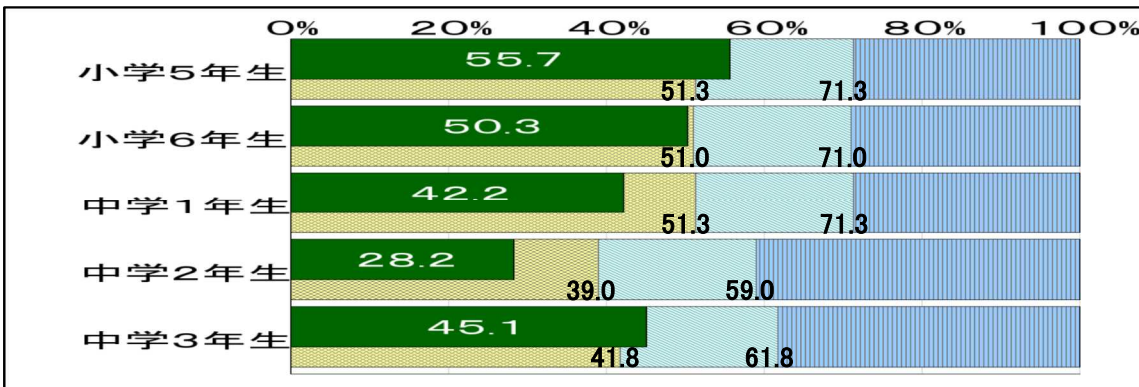
(1) 結果の概要

- 教科正答率は、小・中学校共に全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ 13]
- 「活用」に関する問題については、小学6年生、中学1年生、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ 14]
- 観点別に見ると、全ての観点について、小学5年生と中学3年生で「おおむね達成」の基準を上回っている。「数量や図形についての(数学的な)技能」「数量や図形(など)についての知識・理解」については、小・中学校共に全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「数学的な考え方(見方や考え方)」については、小学6年生、中学1年生、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ 15~17]
- 内容・領域別に見ると、全ての領域について、小学5年生、中学1年生、中学3年生で「おおむね達成」の基準を上回っている。「数量関係」については、小学6年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。「図形」「資料の活用」については、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ 18~22]

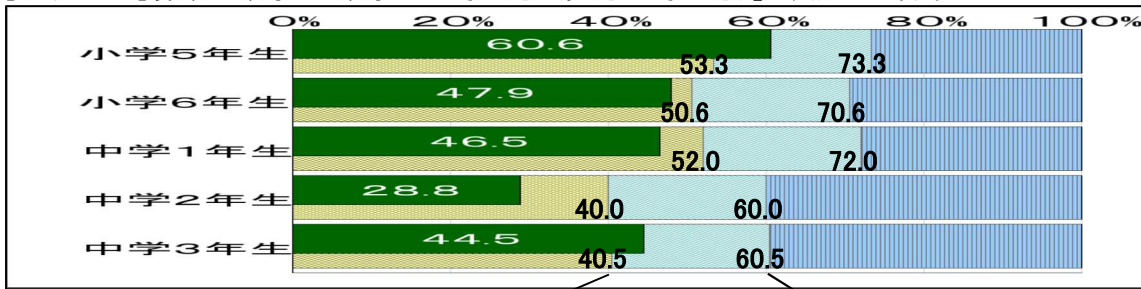
[グラフ 13] 算数・数学 教科正答率



[グラフ 14] 算数・数学 「活用」に関する問題の正答率



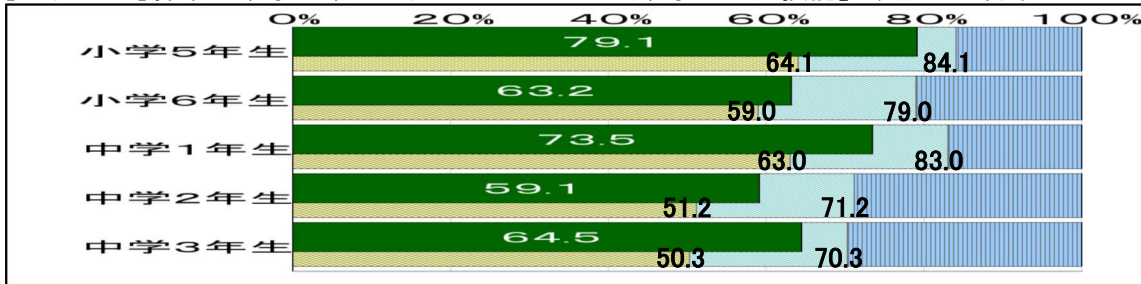
[グラフ15]算数・数学 「数学的な考え方（見方や考え方）」観点の正答率



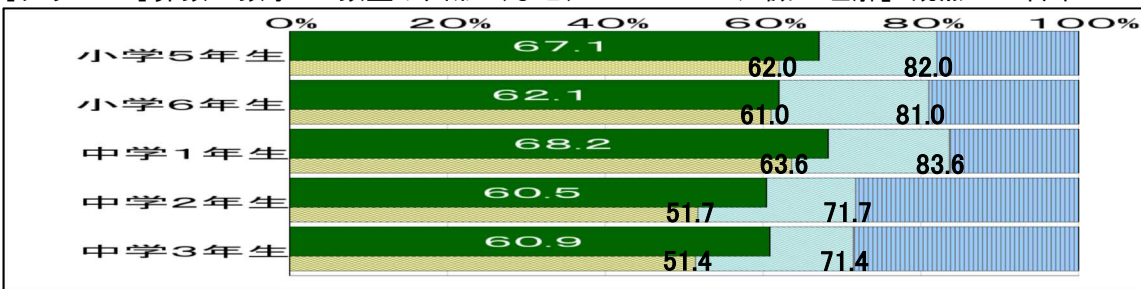
「おおむね達成」の基準

「十分達成」の基準

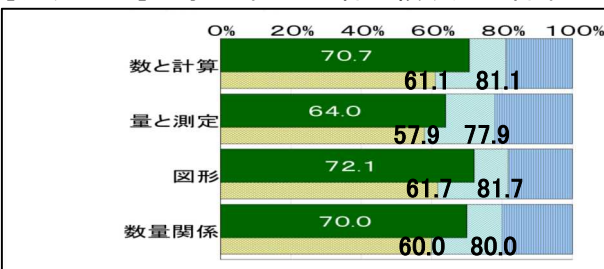
[グラフ16]算数・数学「数量や図形についての（数学的な）技能」観点の正答率



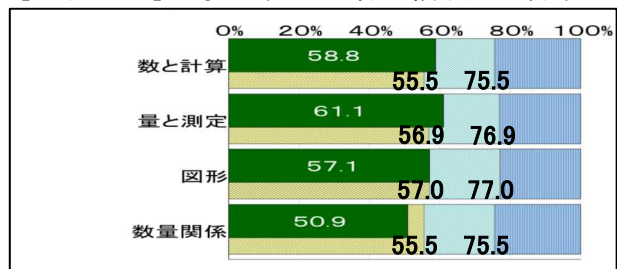
[グラフ17]算数・数学 「数量や図形（など）についての知識・理解」観点の正答率



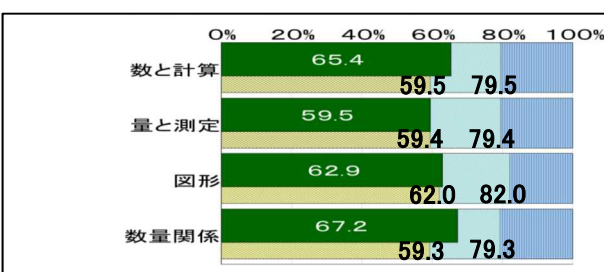
[グラフ18]小学5年生 内容・領域別正答率



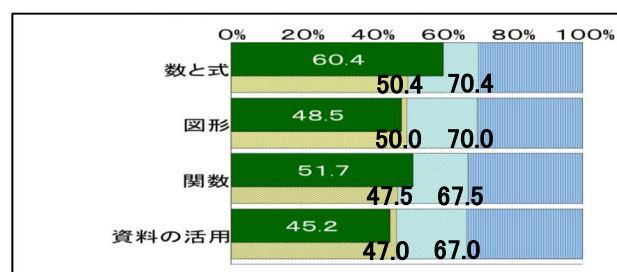
[グラフ19]小学6年生 内容・領域別正答率



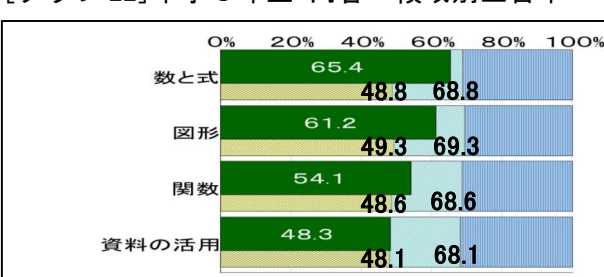
[グラフ20]中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ21]中学2年生 内容・領域別正答率



[グラフ22]中学3年生 内容・領域別正答率



(2) 成果と課題及び指導改善のポイント

小学校算数（小学5年生、小学6年生、中学1年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 小数や分数の加法、整数や分数の除法、分数の乗法の計算の基礎的な技能が身に付いている。
(小学5年生 $\square 1$ (1)(2)(4)、中学1年生 $\square 1$ (1)(2)(3)(4))
- ◇ 分度器を用いて角の大きさを求めたり、 180° の角の大きさを理解したりすることができている。
(小学5年生 $\square 9$ (1)、小学6年生A $\square 5$ (1))
- ◇ 立方体の展開図、点対称な図形における対応する辺の位置関係、線対称な図形における対応する点の位置関係を理解することができている。
(小学5年生 $\square 8$ 、中学1年生 $\square 4$ (1)(2))
- ◆ 1 整数の除法で、商、除数、余りの大きさの関係や、小数の除法の意味の理解に課題が見られる。
(小学5年生 $\square 2$ (1)、小学6年生A $\square 2$)
- ◆ 2 円周率の意味、直径の長さとの関係、円周の長さの求め方の理解に課題が見られる。
(小学6年生A $\square 7$ (1)(2)、中学1年生 $\square 6$ (3))
- ◆ 3 示された情報を解釈し、判断した理由について根拠を明確にして説明することに課題が見られる。
(小学6年生B $\square 5$ (1)、中学1年生 $\square 11$)

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 整数の除法で、商、除数、余りの大きさの関係や、小数の除法の意味を理解することができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 問題場面を具体物や図と関連付けながら立式したり、その結果を確かめたりする活動を授業に位置付けていますか。
 - 児童が立てた式を基に、「どうしてその式を立てることができるか」ということを、数、式、図や言葉等と関連付けながら説明する活動を授業に位置付けていますか。
 - 正しい式だけでなく、誤った式も意図的に示すなど、どうしてその式では正しくないのかを説明する活動を授業に位置付けていますか。
- ◆ 2 円周率の意味、直径の長さとの関係、円周の長さの求め方の意味を理解することができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 円について、「直径の長さとの間に何か関係がありそうだ」と気付かせ、円周の長さは直径の長さの何倍になるかと見通しを持たせてから、直径の長さとの関係を調べる活動を授業に位置付けていますか。
 - 直径の長さとの関係を調べる活動では、どのような大きさの円についても、円周の長さの直径の長さに対する割合が一定であることを見いだす活動を授業に位置付けていますか。
- ◆ 3 示された情報を解釈し、判断した理由について根拠を明確にして説明することができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 示された情報を図に表したり問題解決に関係のある数量を取り出して表に整理したりして、複数の情報を関連付けて問題解決に必要な数量を見いだす活動を授業に位置付けていますか。
 - 式と答えだけでなく、立てた式の根拠や求めた数値が何を表しているかを説明する活動を授業に位置付けていますか。



他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。


中学校数学（中学2年生、中学3年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 文字式の加法と減法の計算や単項式どうしの除法の計算をする技能が身に付いている。
(中学2年生 $\boxed{1}$ (3)、中学3年生A $\boxed{2}$ (2))
- ◇ 空間における直線と直線との位置関係や、多角形の内角の和の性質を理解することができている。
(中学2年生 $\boxed{6}$ (3)、中学3年生A $\boxed{6}$ (2))
- ◇ ヒストグラムから度数を読み取ったり、与えられた資料から中央値を求めたりすることができている。
(中学2年生 $\boxed{11}$ (1)、中学3年生A $\boxed{14}$ (2))
- ◆1 錐体の体積は、それと底面が合同で高さが等しい柱体の体積の $\frac{1}{3}$ であることへの理解や、錐体の体積を求める技能に一部課題が見られる。
(中学2年生 $\boxed{6}$ (5)、中学3年生A $\boxed{5}$ (4))
- ◆2 反比例や一次関数について、表、式、グラフを相互に関連付けて理解することに課題が見られる。
(中学2年生 $\boxed{8}$ (4)、中学3年生A $\boxed{11}$ (2))
- ◆3 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明したり、事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明したりすることに課題が見られる。
(中学2年生 $\boxed{5}$ (3)、中学3年生B $\boxed{2}$ (2) $\boxed{3}$ (3))

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック してみましょう。）

- ◆1 錐体の体積が、それと底面が合同で高さが等しい柱体の体積の $\frac{1}{3}$ であることを理解し、錐体の体積を求めることができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 底面積と高さが等しい柱体と錐体の体積の関係を予想し、その予想が正しいかどうかを、模型を用いた実験で確かめるなど、実感を伴って理解することができるような活動を授業に位置付けていますか。
 - ある錐体の体積を求めるために、どのような見取図をかいて、どの要素が分かればよいかなど、体積を求めるまでの見通しを持つことができるような活動を授業に位置付けていますか。
- ◆2 反比例や一次関数について、表、式、グラフを相互に関連付けて理解することができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 数量の関係を表に表した場合、それを式やグラフに表すことによって表には表れていない値の組を求めさせたり、式に表した場合、それを表やグラフに表すことによって変化や対応の様子を具体的に捉えさせたりして、それぞれの表現のよさを考える活動を授業に位置付けていますか。
 - 表、式、グラフを相互に関連付けて理解することができるように、ある一つの関数関係を例として、表、式、グラフにまとめる活動を授業に位置付けていますか。
- ◆3 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明したり、事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明したりすることができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 実生活における問題を、数学を活用して解決する場面を設定し、具体的な数を用いて式に表す活動や、表した式の意味を読み取る活動を授業に位置付けていますか。
 - 説明の構想を立てる場面において、問題解決の見通しが持てるよう、どのような根拠を示せばよいのかを考える活動を授業に位置付けていますか。
 - 自分の考えを持たせた上で、自分の説明と他者の説明を比較し、不足する表現を加えさせるなど、よりよい説明にする活動を授業に位置付けていますか。
 - 事象について、グラフなどの用いるものをはっきりとさせ、どのように用いるか説明する場面を設定し、数学的な表現を用いて説明し合う活動を授業に位置付けていますか。

 他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

(3) 各学年の設問ごとの正答率

[表7] 小学5年生 算数 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,478	70.6	2.2	80.9	60.9	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と計算	9	70.7	2.4	81.1	61.1	
	量と測定	7	64.0	2.2	77.9	57.9	
	図形	6	72.1	2.3	81.7	61.7	
	数量関係	7	70.0	2.7	80.0	60.0	
評価の観点	①考え方	6	60.6	4.4	73.3	53.3	
	②技能	11	79.1	1.2	84.1	64.1	
	③知識・理解	10	67.1	2.0	82.0	62.0	
問題形式	選択式	6	66.5	1.1	80.8	60.8	
	短答式	19	73.9	2.0	82.4	62.4	
	記述式	2	51.2	7.3	67.5	47.5	
活用	「活用」に関する問題	4	55.7	5.6	71.3	51.3	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	①考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
1	(1)	1/100の位までの小数の加法の計算をすることができる	○				○		○			92.9	0.1	85	65	◎
1	(2)	除数が2位数で、被除数が3位数の除法の計算をすることができる	○				○		○			85.2	1.2	85	65	◎
1	(3)	乗数が2位数で、被乗数が1/100の位までの小数の乗法の計算をすることができる	○				○		○			58.2	0.7	85	65	▼
1	(4)	同分母の分数の減法の計算をすることができる	○				○		○			90.3	0.7	85	65	◎
1	(5)	四則が混合し、()を用いた式の計算をすることができる			○		○		○			76.6	1.1	80	60	
2	(1)	整数の除法で、商、除数、余りの大きさの関係を理解している	○				○		○			60.5	6.0	85	65	▼
2	(2)	億の単位について知り、十進位取り記数法について理解している	○				○		○			60.5	1.0	80	60	
2	(3)	結合法則を理解している			○		○		○			66.6	2.1	80	60	
2	(4)	長方形の面積の公式を理解し、面積と縦の長さから、横の長さを求めることができる			○		○		○			89.9	0.9	85	65	◎
3	(1)	数を四捨五入して、上から2桁の概数で表すことができる	○				○		○			87.3	0.9	85	65	◎
3	(2)	条件に適した長さや重さの単位について理解している	○				○		○			70.1	0.2	80	60	
3	(3)	面積についての感覚を身に付けている	○				○		○			20.5	0.7	80	60	▼
3	(4)	長さの単位について理解している	○				○		○			84.1	0.7	85	65	
4		示された情報を基に、貯金箱に入っている50円玉の枚数の求め方を筋道を立てて説明することができる	○	○			○		○	○		50.8	7.0	65	45	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	① 考え方	② 技能	③ 知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
5	(1)				○					○		40.0	1.3	80	60	▼
5	(2)				○					○		75.4	1.7	80	60	
6					○					○		73.5	0.9	85	65	
7	(1)				○					○		79.5	1.0	85	65	
7	(2)				○					○		71.0	2.1	80	60	
8					○					○		88.7	0.8	80	60	◎
9	(1)				○					○		86.7	0.7	85	65	◎
9	(2)				○					○		65.7	2.1	75	55	
10					○	○				○	○	50.2	3.7	75	55	▼
11					○					○	○	70.2	4.1	75	55	
12							○				○	51.6	7.5	70	50	
13							○			○		89.9	4.5	85	65	◎
14					○					○		69.9	5.4	85	65	

[表8] 小学6年生 算数 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,333	57.0	4.0	76.7	56.7	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と計算	11	58.8	4.5	75.5	55.5	
	量と測定	8	61.1	4.2	76.9	56.9	
	図形	5	57.1	3.6	77.0	57.0	
	数量関係	10	50.9	3.9	75.5	55.5	▼
評価の観点	①考え方	9	47.9	8.4	70.6	50.6	▼
	②技能	5	63.2	2.2	79.0	59.0	
	③知識・理解	10	62.1	0.9	81.0	61.0	
問題形式	選択式	13	58.0	1.9	78.1	58.1	▼
	短答式	6	67.4	1.8	79.2	59.2	
	記述式	5	42.0	11.9	70.0	50.0	▼
活用	「活用」に関する問題	10	50.3	7.5	71.0	51.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

A
問題

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	①考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
1	(1) 除法で表すことができる二つの数量の関係を理解している	○		○				○			55.7	1.1	85	65	▼	
1	(2) 1に当たる大きさを求める問題場における数量の関係を理解し、数直線上に表すことができる	○				○		○			67.0	1.6	80	60		
1	(3) 1に当たる大きさを求める問題では、除数が小数である場合でも除法を用いることを理解している	○		○			○	○			65.6	1.4	80	60		
2	小数の除法の意味について理解している	○					○	○			41.0	0.6	75	55	▼	
3	十進位取り記数法で表された数の大小について理解している	○					○	○			74.1	0.8	85	65		
4	(1) 異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解している		○					○	○		74.4	0.3	85	65		
4	(2) 単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解している		○					○	○		50.7	0.6	80	60	▼	
5	(1) 180°の角の大きさを理解している		○					○	○		95.4	0.5	85	65	◎	
5	(2) 180°や360°を基に分度器を用いて、180°よりも大きい角の大きさを求めることができる		○					○	○		62.2	0.7	80	60		
6	示された表現方法を基に、空間の中にあるものの位置を表現することができる			○				○	○		75.9	1.8	80	60		
7	(1) 円周率の意味について理解している			○				○	○		41.4	1.9	80	60	▼	
7	(2) 直径の長ささと円周の長さの関係について理解している			○	○			○	○		50.4	2.1	80	60	▼	
8	百分率を求めることができる				○			○	○		48.2	2.7	80	60	▼	
9	折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることができる				○			○	○		62.6	4.3	75	55		

設問別集計結果

B
問題

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」 に関する問題	県 正答率	県 無解答率	期待 正答率		到達 状況
		数 と計 算	量 と測 定	図 形	数 量 関 係	① 考 え 方	② 技 能	③ 知 識 ・ 理 解	選 択 式	短 答 式				記 述 式	十 分 達 成	
1	(1)			○			○		○		○	71.7	0.1	75	55	
1	(2)		○	○			○			○	○	46.0	12.1	70	50	▼
2	(1)	○	○		○		○			○	○	73.2	0.9	75	55	
2	(2)	○	○		○		○			○	○	48.4	1.3	70	50	▼
3	(1)				○		○			○	○	19.7	18.6	70	50	▼
3	(2)				○		○		○		○	21.9	1.2	70	50	▼
4	(1)	○			○		○			○	○	63.3	5.6	70	50	
4	(2)	○					○			○	○	57.1	10.5	70	50	
5	(1)	○	○				○			○	○	38.5	17.7	70	50	▼
5	(2)	○					○		○		○	62.9	8.1	70	50	

[表9] 中学1年生 数学 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,028	67.1	1.5	81.1	61.1	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と計算	11	65.4	1.6	79.5	59.5	
	量と測定	8	59.5	1.9	79.4	59.4	
	図形	5	62.9	2.2	82.0	62.0	
	数量関係	7	67.2	1.7	79.3	59.3	
評価の観点	①考え方	5	46.5	3.7	72.0	52.0	▼
	②技能	15	73.5	1.1	83.0	63.0	
	③知識・理解	7	68.2	0.9	83.6	63.6	
問題形式	選択式	7	58.9	0.8	82.1	62.1	▼
	短答式	18	73.3	1.4	81.9	61.9	
	記述式	2	40.1	5.5	70.0	50.0	▼
活用	「活用」に関する問題	4	42.2	3.6	71.3	51.3	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	①考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
1	(1) 被乗数、乗数が共に真分数の乗法の計算ができる	○				○			○			94.3	0.5	85	65	◎
1	(2) 被乗数が帯分数、乗数が真分数の乗法の計算ができる	○				○			○			89.6	0.7	85	65	◎
1	(3) 被除数、除数が共に真分数の除法の計算ができる	○				○			○			95.3	0.7	85	65	◎
1	(4) 被除数が真分数、除数が小数の除法の計算ができる	○				○			○			89.9	1.0	80	60	◎
1	(5) 減法と除法が混合した分数の計算をすることができる	○				○			○			50.0	1.4	80	60	▼
2	(1) 1に当たる大きさを求めるために、除法が用いられることを理解している	○					○		○			58.4	2.0	80	60	▼
2	(2) 除数が分数や小数の除法において、被除数と商の大きさとの関係について理解している	○					○		○			53.5	2.1	80	60	▼
2	(3) 分数の大小を理解している	○					○		○			57.8	0.4	85	65	▼
2	(4) m ³ で表された体積を、cm ³ の単位の式に表すことができる	○					○		○			62.6	0.5	85	65	▼
2	(5) mとcmで表された長さを、mで表すことができる	○					○		○			46.7	1.6	85	65	▼
2	(6) 比と全体の量を基に、部分の量を考えることができる			○			○		○			63.6	3.9	75	55	
2	(7) xやyを用いて数量の関係を式に表すことができる			○			○		○			85.7	0.5	85	65	◎
3	(1) 柱状グラフを読み取ることができる			○			○		○			93.0	0.3	85	65	◎
3	(2) 柱状グラフの特徴を理解している			○			○		○			69.2	0.3	85	65	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	① 考え方	② 技能	③ 知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
4	(1) 点対称な図形における対応する辺の位置関係を理解している			○			○		○		95.0	0.4	85	65	◎	
4	(2) 線対称な図形における対応する点の位置関係を理解している			○			○		○		93.9	0.3	85	65	◎	
5	(1) 台形の面積を求めることができる		○				○		○		80.6	1.1	80	60	◎	
5	(2) 三角柱の体積を求めることができる		○				○		○		75.0	1.6	80	60		
6	(1) 縮図上の長さから実際の長さを計算で求めることができる			○			○		○		38.7	3.7	85	65	▼	
6	(2) 道のりと時間から速さを求めることができる		○				○		○		67.6	2.3	80	60		
6	(3) 円周の長さの求め方を理解している			○			○		○		49.5	0.6	85	65	▼	
6	(4) 分度器を用いて 180° より大きい角の大きさを求めることができる		○				○		○		51.5	0.5	80	60	▼	
7	単位量当たりの大きさに着目して、二つの数量の関係を考えることができる	○	○				○		○	○	54.7	1.9	75	55	▼	
8	落ちや重なりがないように、順序よく整理して調べることができる			○			○		○		82.6	0.8	85	65		
9	示された情報を基に、正しい帯グラフを考えることができる	○		○			○		○	○	33.8	1.4	70	50	▼	
10	長方形と正方形を2等分する考えを基に、示された式が正しい理由を説明することができる		○	○			○			○	37.6	6.0	70	50	▼	
11	示された情報を解釈し、料金の合計が安くなる場合を選択し、その根拠を言葉や式を用いて説明することができる	○		○			○			○	42.6	5.0	70	50	▼	

[表10] 中学2年生 数学 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,044	53.8	8.8	69.2	49.2	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と式	14	60.4	8.1	70.4	50.4	
	図形	7	48.5	10.1	70.0	50.0	▼
	関数	6	51.7	7.5	67.5	47.5	
	資料の活用	5	45.2	10.5	67.0	47.0	▼
評価の観点	①見方や考え方	6	28.8	21.7	60.0	40.0	▼
	②技能	17	59.1	7.4	71.2	51.2	
	③知識・理解	9	60.5	2.9	71.7	51.7	
問題形式	選択式	10	61.0	2.7	71.5	51.5	
	短答式	18	55.5	9.0	70.3	50.3	
	記述式	4	27.9	23.4	58.8	38.8	▼
活用	「活用」に関する問題	5	28.2	22.4	59.0	39.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と式	図形	関数	資料の活用	①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
1	(1)	正の数と負の数の計算をすることができる	○					○				97.0	0.4	75	55	◎
1	(2)	指数を含む、正の数と負の数の計算をすることができる	○					○				78.1	0.9	75	55	◎
1	(3)	文字式の加法と減法の計算をすることができる	○					○				78.0	2.1	75	55	◎
1	(4)	分配法則を用いた文字式の計算をすることができる	○					○				63.3	4.7	70	50	
2	(1)①	自然数の意味を理解している	○					○				82.5	0.7	75	55	◎
2	(1)②	正の数と負の数にまで拡張した数の範囲で、数の大小関係を理解している	○					○				73.6	0.6	75	55	
2	(2)	文字式に数を代入して式の値を求めることができる	○					○				64.7	5.3	70	50	
2	(3)①	一元一次方程式を解くことができる	○					○				74.2	4.8	75	55	
2	(3)②	分数を含む一元一次方程式を解くことができる	○					○				41.2	16.6	70	50	▼
3		具体的な事象における数量の関係を捉え、比例式をつくることができる	○					○		○	29.6	18.4	60	40	▼	
4		数量の大小関係を不等式に表すことができる	○					○				65.9	1.0	70	50	
5	(1)	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	○					○				33.6	7.0	70	50	▼
5	(2)	与えられた説明の筋道を読み取り、事象を数学的に表現することができる	○					○				31.5	18.1	65	45	▼
5	(3)	事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができる	○					○		○	32.6	33.3	60	40	▼	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と式	図形	関数	資料の活用	①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
6	(1)		○				○		○		42.8	15.1	70	50	▼	
6	(2)		○				○		○		53.9	3.1	70	50		
6	(3)		○				○		○		83.1	1.7	75	55	◎	
6	(4)		○				○		○		38.4	7.8	70	50	▼	
6	(5)		○				○		○		31.9	13.9	70	50	▼	
7	(1)		○				○		○		65.7	1.9	75	55		
7	(2)		○				○			○	23.4	26.9	60	40	▼	
8	(1)		○				○		○		63.3	9.3	70	50		
8	(2)		○				○		○		44.5	4.1	70	50	▼	
8	(3)		○				○		○		55.1	8.0	70	50		
8	(4)		○				○		○		45.6	2.9	70	50	▼	
9	(1)		○				○		○		62.1	7.8	65	45		
9	(2)		○				○			○	39.8	12.8	60	40	▼	
10	(1)		○				○		○		27.9	14.1	70	50	▼	
10	(2)		○				○		○		53.0	4.9	70	50		
11	(1)		○				○		○		87.1	6.9	75	55	◎	
11	(2)		○				○			○	15.8	20.7	55	35	▼	
12			○				○		○		42.3	6.0	65	45	▼	

[表11] 中学3年生 数学 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,068	58.9	6.3	68.8	48.8	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と式	16	65.4	6.4	68.8	48.8	
	図形	15	61.2	3.4	69.3	49.3	
	関数	11	54.1	7.3	68.6	48.6	
	資料の活用	8	48.3	10.3	68.1	48.1	
評価の観点	①見方や考え方	10	44.5	15.0	60.5	40.5	
	②技能	18	64.5	7.4	70.3	50.3	
	③知識・理解	22	60.9	1.5	71.4	51.4	
問題形式	選択式	20	59.4	0.9	70.3	50.3	
	短答式	25	64.0	6.7	69.6	49.6	
	記述式	5	31.3	25.8	59.0	39.0	▼
活用	「活用」に関する問題	14	45.1	14.0	61.8	41.8	

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と式	図形	関数	資料の活用	①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
A 問題	1 (1)	数直線上に示された負の整数を読み取ることができる	○					○		○		95.1	0.3	75	55	◎
	1 (2)	絶対値の意味を理解している	○					○		○		63.1	7.2	75	55	
	1 (3)	指数を含む正の数と負の数の計算ができる	○					○		○		67.1	1.1	70	50	
	1 (4)	ある基準に対して反対の方向や性質をもつ数量が正の数と負の数で表されることを理解している	○					○		○		52.7	0.1	70	50	
	2 (1)	数量の大小関係を不等式に表すことができる	○					○		○		47.7	7.7	70	50	▼
	2 (2)	単項式どうしの除法の計算ができる	○					○		○		90.7	2.6	75	55	◎
	2 (3)	文字式に数を代入して式の値を求めることができる	○					○		○		76.7	5.2	70	50	◎
	2 (4)	具体的な場面で関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形することができる	○					○		○		45.5	13.8	70	50	▼
	3 (1)	方程式を解く場面における等式の性質の使い方について理解している	○					○		○		58.2	0.8	70	50	
	3 (2)	簡単な比例式を解くことができる	○					○		○		87.7	4.8	70	50	◎
	3 (3)	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	○					○		○		79.7	4.4	70	50	◎
	3 (4)	着目する必要がある数量を見だし、その数量に着目し、連立二元一次方程式をつくることができる	○					○		○		78.2	1.4	70	50	◎
	4 (1)	ひし形は、線対称な図形であり、点対称な図形でもあることを理解している	○					○		○		65.0	0.3	70	50	
	4 (2)	折り目の線の作図と角の二等分線の関係を理解している	○					○		○		51.6	0.8	70	50	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待 正答率		到達状況
		数と式	図形	関数	資料の活用	①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
4	(3)		○					○				66.5	4.3	70	50	
5	(1)		○					○				69.2	1.5	75	55	
5	(2)		○					○				70.9	2.7	75	55	
5	(3)		○					○				81.8	0.3	75	55	◎
5	(4)		○					○				55.4	0.5	70	50	
6	(1)		○					○				67.5	0.4	70	50	
6	(2)		○					○				74.7	0.4	70	50	◎
7	(1)		○					○				69.3	0.5	70	50	
7	(2)		○					○				77.3	0.6	70	50	◎
8			○					○				46.1	0.7	70	50	▼
9	(1)		○					○				60.0	1.2	70	50	
9	(2)		○					○				46.6	13.5	70	50	▼
9	(3)		○					○				52.5	1.7	70	50	
10			○					○				67.0	3.6	75	55	
11	(1)		○					○				41.1	14.7	70	50	▼
11	(2)		○					○				54.5	1.2	75	55	▼
12			○					○				38.7	1.2	70	50	▼
13			○					○				60.7	2.0	70	50	
14	(1)		○					○				69.0	1.5	75	55	
14	(2)		○					○				77.5	4.7	75	55	◎
15	(1)		○					○				37.6	2.1	70	50	▼
15	(2)		○					○				69.2	10.1	75	55	
B 問題	1	(1)	○					○		○		47.2	10.1	65	45	
	1	(2)	○					○		○		40.7	6.8	65	45	▼

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況	
		数と式	図形	関数	資料の活用	①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成		
1	(3)	不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することができる			○						○	○	34.1	23.0	55	35	▼
2	(1)	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	○							○	○	88.6	4.7	65	45	◎	
2	(2)	事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することができる	○								○	○	30.6	31.2	60	40	▼
2	(3)	3つの計算の順番を入れ替えたときの計算結果を数学的に表現することができる	○							○	○	66.3	2.2	60	40	◎	
3	(1)	事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができる		○						○	○	63.1	0.5	65	45		
3	(2)	グラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈することができる		○						○	○	76.1	7.2	60	40	◎	
3	(3)	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる		○							○	○	34.4	33.9	60	40	▼
4	(1)	証明を振り返り、証明した事柄を基にして、新たな性質を見いだすことができる		○						○	○	51.3	0.8	65	45		
4	(2)	発展的に考え、条件を変えた場合について、証明の一部を書き表すことができる		○							○	○	31.0	10.9	60	40	▼
4	(3)	付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することができる		○							○	○	39.9	26.0	60	40	▼
5	(1)	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる			○					○	○	10.1	24.4	65	45	▼	
5	(2)	里奈さんの計算を解釈し、数学的な表現を用いて説明することができる	○								○	○	17.3	15.4	60	40	▼

(4) 地域別の状況

- 県内5地域の算数・数学の学年別平均正答率の対県比は[表12]のとおりで、依然として地域間の学力差はみられる状況にあるが、5学年中4学年で、昨年度と比べて地域差が縮小している。
- 学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況は、ほとんどの学年・地域で「おおむね達成」の基準を上回っているものの、小学校6年生の2地域と中学校2年生の1地域で、「おおむね達成」の基準に到達していない。[グラフ23]

[表12] 県内5地域における学年別平均正答率の対県比

学年・教科	実施年度	対県比(地域平均正答率/県平均正答率)					地域差	
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津		
小学校5年生	算数	H30	0.99	1.01	1.00	1.01	0.99	縮 0.02
		H29	1.01	0.99	0.97	1.01	1.04	0.07
小学校6年生	算数	H30	1.01	1.01	0.97	1.01	0.99	縮 0.04
		H29	1.02	1.02	0.97	0.98	0.99	0.05
中学校1年生	数学	H30	1.01	1.03	0.97	0.99	0.98	拡 0.06
		H29	1.01	1.02	0.97	1.00	0.97	0.05
中学校2年生	数学	H30	1.01	1.05	0.91	0.99	1.01	▲ 縮 0.14
		H29	1.06	1.00	0.89	0.98	1.03	▲ 0.17
中学校3年生	数学	H30	1.02	1.04	0.94	0.98	1.02	▲ 縮 0.10
		H29	1.01	1.02	0.94	0.98	1.07	▲ 0.13

※ 「対県比」は、県平均正答率を1.00として算出

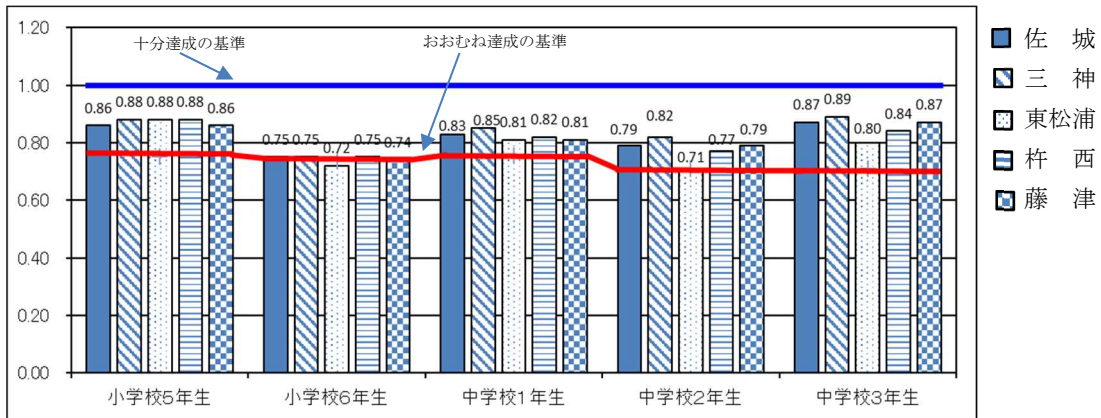
※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「拡」は、平成29年度調査より地域差が拡大した学年を、「縮」は縮小した学年を示す

[グラフ23] 県内5地域における学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況

※ 各学年における「十分達成」の正答率を1.00として算出



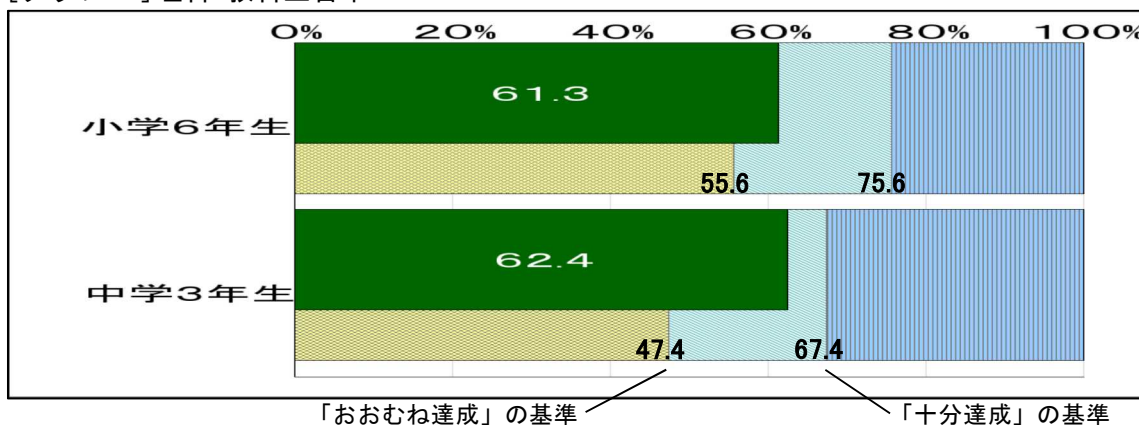
※ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐城	佐賀市、多久市、小城市
三神	鳥栖市、神崎市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤津	鹿島市、嬉野市、太良町

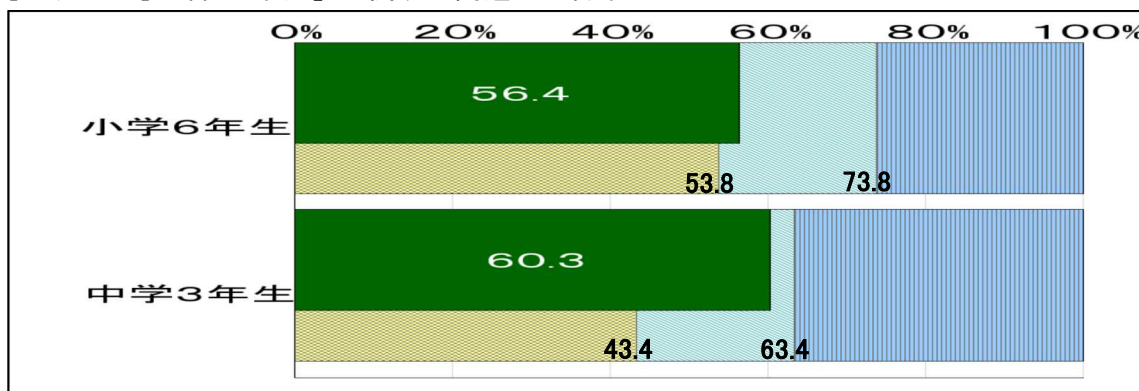
(1) 結果の概要

- 教科正答率は、小学6年生・中学3年生共に「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ 24]
- 「活用」に関する問題については、小学6年生・中学3年生共に「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ 25]
- 観点別に見ると、全ての観点について、小学6年生・中学3年生共に「おおむね達成」の基準を上回っている。特に、小学6年生の「自然事象についての知識・理解」については、「十分達成」の基準を上回っている。[グラフ 26~28]
- 内容・領域別に見ると、全ての内容・領域について、小学6年生・中学3年生共に「おおむね達成」の基準を上回っている。特に、中学3年生の「物理的領域」「生物的領域」については、「十分達成」の基準を上回っている。[グラフ 29、30]

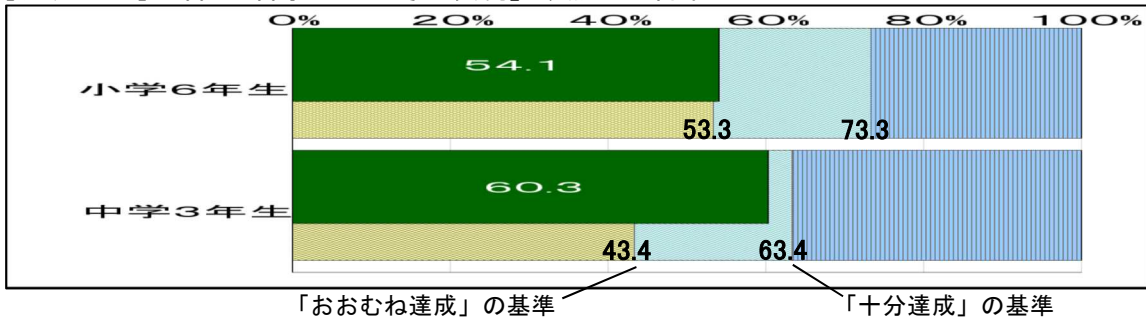
[グラフ 24] 理科 教科正答率



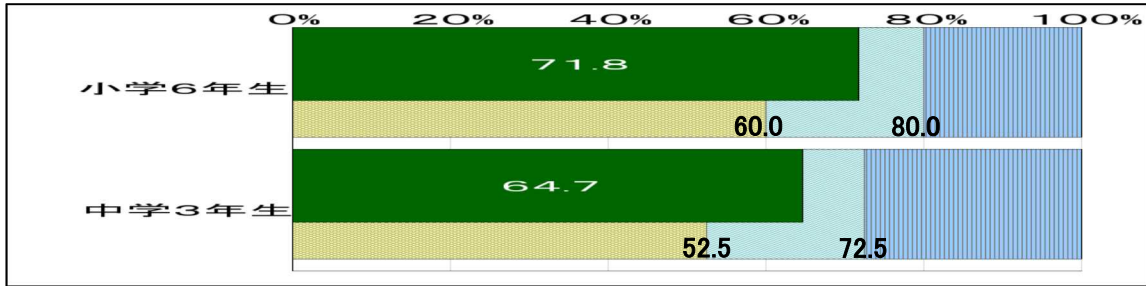
[グラフ 25] 理科 「活用」に関する問題の正答率



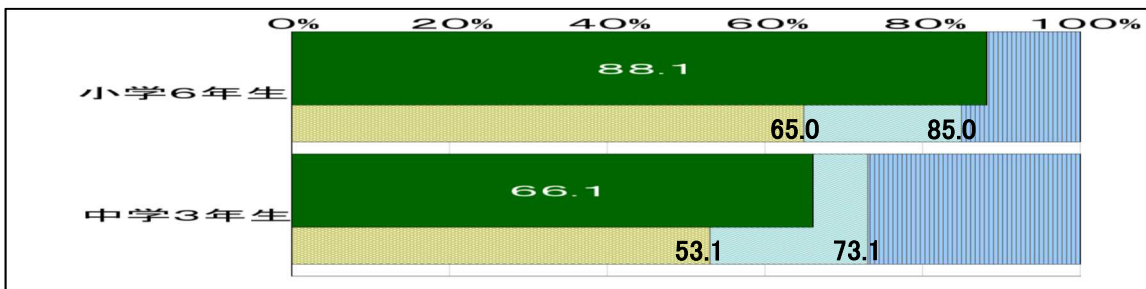
[グラフ 26] 理科 「科学的な思考・表現」 観点の正答率



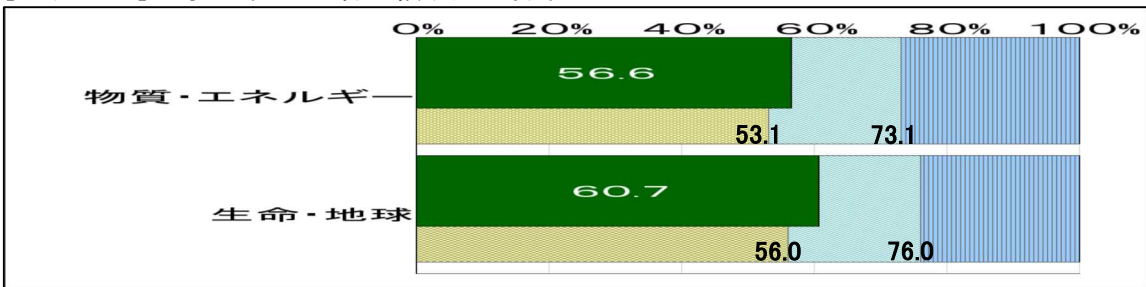
[グラフ 27] 理科 「観察・実験の技能」 観点の正答率



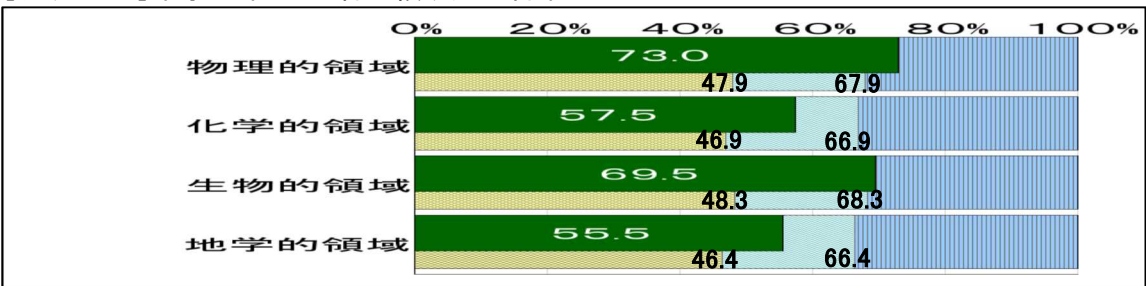
[グラフ 28] 理科 「自然事象についての知識・理解」 観点の正答率



[グラフ 29] 小学6年生 内容・領域別正答率



[グラフ 30] 中学3年生 内容・領域別正答率



(2) 成果と課題及び指導改善のポイント

小学校理科（小学6年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 骨と骨のつなぎ目や堆積作用について、科学的な言葉や概念が身に付いている。 (1)(3)(2)(1)
- ◇ 海水と水道水を区別するために、蒸発させる実験と同体積の重さを量る実験の2つの異なる実験から得られた結果を多面的に分析して考察することができている。 (4)(2)
- ◆ 1 理科に関する知識・技能を、模型や理科における「ものづくり」などに適用することに課題が見られる。 (1)(4)(3)(4)(4)(3)
- ◆ 2 土地の浸食や電気の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想することに課題が見られる。 (2)(2)(3)(2)
- ◆ 3 流れる水の量と地面の削られ方の関係について、より妥当な考えをつくり出すために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述することに課題が見られる。 (2)(3)

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 理科に関する知識・技能を自然の事物・現象に適用する力を身に付けさせるには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 予想をする場面で、学習を通して得た知識や生活経験を、目の前の事象と関係付けて表現する活動を設定していますか。
 - 学習を通して得た知識と、観察、実験の結果から言えることを比較して表現する活動を設定していますか。（例：金属の温まり方で学んだことと、水の温まり方の実験結果から言えることを比較して、「金属と水では、温まり方が違う」ということを表現する活動）
 - 観察、実験などを通して得た内容について、模型や図を用いて説明する活動を設定していますか。
 - 実験の結果から得られた性質や働き、規則性などを活用した「ものづくり」において、実際につくったものが目的に合ったものであるか振り返らせ、必要に応じて作り直すように指導していますか。
- ◆ 2 予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想する力を身に付けさせるには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 学習で解決すべき問題に対する予想をする場面で、児童から出された予想とその根拠について、整理して提示していますか。
 - 観察、実験の前に、児童から出された予想について、どのような実験結果であればその予想が確かめられたと言えるかを表現する活動を設定していますか。
- ◆ 3 より妥当な考えをつくり出すために、実験結果を基に分析して考察する力を身に付けさせるには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 観察、実験の後、観察、実験の方法と結果を併せて表現する活動を設定していますか。（例：種子に養分があるか調べる実験の後、「発芽する前の種子の切り口にヨウ素液をかけた。その結果、子葉の部分が青紫色になった。」ということなどを表現する活動）
 - 結論を導き出す場面で、結論とその根拠を区別して表現するように指導していますか。



他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

中学校理科（中学3年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 豆電球やLEDの点灯の様子と電力とを関係付けて考えたり、地震の記録から主要動が始まるまでの時間について考えたりすることができている。 (6)(3)(7)(2)
- ◇ 地震や音の速さ、動物のからだのつくりの特徴に関する知識を、日常生活の場面において活用することができている。 (2)(1)(7)(3)
- ◆ 1 感覚器官に入った刺激が感覚神経に伝わることや、S波による揺れが主要動であることなどの知識を身に付けることについて課題が見られる。 (5)(1)(7)(1)
- ◆ 2 実験を計画する場面において、植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を考えたり、炎の色と金網に付くススの量を調べるための「変える条件」や「変えない条件」を設定したりすることに課題が見られる。 (4)(2)(9)(2)

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 感覚器官に入った刺激が感覚神経に伝わることや、S波による揺れが主要動であることなど基礎的な知識を身に付けさせるためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 自然の事物・現象についての概念や原理・法則を学習する際は、観察、実験などを通して、生徒が自ら概念や原理・法則を見いだせるようにした上で理解できるようにしていますか。
 - 感覚器官や感覚神経などの学習において、それぞれの語句をただ覚えさせるのではなく、神経と器官での信号の伝わる経路について説明する活動を通して、知識同士のつながりを意識しながら理解できるようにしていますか。
 - 地震の学習では、マグニチュードや震源からの波の広がり、波が到達した地点での初期微動と主要動の切り替わりなどについて、モデルを用いて説明して、スケールの大きなものを実感を伴って理解できるようにしていますか。
- ◆ 2 実験を計画する場面において、植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を考えたり、炎の色と金網に付くススの量を調べるための「変える条件」や「変えない条件」を設定したりすることができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 実験を計画する場面を設定し、生徒がどのような実験を行えば自分の仮説が正しいと言えるかを考えることができるようにしていますか。
 - 複数の条件が関係する実験について考える活動を設定し、実験の前に生徒が「変える条件」「変えない条件」を考えることができるようにすることで、小学校での学習の系統性を意識できるようにしていますか。
 - 観察を行う前に、観察を計画する機会を設け、生徒が観察対象のどこに着目して特徴を見いだすのかを考えることができるようにしていますか。
 - 観察、実験を行った後に、自分が立てた計画が妥当であったかどうかを振り返る機会を設け、生徒がより質の高い計画を立てることができるようにしていますか。



他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

(3) 各学年の設問ごとの正答率

[表13] 小学6年生 理科 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,395	61.3	0.6	75.6	55.6	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	物質・エネルギー	8	56.6	0.9	73.1	53.1	
	生命・地球	10	60.7	0.8	76.0	56.0	
評価の観点	①思考・表現	12	54.1	0.7	73.3	53.3	
	②技能	1	71.8	0.3	80.0	60.0	
	③知識・理解	2	88.1	0.7	85.0	65.0	◎
問題形式	選択式	13	63.8	0.2	76.2	56.2	
	短答式	1	89.0	1.5	85.0	65.0	◎
	記述式	2	31.6	3.1	67.5	47.5	▼
活用	「活用」に関する問題	13	56.4	0.7	73.8	53.8	

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等		評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		物質・エネルギー	生命・地球	①思考・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
1	(1)	○						○	○	83.8	0.0	80	60	◎
1	(2)	○				○		○	○	73.8	0.0	75	55	
1	(3)	○				○		○		89.0	1.5	85	65	◎
1	(4)	○				○		○	○	57.3	0.2	80	60	▼
2	(1)	○				○		○		87.1	0.0	85	65	◎
2	(2)	○				○		○	○	52.4	0.1	75	55	▼
2	(3)	○				○		○	○	24.9	1.1	70	50	▼
2	(4)	○				○		○	○	60.0	0.2	75	55	
3	(1)	○				○		○	○	63.1	0.1	75	55	
3	(2)	○				○		○	○	44.5	0.2	70	50	▼
3	(3)	○				○		○	○	56.3	0.3	75	55	
3	(4)	○	○			○		○	○	40.0	0.3	70	50	▼
4	(1)	○				○		○		71.8	0.3	80	60	
4	(2)	○				○		○	○	90.4	0.3	75	55	◎

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		物質・エネルギー	生命・地球				①思考・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				十分達成	おおむね達成	
4	(3)	○					○			○		○	48.5	0.8	75	55	▼	
4	(4)	○	○				○				○	○	38.4	5.1	65	45	▼	

[表14] 中学3年生 理科 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,113	62.4	4.9	67.4	47.4	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	物理的領域	7	73.0	4.1	67.9	47.9	◎
	化学的領域	8	57.5	7.0	66.9	46.9	
	生物的領域	6	69.5	2.9	68.3	48.3	◎
	地学的領域	7	55.5	4.8	66.4	46.4	
評価の観点	①思考・表現	16	60.3	6.0	63.4	43.4	
	②技能	4	64.7	3.1	72.5	52.5	
	③知識・理解	8	66.1	2.9	73.1	53.1	
問題形式	選択式	17	68.9	0.6	69.1	49.1	
	短答式	4	68.3	8.3	71.3	51.3	
	記述式	6	39.9	14.8	60.0	40.0	▼
活用	「活用」に関する問題	16	60.3	6.0	63.4	43.4	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		物理的領域	化学的領域	生物的領域	地学的領域	①思考・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
1	(1) 光の反射の幾何光学的な規則性についての知識・技能を活用できる	○				○			○		○	61.5	0.2	65	45	
1	(2) テレプロンプターのモデルの光の道筋を検討して改善し、適切な光の道筋を説明することができる	○				○			○		○	72.7	0.3	65	45	◎
2	(1) 無脊椎動物と軟体動物の体のつくりの特徴に関する知識を活用できる			○		○			○		○	85.5	0.2	75	55	◎
2	(2) 濃度が異なる食塩水のうち、濃度の低いものを指摘できる		○					○				75.7	1.0	70	50	◎
2	(2) 濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できる		○					○				44.6	1.1	70	50	▼
2	(3) 「アサリが出した砂の質量は明るさに関係しているとはいえない」と考察した理由を指摘できる			○		○			○		○	78.7	0.2	60	40	◎
2	(4) 1つの要因を変えるとその他にも変わる可能性のある要因を指摘できる			○		○			○	○		54.0	9.2	60	40	
3	(1) 風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用できる				○	○			○		○	37.9	0.2	65	45	▼
3	(2) 太平洋高気圧(小笠原気団)の特徴についての知識を身に付けている				○			○				63.7	0.4	75	55	
3	(3) シミュレーションの結果について考察した内容を検討して改善し、台風の進路を決める条件を指摘できる				○	○			○	○		45.4	7.4	60	40	
4	(1) ガスパナーの空気量を調節する場所を指摘できる		○			○			○			71.6	0.4	75	55	
4	(2) 炎の色と金網に付くすすの量を調べる実験を計画する際に、「変えない条件」を指摘できる		○			○			○	○		32.2	16.1	65	45	▼
4	(3) 化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明できる		○			○			○	○		46.1	14.6	60	40	
5	(1) 神経系の働きについての知識を身に付けている			○				○			○	54.5	6.5	75	55	▼

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		物理的領域	化学的領域	生物的領域	地学的領域	①思考・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
5	(2)			○				○			○	59.1	0.6	65	45	
6	(1)	○						○				67.7	0.5	70	50	
6	(2)	○						○				74.7	10.3	75	55	
6	(2)	○						○				52.2	12.9	70	50	
6	(3)	○						○		○		90.1	0.7	65	45	◎
7	(1)			○				○				52.0	0.6	75	55	▼
7	(2)			○				○		○		78.2	0.7	65	45	◎
7	(3)	○		○				○		○		91.8	3.7	65	45	◎
8	(1)		○					○				77.7	0.7	75	55	◎
8	(2)		○					○		○		69.9	0.7	65	45	◎
8	(3)		○					○		○		42.3	21.2	55	35	
9	(1)			○				○				85.3	1.0	75	55	◎
9	(2)			○				○		○		19.7	20.5	60	40	▼

(4) 地域別の状況

- 県内5地域の理科の学年別平均正答率の対県比は[表15]のとおりで、小学校6年生に比べて、中学校3年生で地域間の学力差が大きい状況にある。
- 学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況は、学年によって差はあるものの、全ての学年・地域で、「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ31]

[表15] 県内5地域における学年別平均正答率の対県比

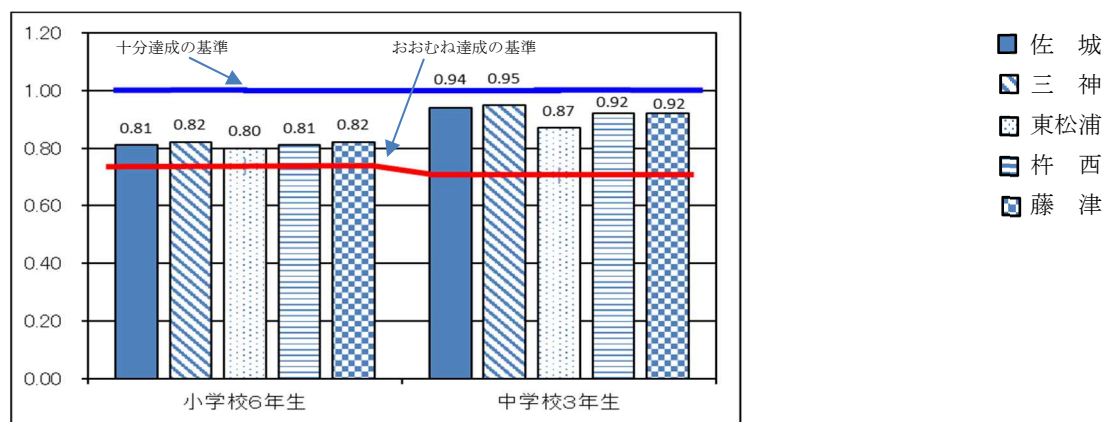
学年・教科	実施年度	対県比(地域平均正答率/県平均正答率)					地域差	
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津		
小学校6年生	理科	H30	1.00	1.01	0.98	1.00	1.01	0.03
		H29	-	-	-	-	-	-
中学校3年生	理科	H30	1.01	1.03	0.94	0.99	1.00	0.09
		H29	-	-	-	-	-	-

※ 「対県比」は、県平均正答率を1.00として算出

※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

[グラフ31] 県内5地域における学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況

※ 各学年における「十分達成」の正答率を1.00として算出



※ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐城	佐賀市、多久市、小城市
三神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤津	鹿島市、嬉野市、太良町

IV 児童生徒意識調査（小学5年、中学1年、中学2年）、
児童生徒質問紙調査（小学6年、中学3年）、学校質問紙
調査及び教師意識調査の概要

- ※意識調査は、県調査の児童生徒意識調査及び全国調査の児童生徒質問紙・学校質問紙の回答を分析したものである。（共に、各学校で入力を行ったデータに基づいている。）
- ※クロス集計では、意識調査と教科（国語、算数・数学）平均正答率の2つの項目を掛け合わせてデータの集計を行っている。ただし、平成30年度の小6と中3のクロス集計については、理科も含んでいる。
- ※教師意識調査の対象は、平成30年2月時点での各学校在籍職員のうち、当該学年・教科を担当していた者である。

(1) 授業に対する関心、理解度、有用性について

- 「各教科の勉強が好き」という問いに対して肯定的な回答（「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」、以下同じ）をした児童生徒の割合（同一学年）を見ると、次の教科、学年において、前年度を上回っている。

[グラフ 1、2、3、4、5]

- ◇国語－小学5年、中学1年（小学6年、中学3年は意識調査なし）
- ◇社会－小学5年（小学6年、中学3年は意識調査なし）
- ◇算数（数学）－小学6年
- ◇理科－中学2年

- 「各教科の勉強が好き」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、各教科とも6割前後であるが、中学1年理科、中学2年理科では7割、小学5年理科、小学6年理科では8割を超えている。 [グラフ 1、2、3、4、5]

- 「各教科の授業の内容はよく分かる」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合（同一学年）を見ると、次の教科、学年において、前年度を上回っている。 [グラフ 6、7、8、9、10]

- ◇国語－小学5年（小学6年、中学3年は意識調査なし）
- ◇社会－小学5年（小学6年、中学3年は意識調査なし）
- ◇算数（数学）－小学6年

- 「各教科の授業の内容はよく分かる」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、概ね7割から9割である。 [グラフ 6、7、8、9、10]

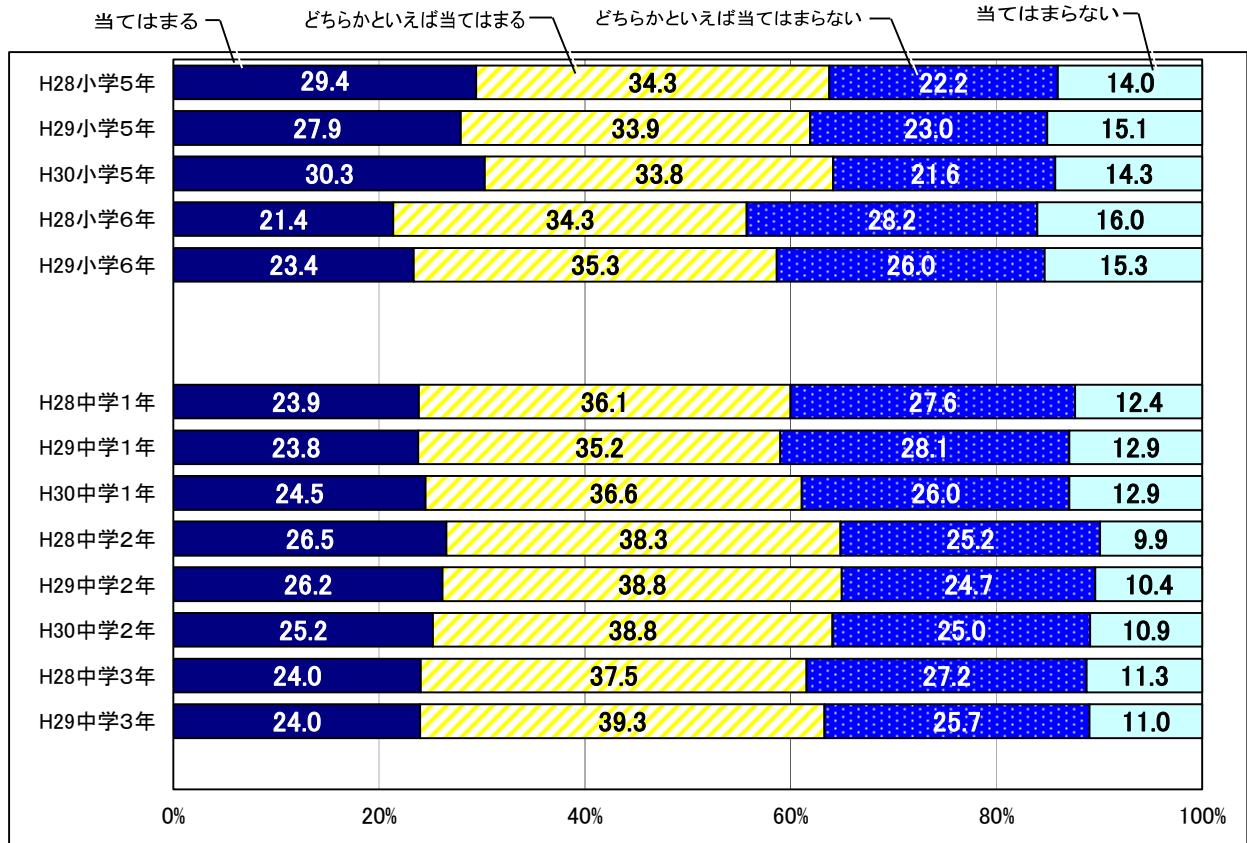
- 「各教科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合（同一学年）を見ると、次の教科、学年において、前年度を上回っている。 [グラフ 11、12、13、14、15]

- ◇国語－中学2年（小学6年、中学3年は意識調査なし）
- ◇算数（数学）－小学6年、中学3年
- ◇理科－中学1年、中学2年
- ◇英語－中学2年（中学1年、中学3年は意識調査なし）

- 「各教科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、概ね6割から9割である。

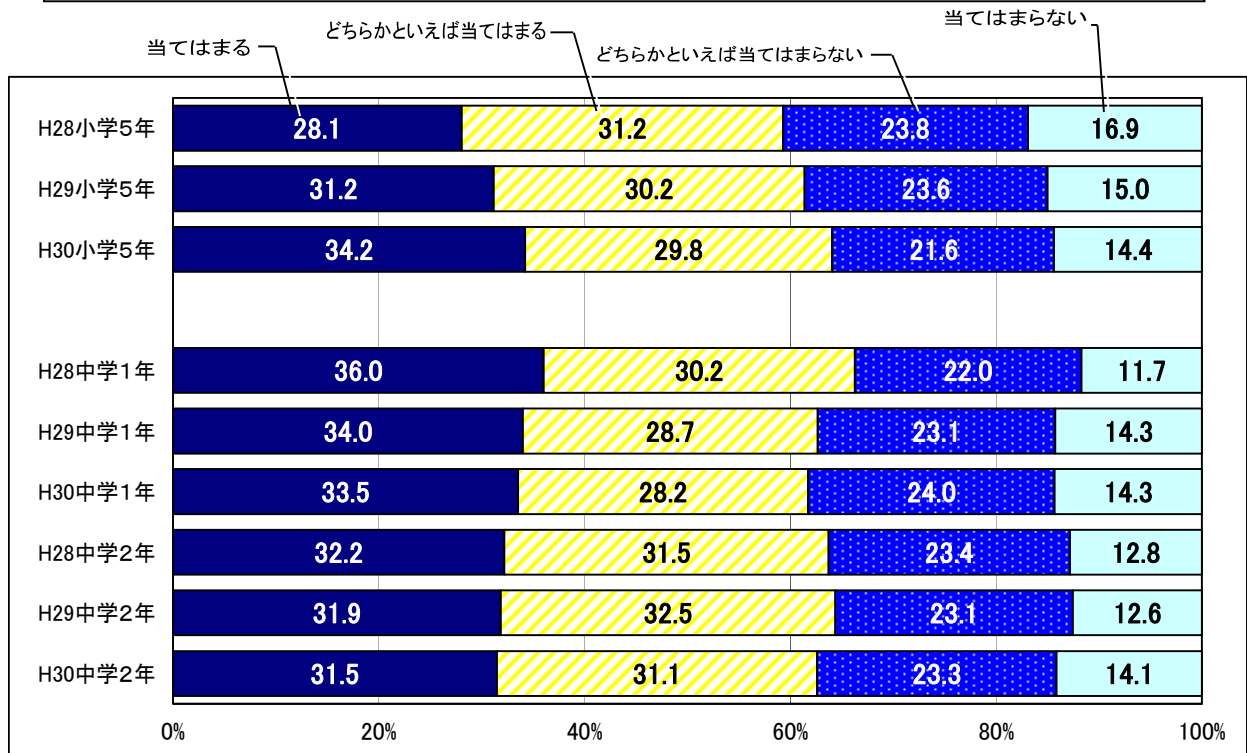
[グラフ 11、12、13、14、15]

[グラフ1] 国語の勉強は好きだ 平成 28～30 年度 「同一学年」の経年比較



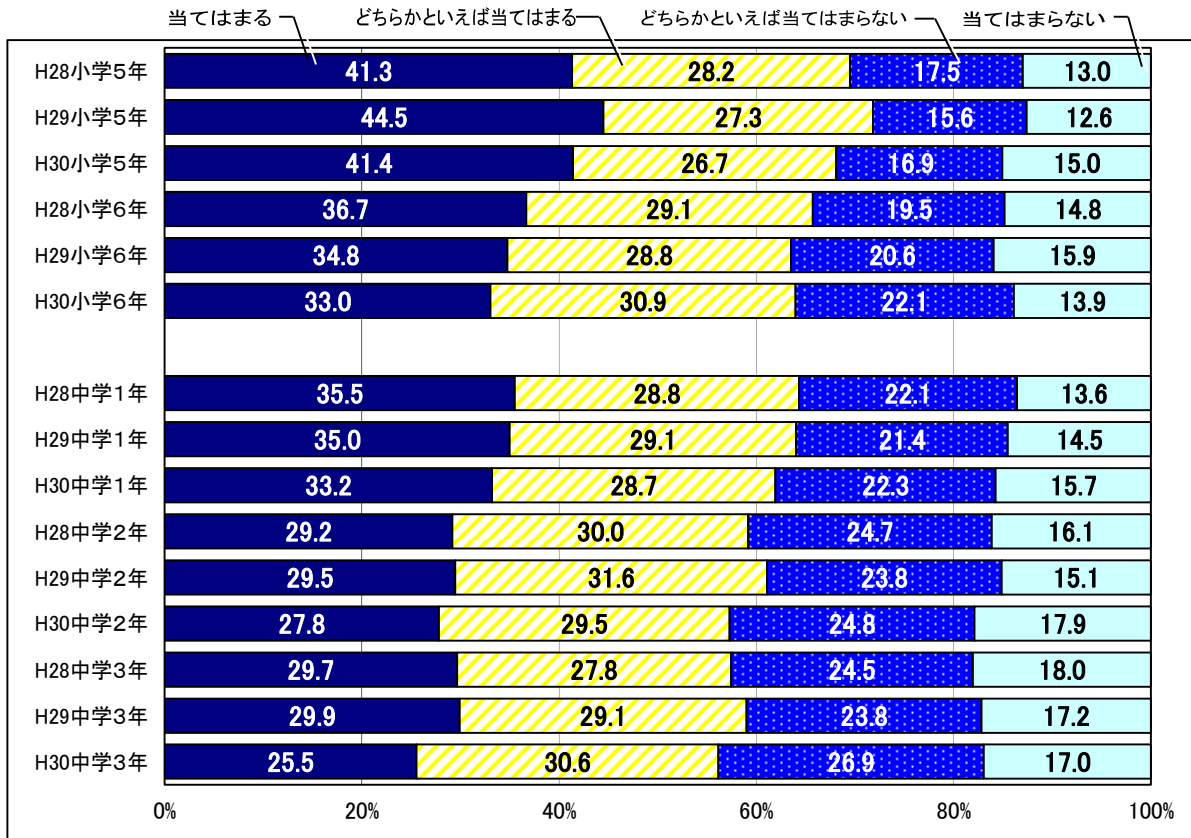
※ 小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、H30年度の本質問項目のデータはない。

[グラフ2] 社会の勉強は好きだ 平成 28～30 年度 「同一学年」の経年比較

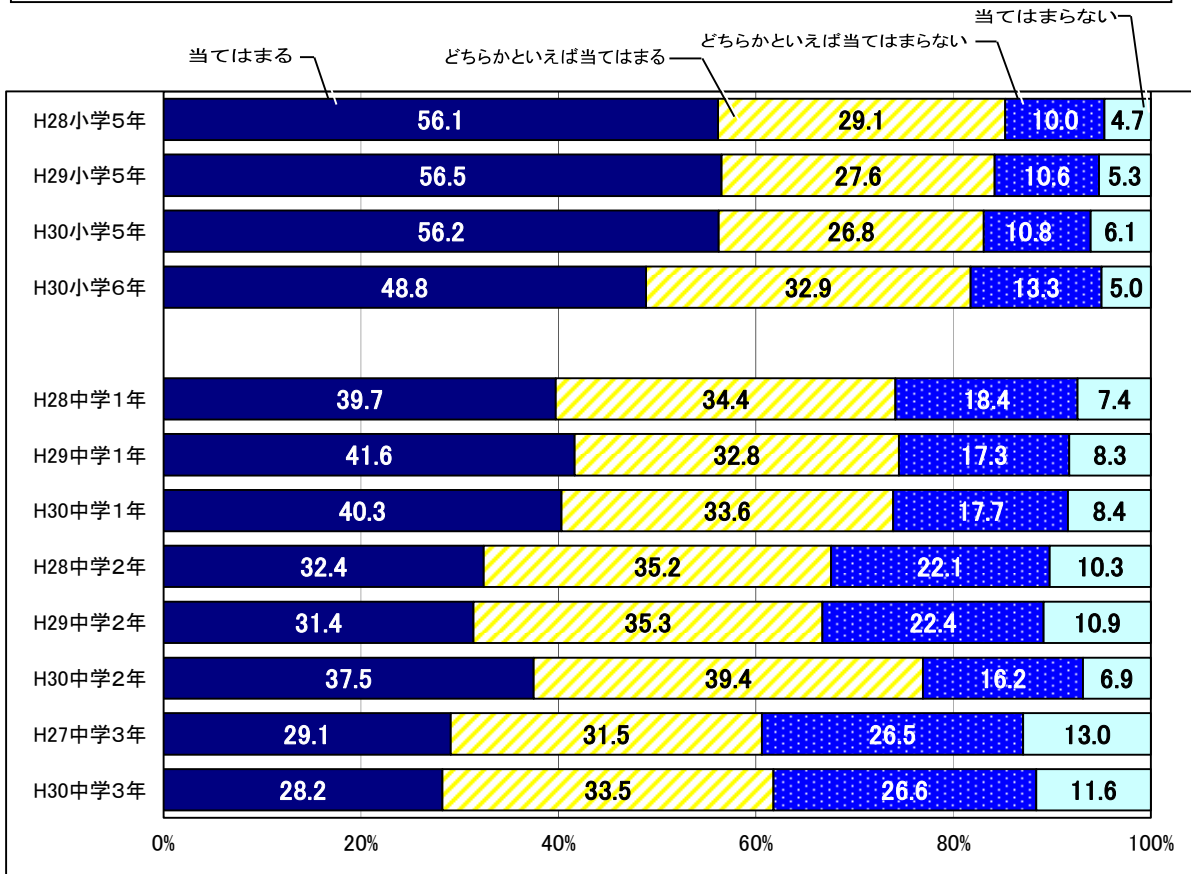


※ 小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、本質問項目のデータはない。

[グラフ3] 算数(数学)の勉強は好きだ 平成 28～30 年度 「同一学年」の経年比較

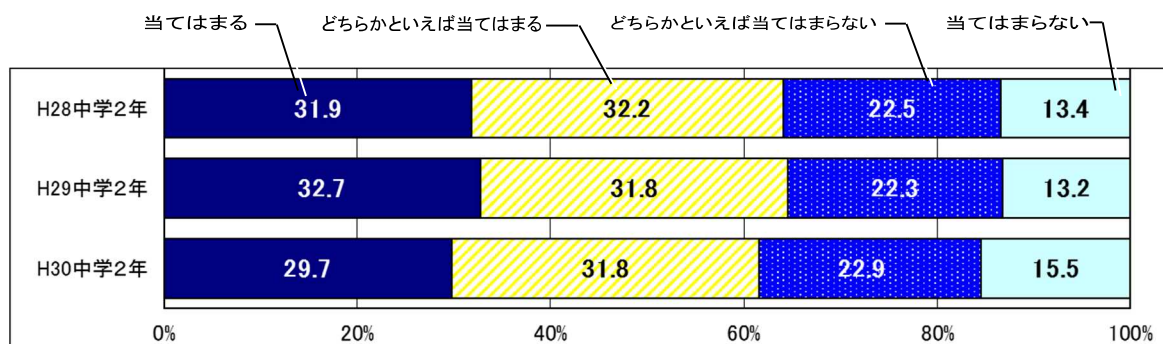


[グラフ4] 理科の勉強は好きだ 平成 28～30 年度 「同一学年」の経年比較



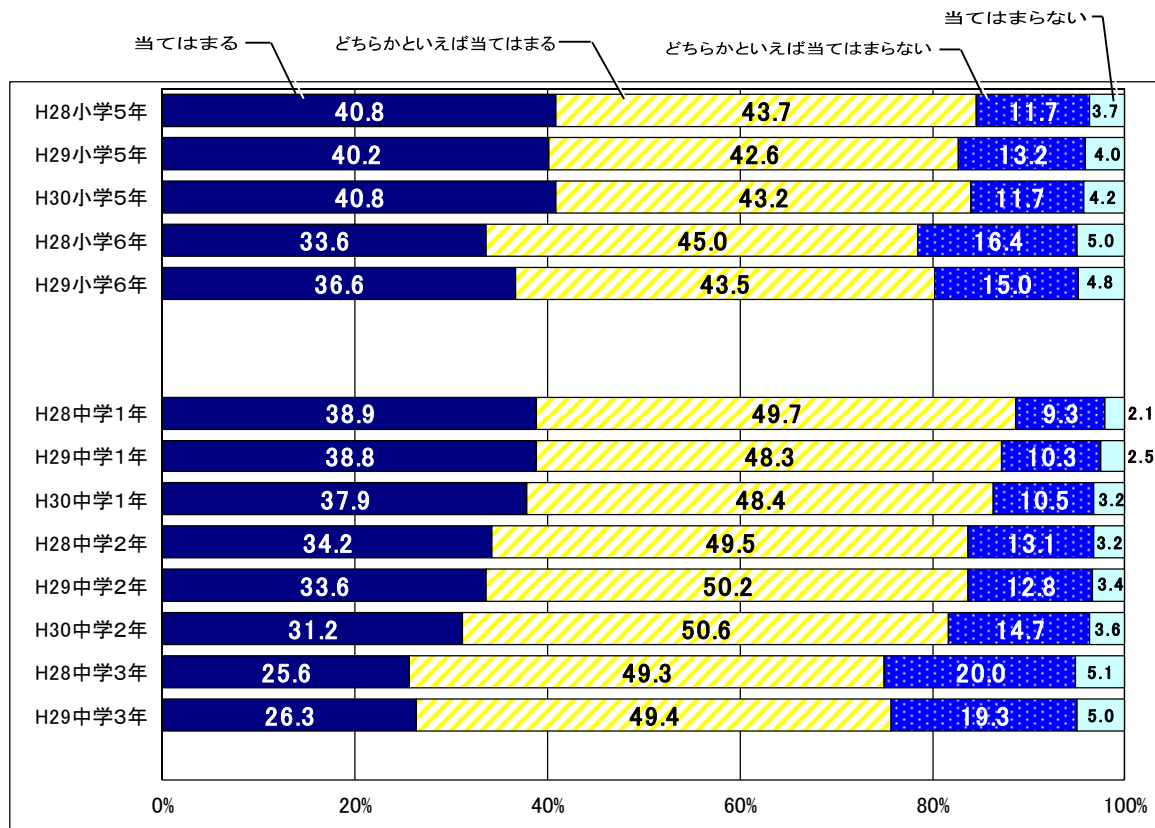
※ 小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、本質問項目のH28 とH29年度のデータはない。

[グラフ5] 英語の勉強は好きだ(中学2年) 平成 28～30 年度 「同一学年」の経年比較



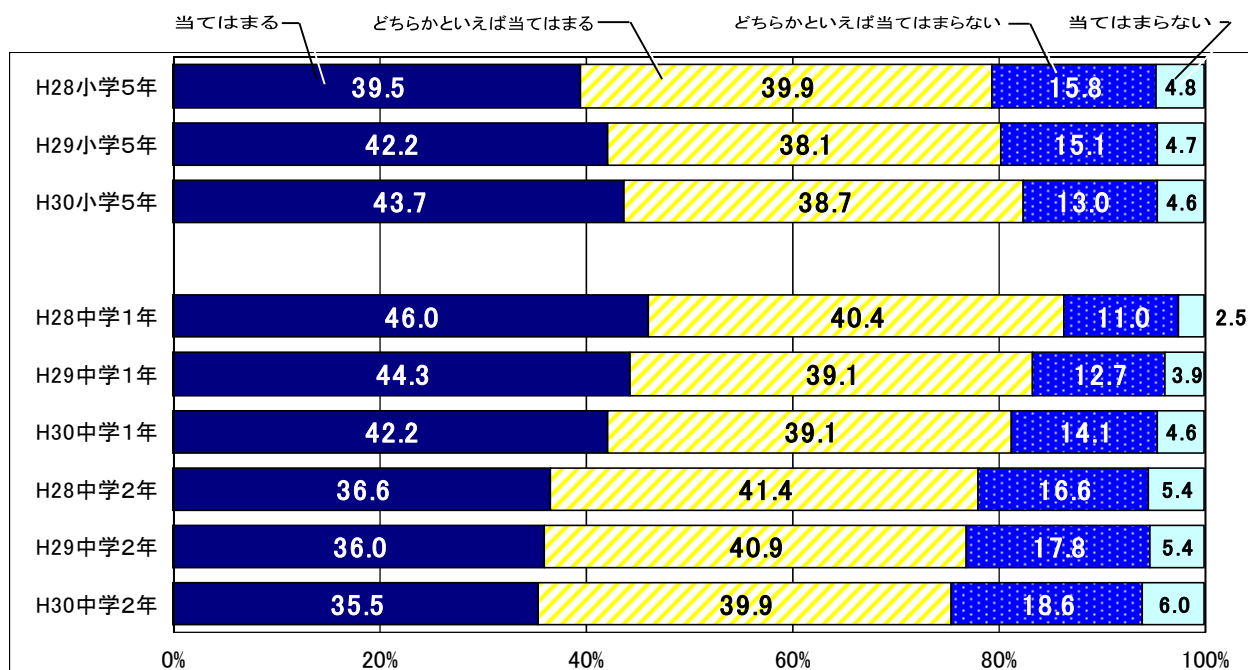
- ※ 中学1年は、前年度に英語を履修していないため、本質問項目のデータはない。
- ※ 中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、本質問項目のデータはない。

[グラフ6] 国語の授業の内容はよく分かる 平成 28～30 年度 「同一学年」の経年比較



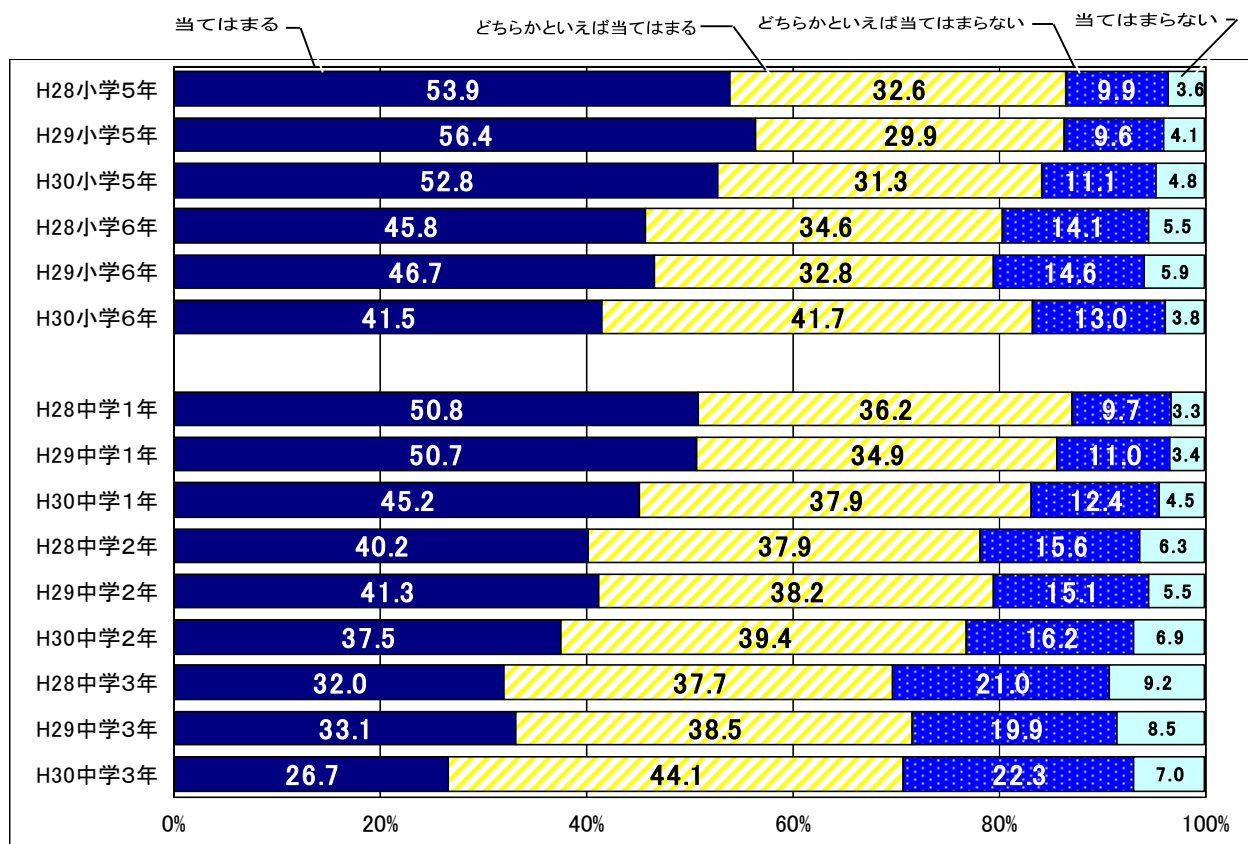
- ※ 小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、H30年度の本質問項目のデータはない。

[グラフ7] 社会の授業の内容はよく分かる 平成 28～30 年度 「同一学年」の経年比較

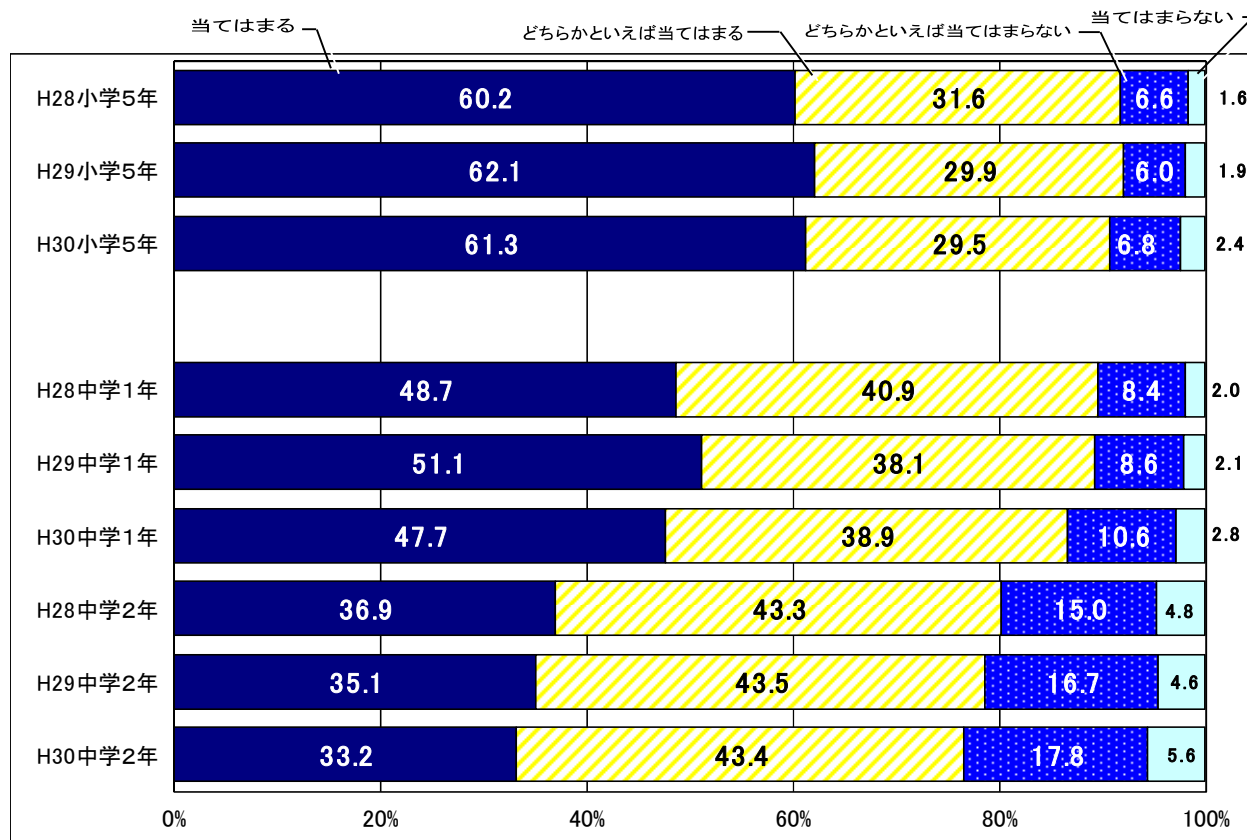


※小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、本質問項目のデータはない。

[グラフ8] 算数(数学)の授業の内容はよく分かる 平成 28～30 年度 「同一学年」の経年比較

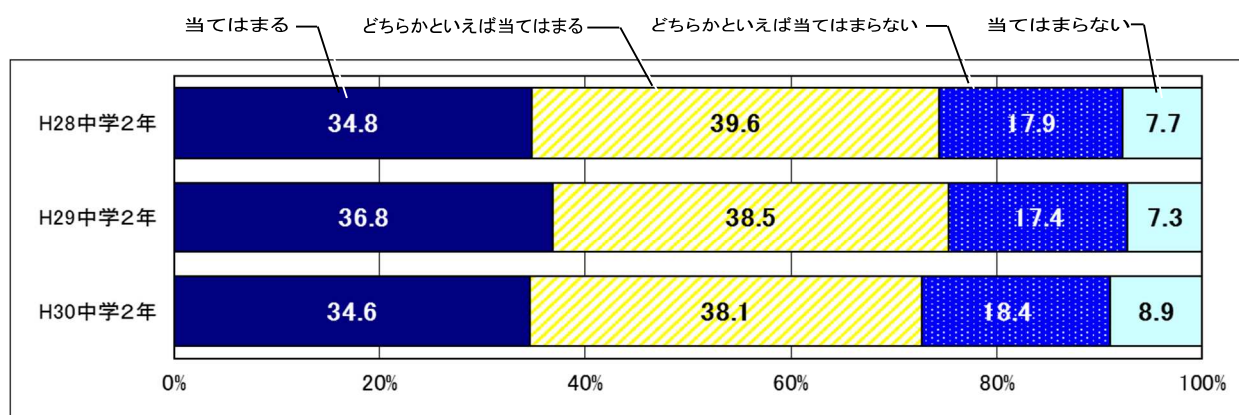


[グラフ9] 理科の授業の内容はよく分かる 平成 28～30 年度 「同一学年」の経年比較



※ 小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、本質問項目のデータはない。

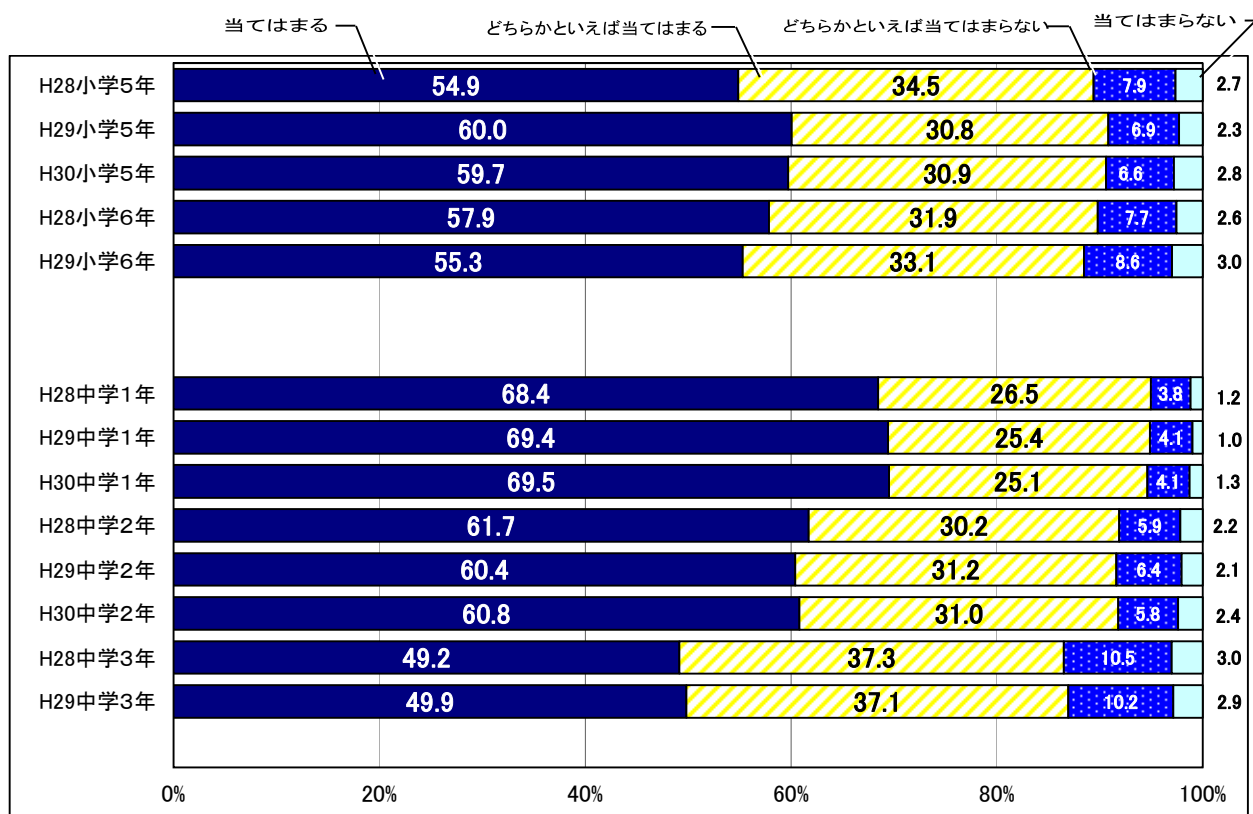
[グラフ10] 英語の授業の内容はよく分かる(中学2年) 平成 28～30 年度 「同一学年」の経年比較



※ 中学1年は、前年度に英語を履修していないため、本質問項目のデータはない。

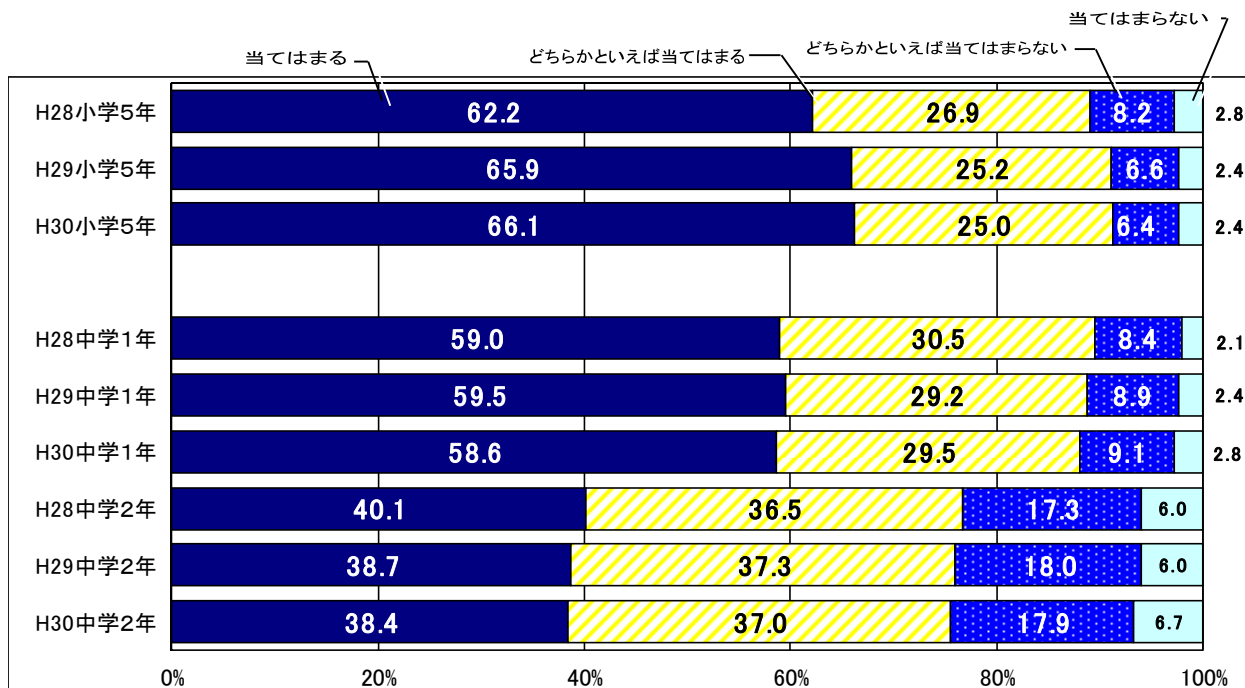
※ 中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、本質問項目のデータはない。

[グラフ 11] 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
平成 28～30 年度「同一学年」の経年比較



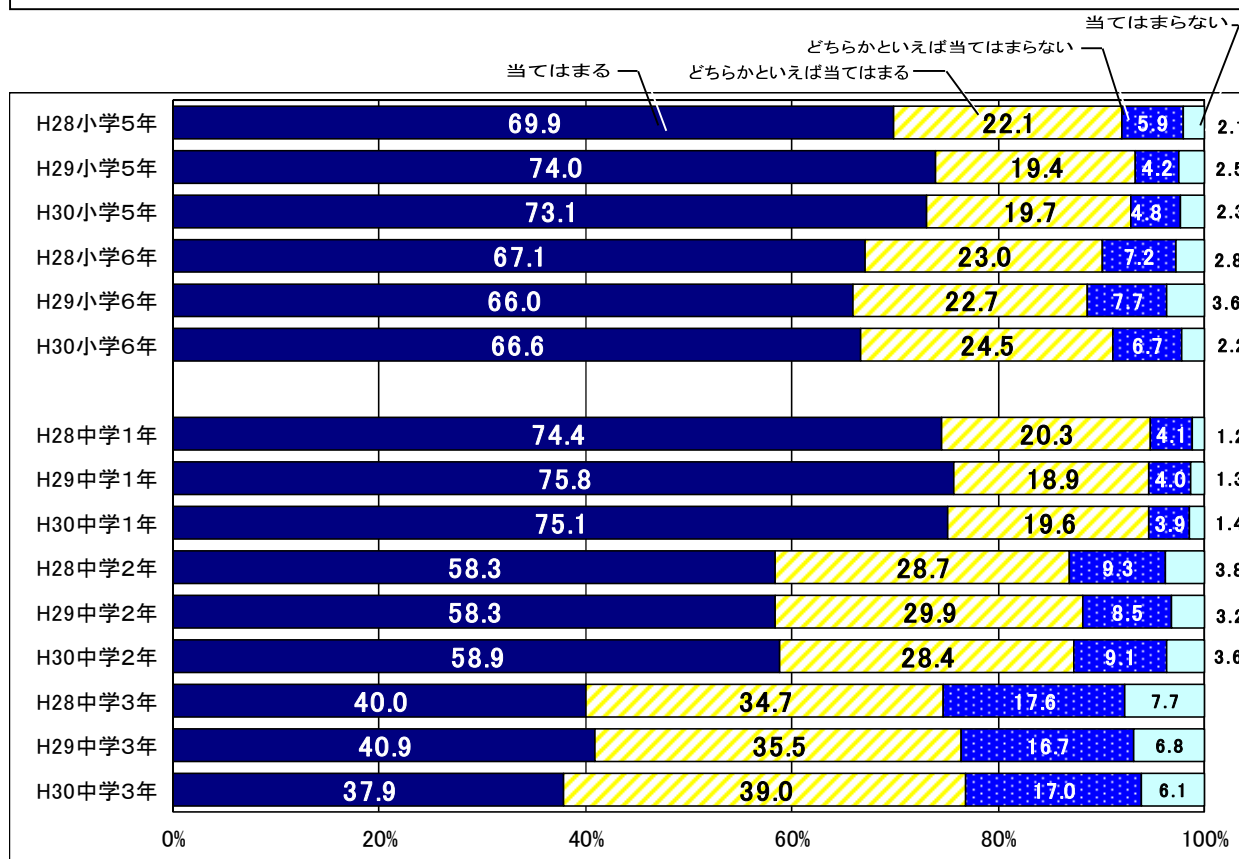
※ 小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、H30年度の本質問項目のデータはない。

[グラフ 12] 社会の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
平成 28～30 年度「同一学年」の経年比較

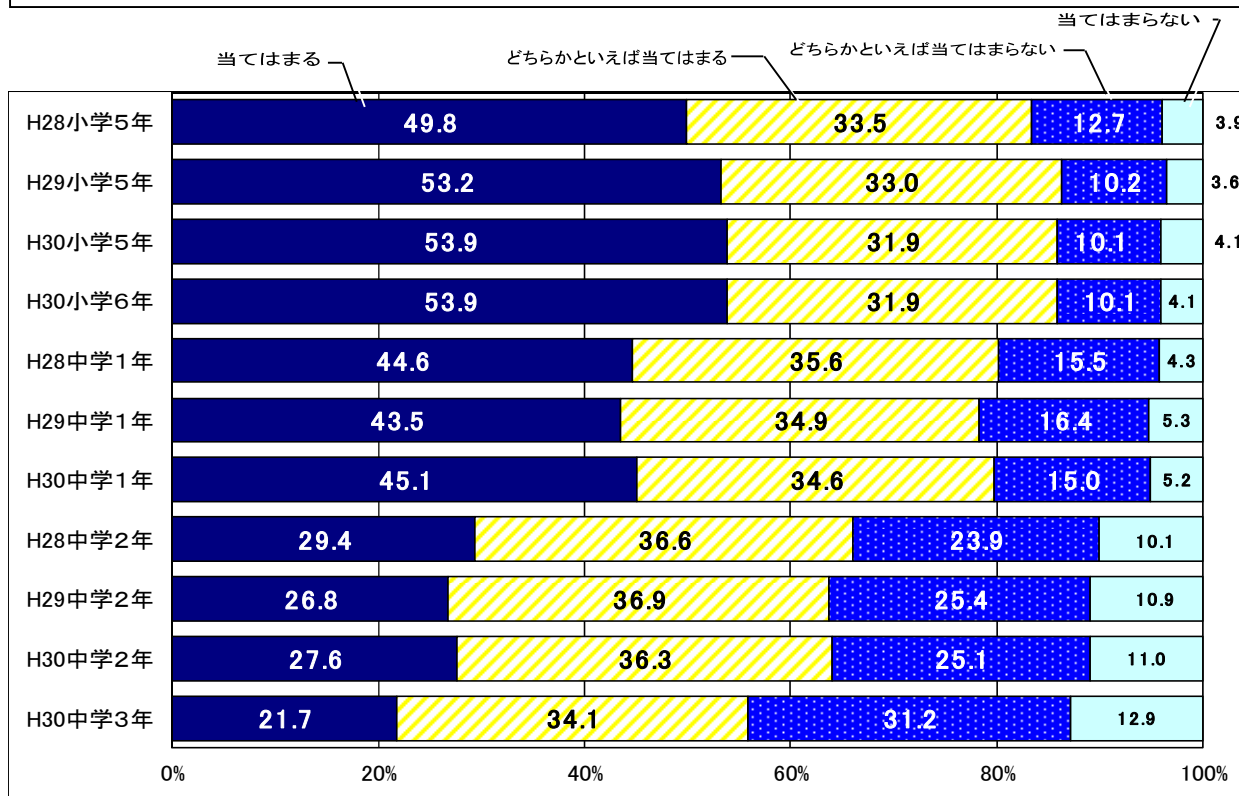


※ 小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、本質問項目のデータはない。

[グラフ 13] 算数(数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
平成 28～30 年度「同一学年」の経年比較

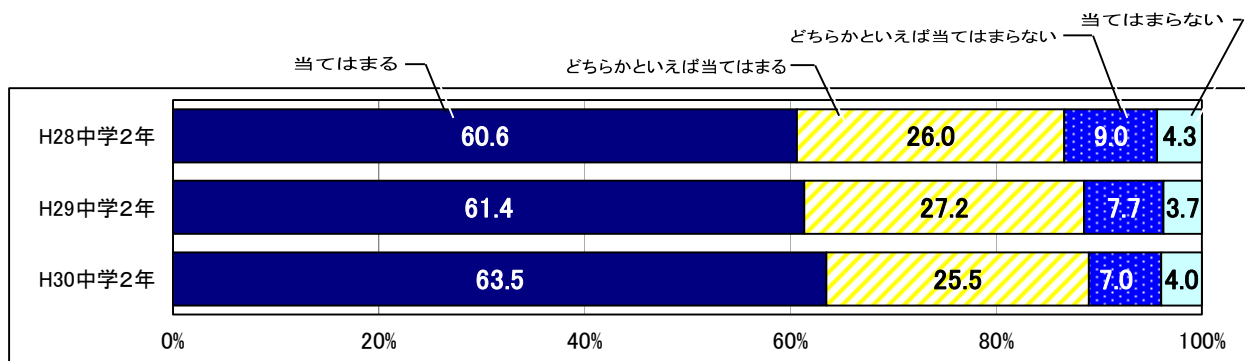


[グラフ 14] 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
平成 28～30 年度「同一学年」の経年比較



※ 小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、本質問項目のH28 とH29年度のデータはない。

[グラフ 15] 英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
平成 28～30 年度「同一学年」の経年比較



- ※ 中学1年は、前年度に英語を履修していないため、本質問項目のデータはない。
- ※ 中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、本質問項目のデータはない。

(2) 学校での学習について

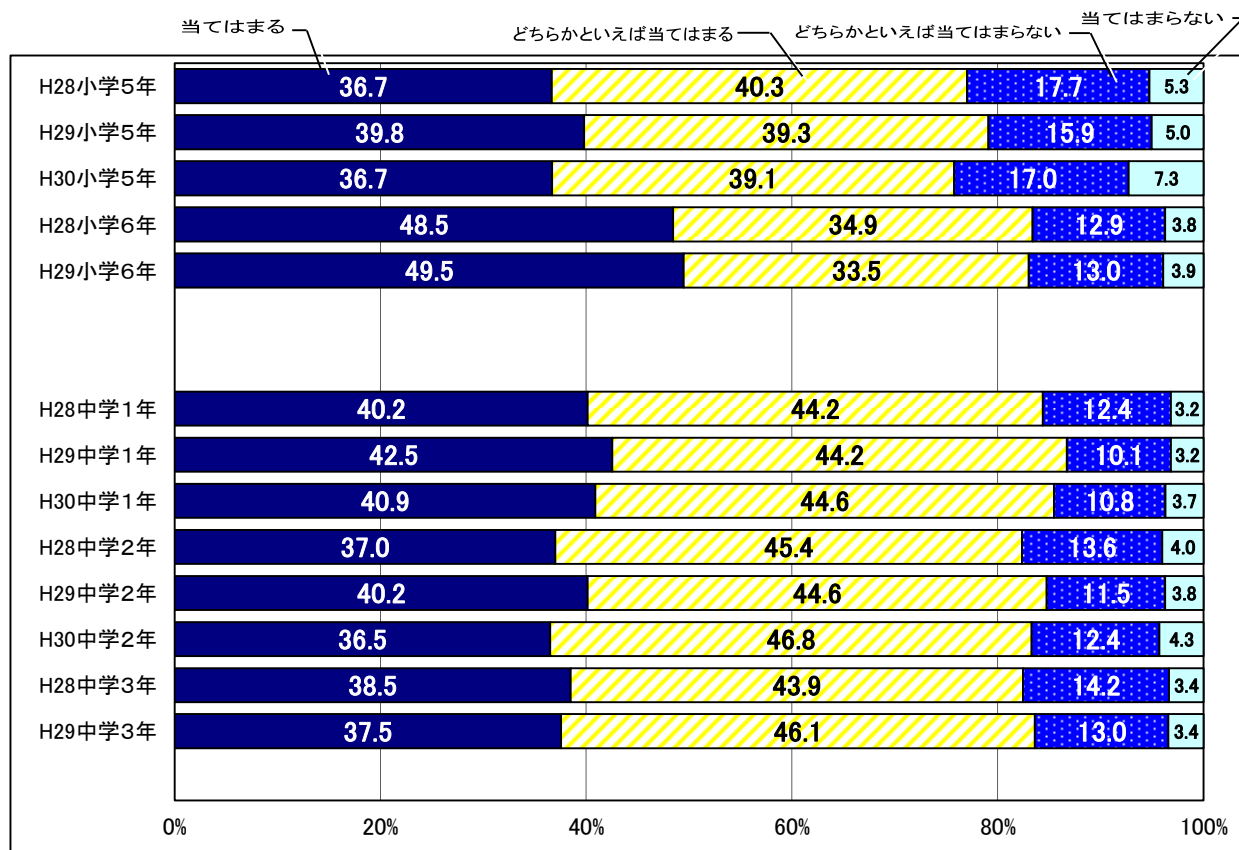
- 「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学5年、中学1年、中学2年で前年度を下回っている。「授業では、学級の友達（生徒）の間で話し合う活動をよく行っていると思う」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、中学1年、中学2年で増加している。いずれの問いについても、肯定的な回答をした児童生徒の正答率は、そうでない児童生徒と比較して高い。
[グラフ 16-1、16-2、17-1、17-2]

- 「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは難しい」という問いに対して否定的な（難しいと）回答をした児童生徒の割合は、中学2年で減少し、小学5年、中学1年で前年度を下回っている。肯定的な（難しくないと）回答をした児童生徒の正答率は、そうでない児童生徒と比較して高い。[グラフ 18-1、18-2]

- 「授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていると思う」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は概ね8割～9割で、小学5年で増加し、中学1年で前年度を上回っている。小学5年、中学1年では、肯定的な回答をした児童生徒の正答率は、そうでない児童生徒と比較して高い。[グラフ 19-1、19-2]

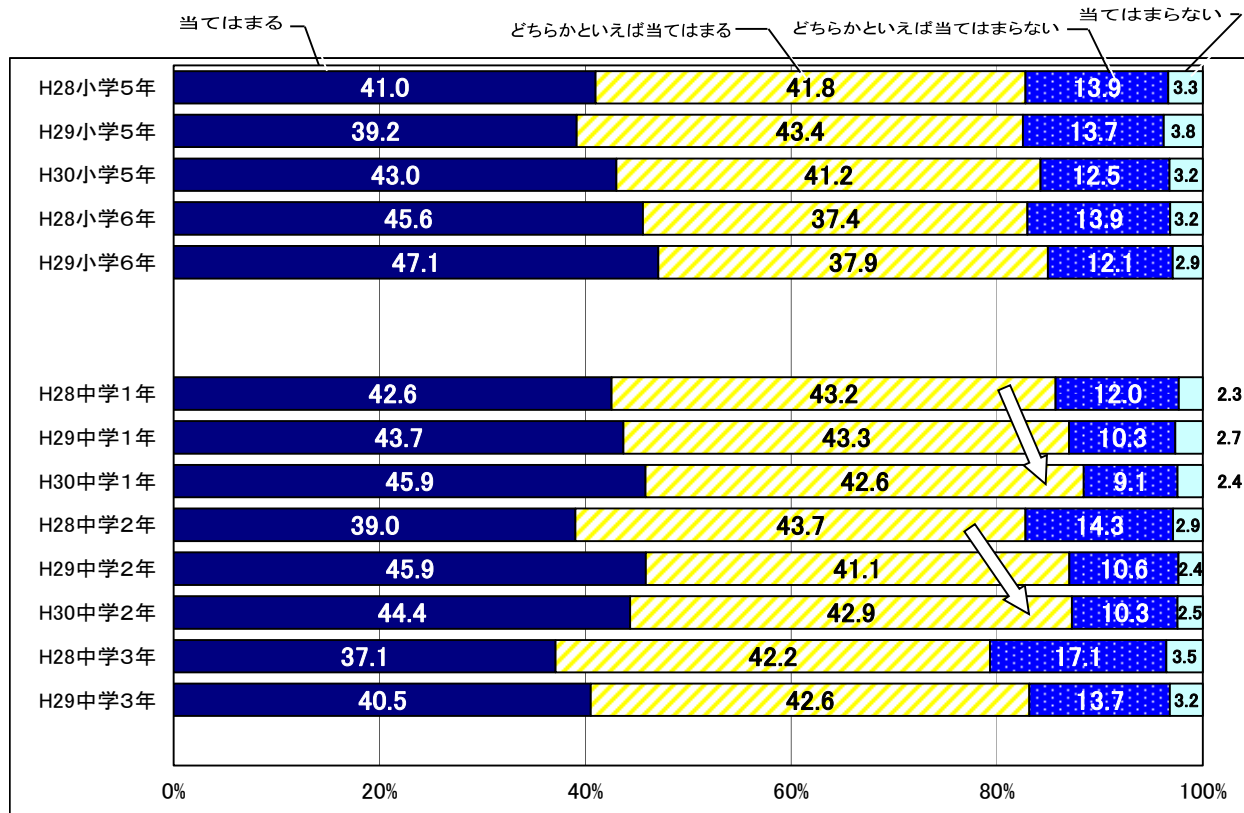
[グラフ 16-1] 授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う。

平成 28～30 年度「同一学年」の経年比較



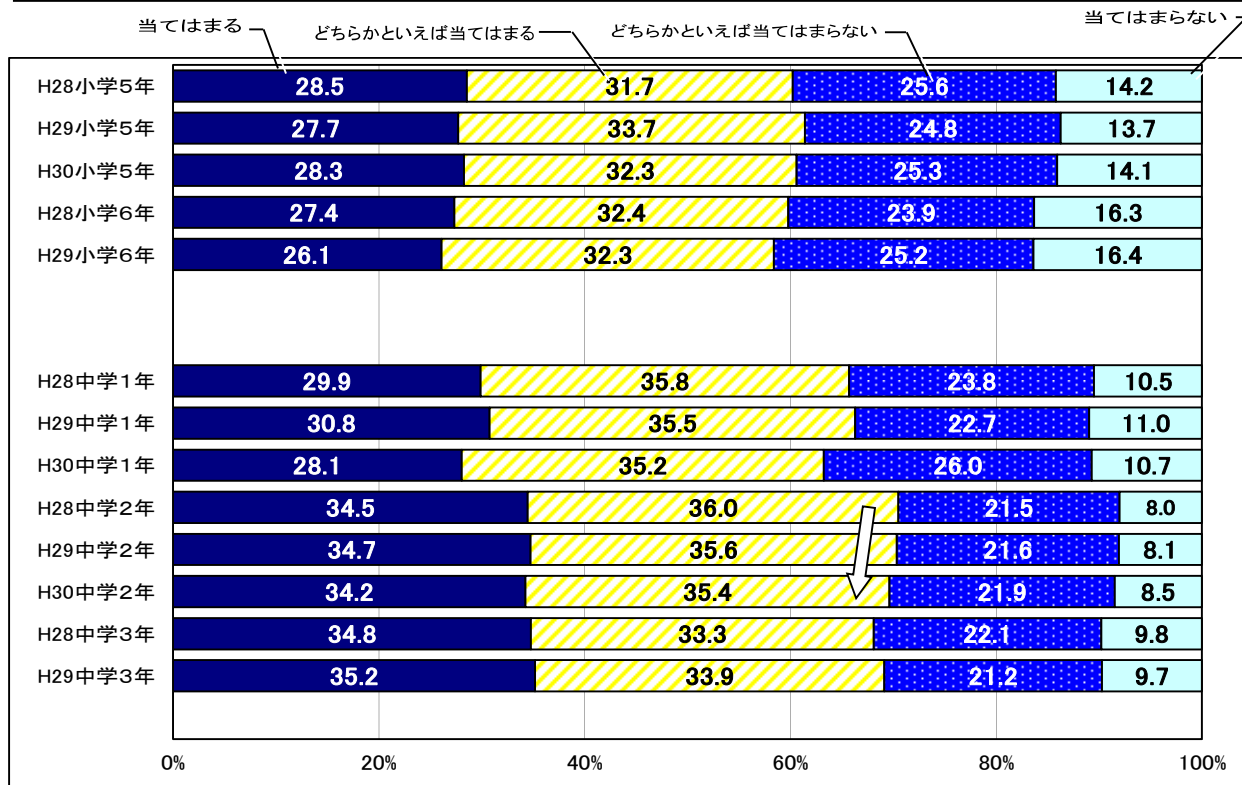
※ 小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、H30年度の本質問項目のデータはない。

[グラフ 17-1] 授業では、学級の友達(生徒)の間で話し合う活動をよく行っていると思う。
平成 28~30 年度「同一学年」の経年比較



※ 小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、H30年度の本質問項目のデータはない。

[グラフ 18-1] 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは難しいと思う。平成 28~30 年度「同一学年」の経年比較



※ 小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、H30年度の本質問項目のデータはない。

[グラフ 16-2]

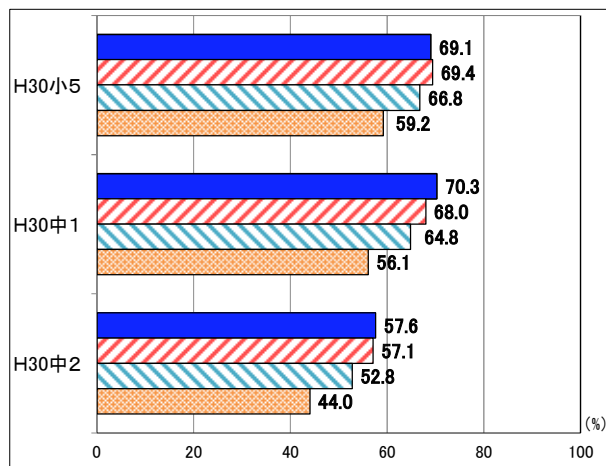
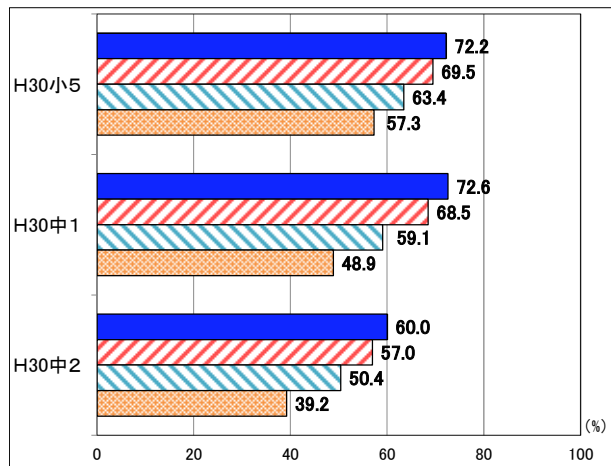
「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果

[グラフ 17-2]

「授業では、学級の友達(生徒)の間で話し合う活動をよく行っていると思う」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果

※児童生徒の回答は、上から

「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまらない」、「当てはまらない」の順



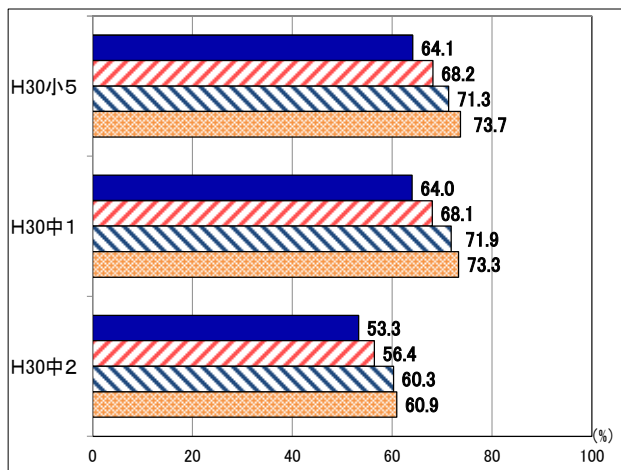
[グラフ 18-2]

「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは難しい」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果

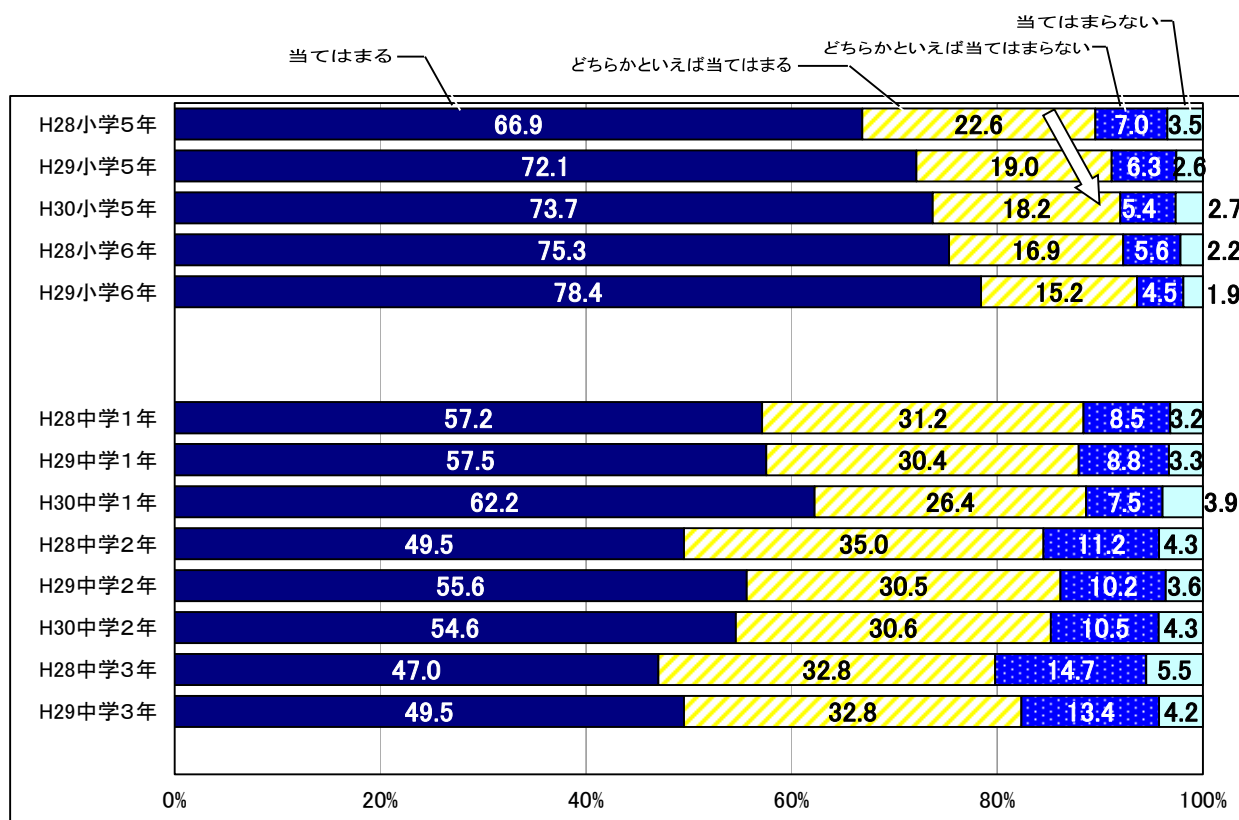
・「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う」と回答をした児童生徒の正答率は、そうでない児童生徒と比較して高い。[グラフ 16-2]

・「授業では、話し合う活動をよく行っていると思う」という問いについても、同様の傾向が見られる。[グラフ 17-2]

・「学校の授業などで、自分の考えをほかの人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい」と回答した児童生徒の正答率は、そうでない児童生徒と比較して低い。[グラフ 18-2]

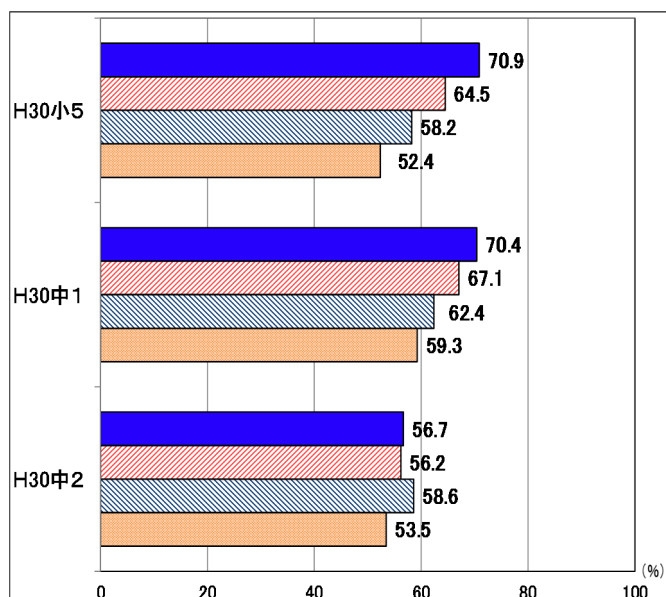


[グラフ 19-1] 授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていると思う。
平成 28~30 年度「同一学年」の経年比較



※ 小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、H30年度の本質問項目のデータはない。

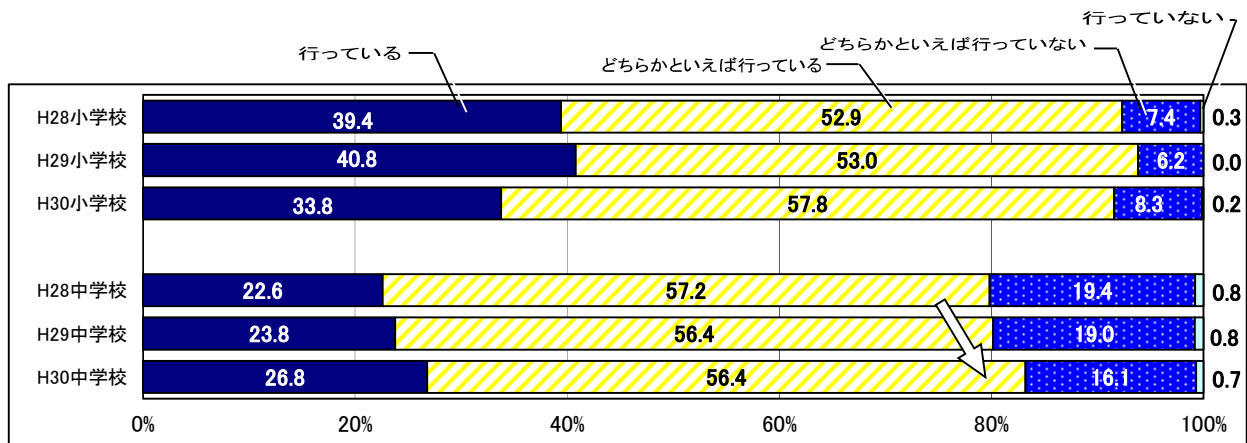
[グラフ 19-2] 「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていると思う」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果



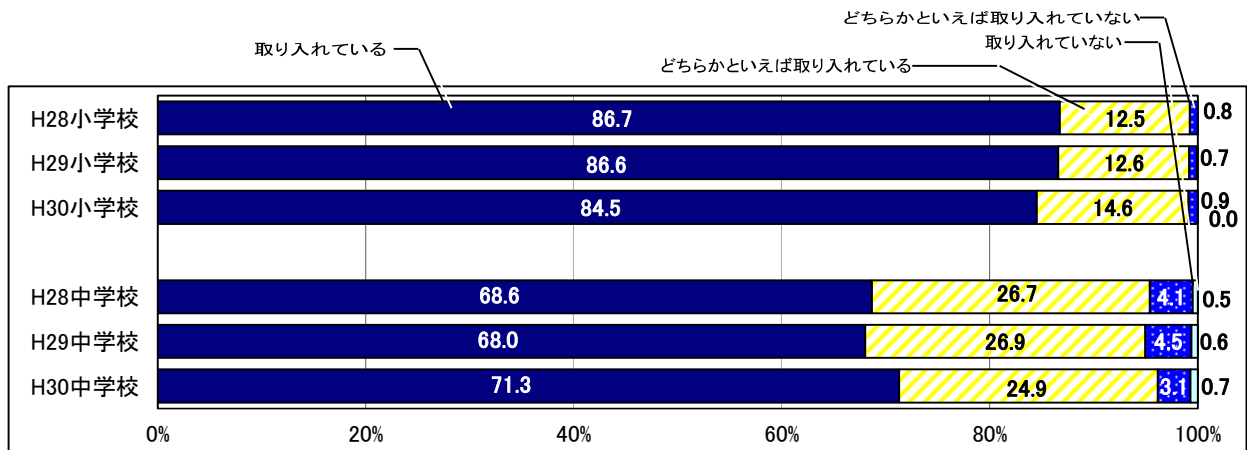
※児童生徒の回答は、
上から「当てはまる」
「どちらかといえば、当てはまる」
「どちらかといえば、当てはまる」
「当てはまらない」の順

- ・小学校では、約9割、中学校では、約8~9割の児童生徒が肯定的な回答をしている。[グラフ 19-1]
- ・小学5年と中学1年では、「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていると思う」と回答した児童生徒の正答率は、そうでない児童生徒と比較して高い。[グラフ 19-2]

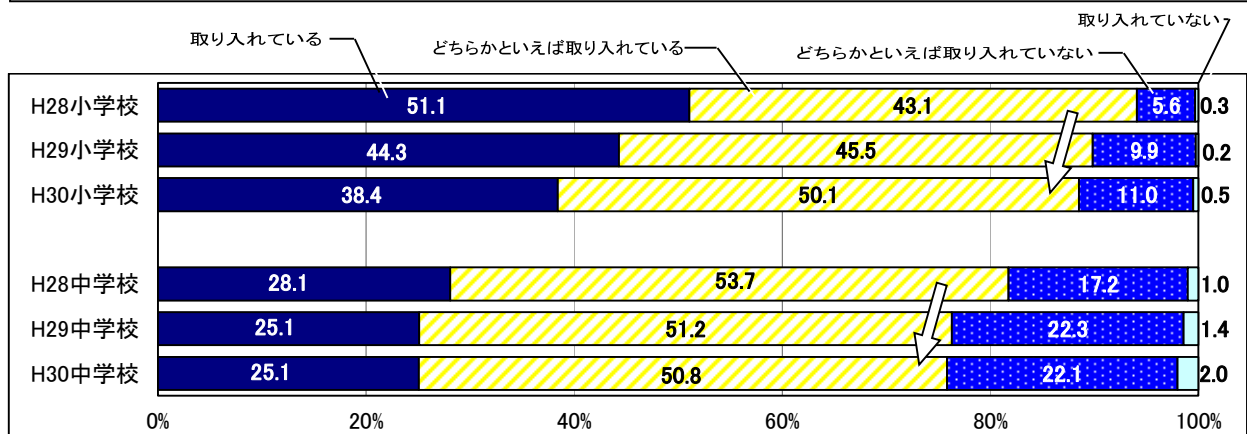
[参考 1] ノートのまとめ方や話し合いの進め方など、学習方法についてきめ細やかに指導を行っていますか。 ※教師意識調査より 平成 28～30 年度の経年比較



[参考 2] 授業の中で目標(めあて・ねらい)を児童生徒に示す活動を計画的に取り入れていますか。 ※教師意識調査より 平成 28～30 年度の経年比較



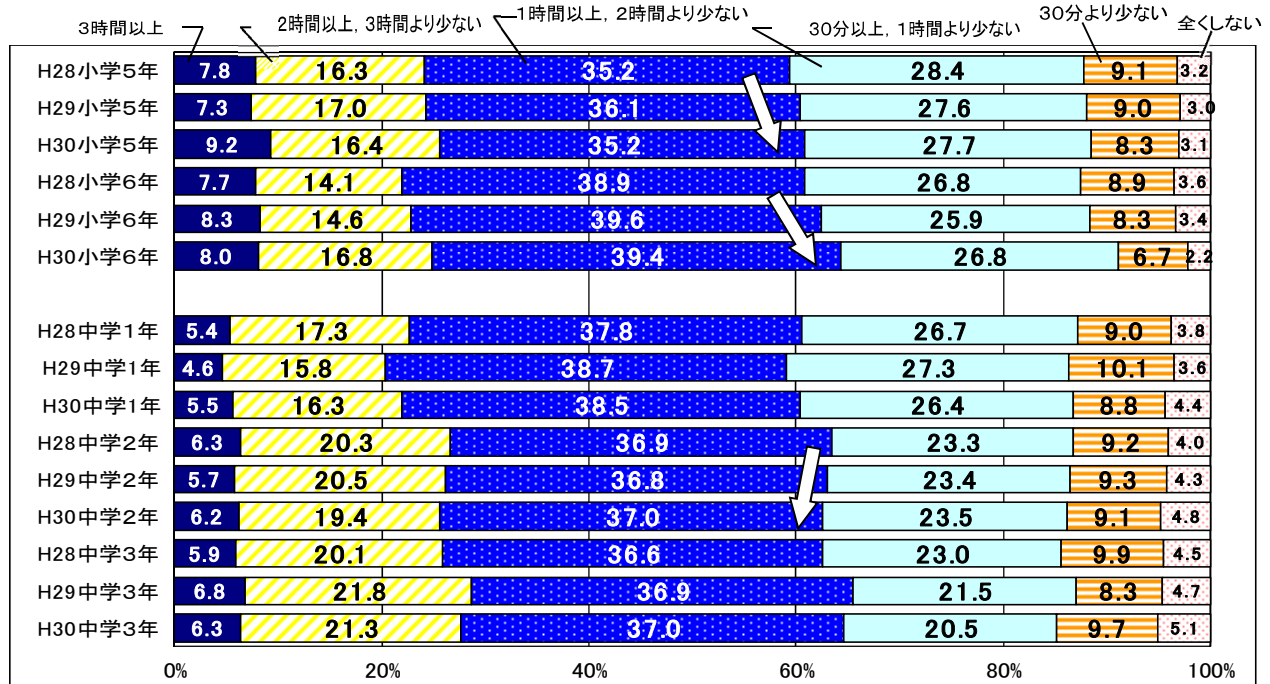
[参考 3] 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れていますか。 ※教師意識調査より 平成 28～30 年度の経年比較



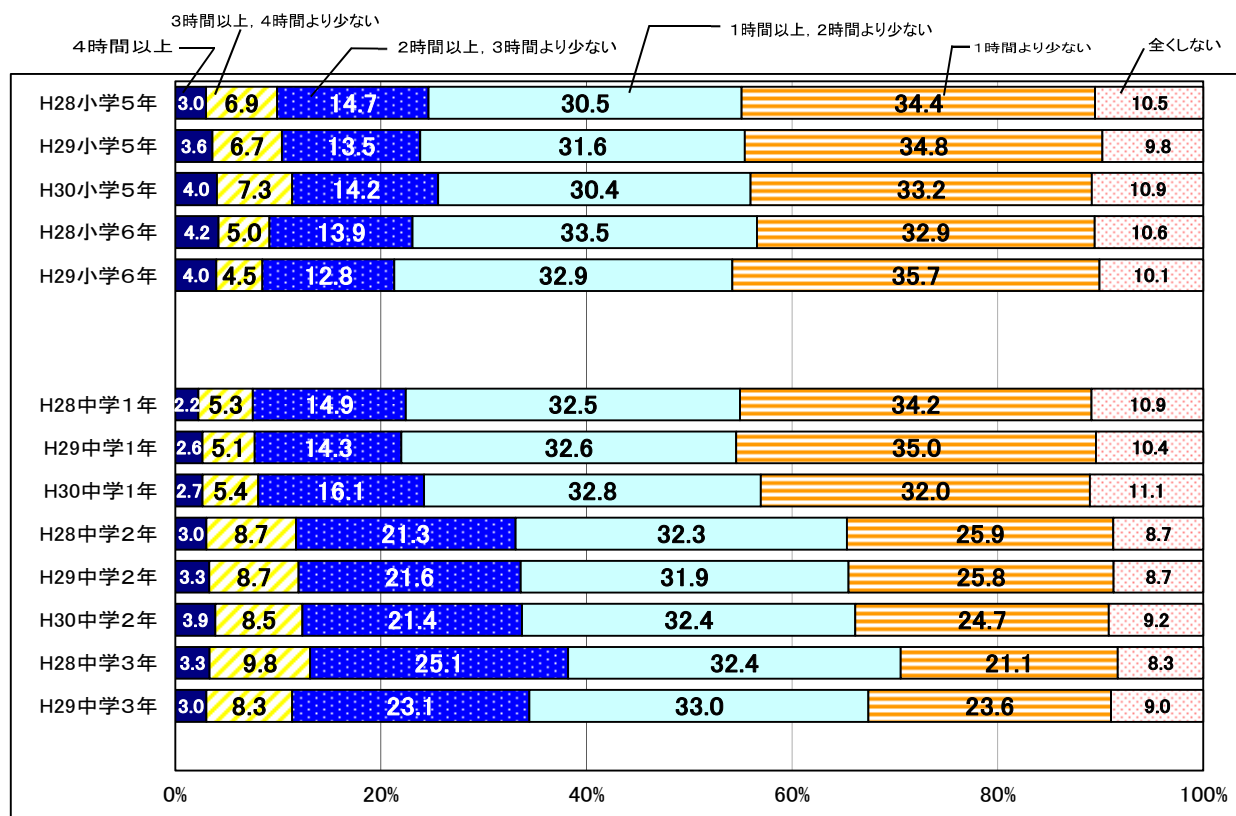
(3) 家庭での学習について

- 家庭での勉強時間において、平日に1時間以上取り組んでいる児童生徒の割合は、小学5年、小学6年で増加しているが、中学2年で減少している。中学1年では前年度を上回っているが、中学3年で前年度を下回っている。[グラフ 20]
- 家庭での勉強時間において、学校が休みの日に2時間以上取り組んでいる児童生徒の割合は、小学5年、中学1年で前年度を上回っている。[グラフ 21]
- 家庭学習の取組において、「自分で計画を立てて勉強している」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学5年、小学6年、中学2年で増加しているが、中学1年、中学3年で前年度を下回っている。[グラフ 22-1]
- 「自分で計画を立てて勉強している」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の正答率は、そうでない児童生徒と比較して高い。[グラフ 22-2]
- 家庭学習の取組において、「学校の宿題をしている」という問いに対して「している」と回答をした児童生徒の割合は、小学6年で増加しており、中学3年で前年度を上回っている。小学5年、中学1年、中学2年では前年度を下回っている。小学5年、小学6年と中学1年では約9割、中学2年は約8割、中学3年は約7割である。[グラフ 23]
- 家庭学習の取組において、「学校の授業の予習をしている」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学5年で増加しているが、中学1年で減少している。中学2年では前年度を上回っている。また、「学校の授業の復習をしている」という問いに対しては、小学5年、中学1年で増加している。[グラフ 24、25]

[グラフ 20] 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む) 平成 28~30 年度「同一学年」の経年比較

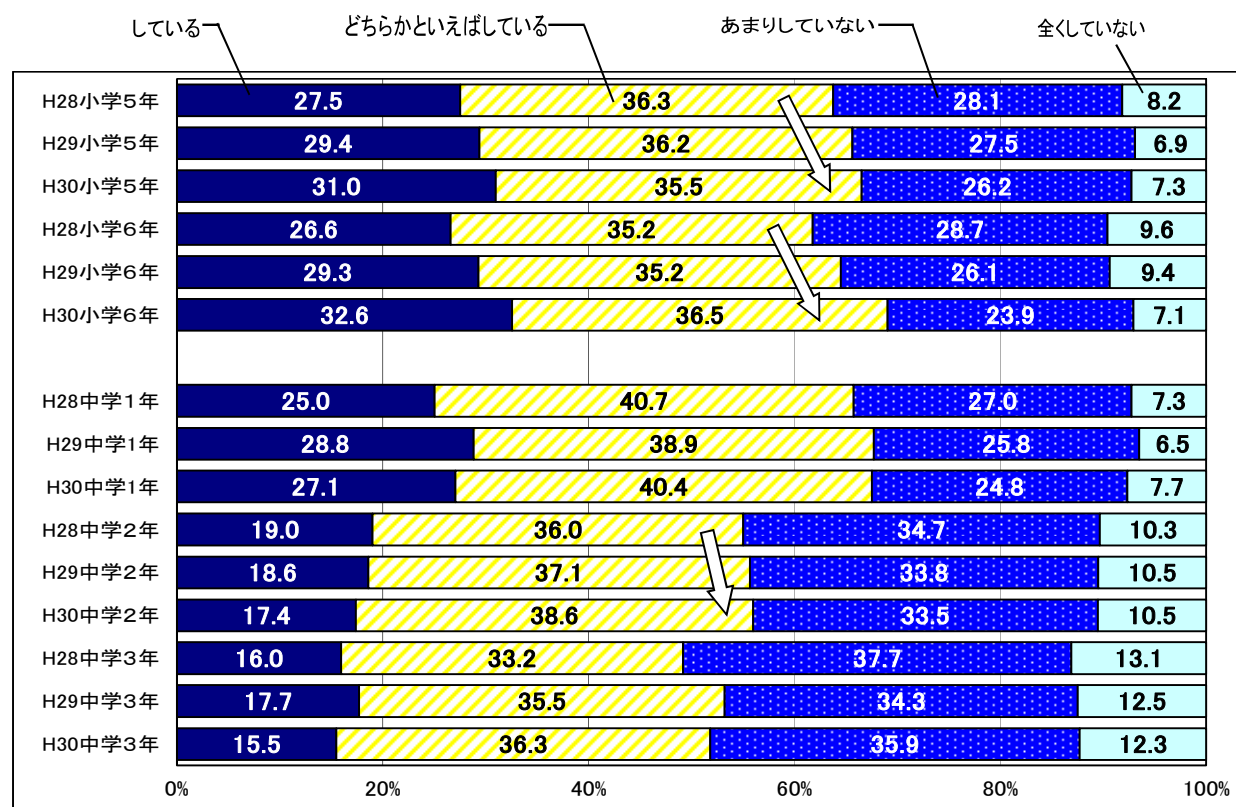


[グラフ 21] 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む)
平成 28～30 年度「同一学年」の経年比較

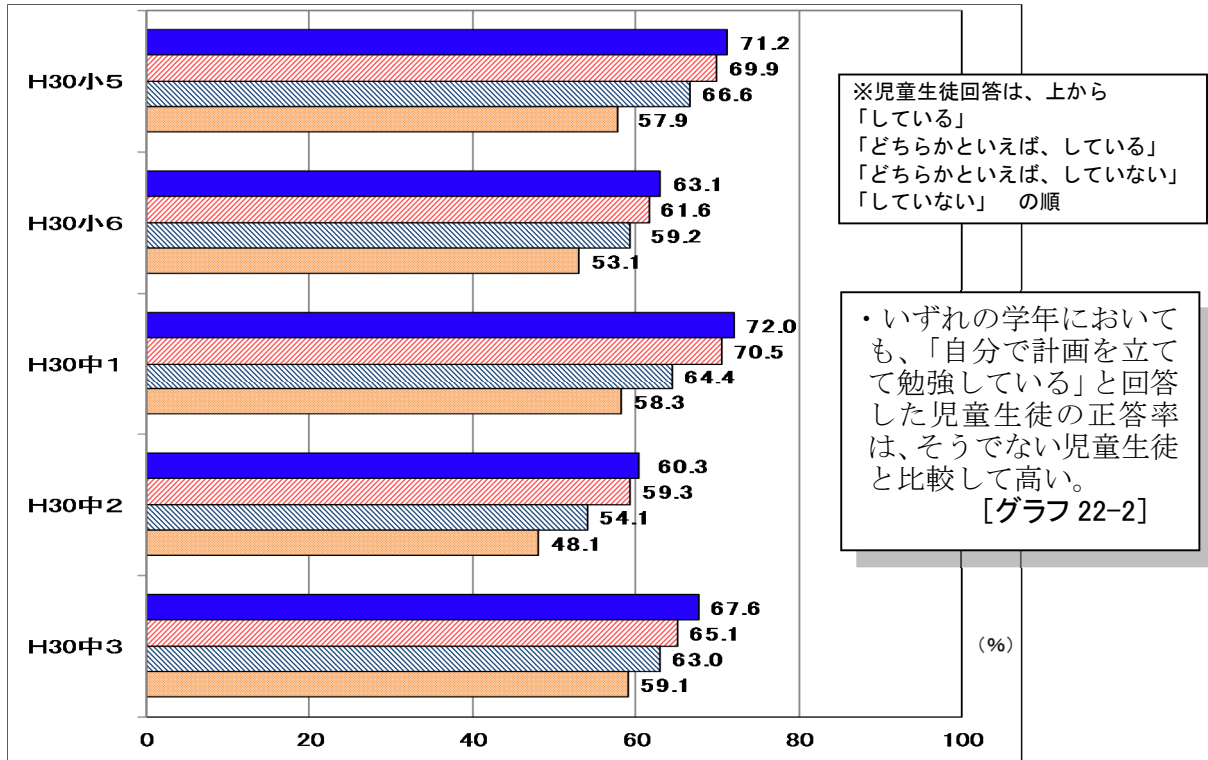


※ 小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、H30年度の本質問項目のデータはない。

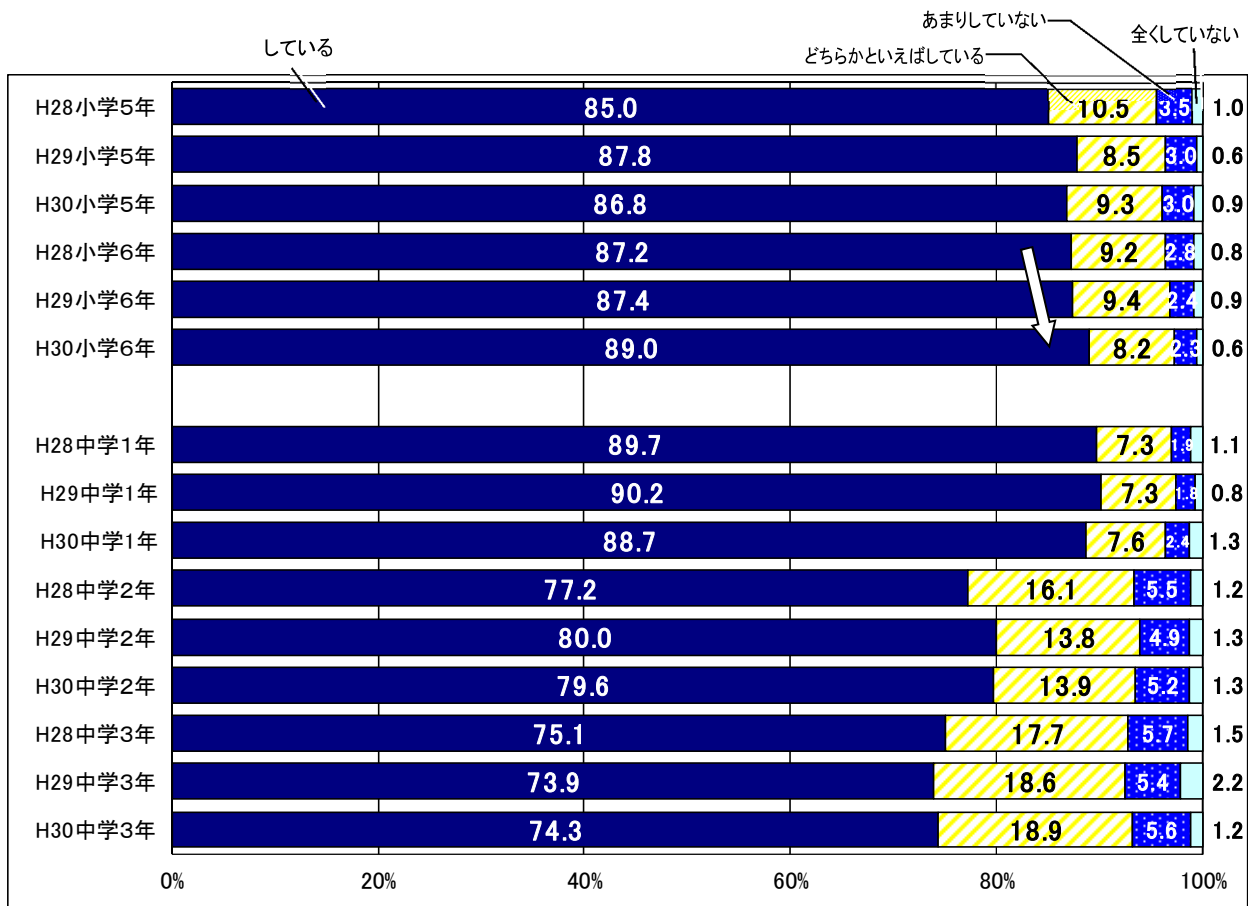
[グラフ 22-1] 自分で計画を立てて勉強している。平成 28～30 年度「同一学年」の経年比較



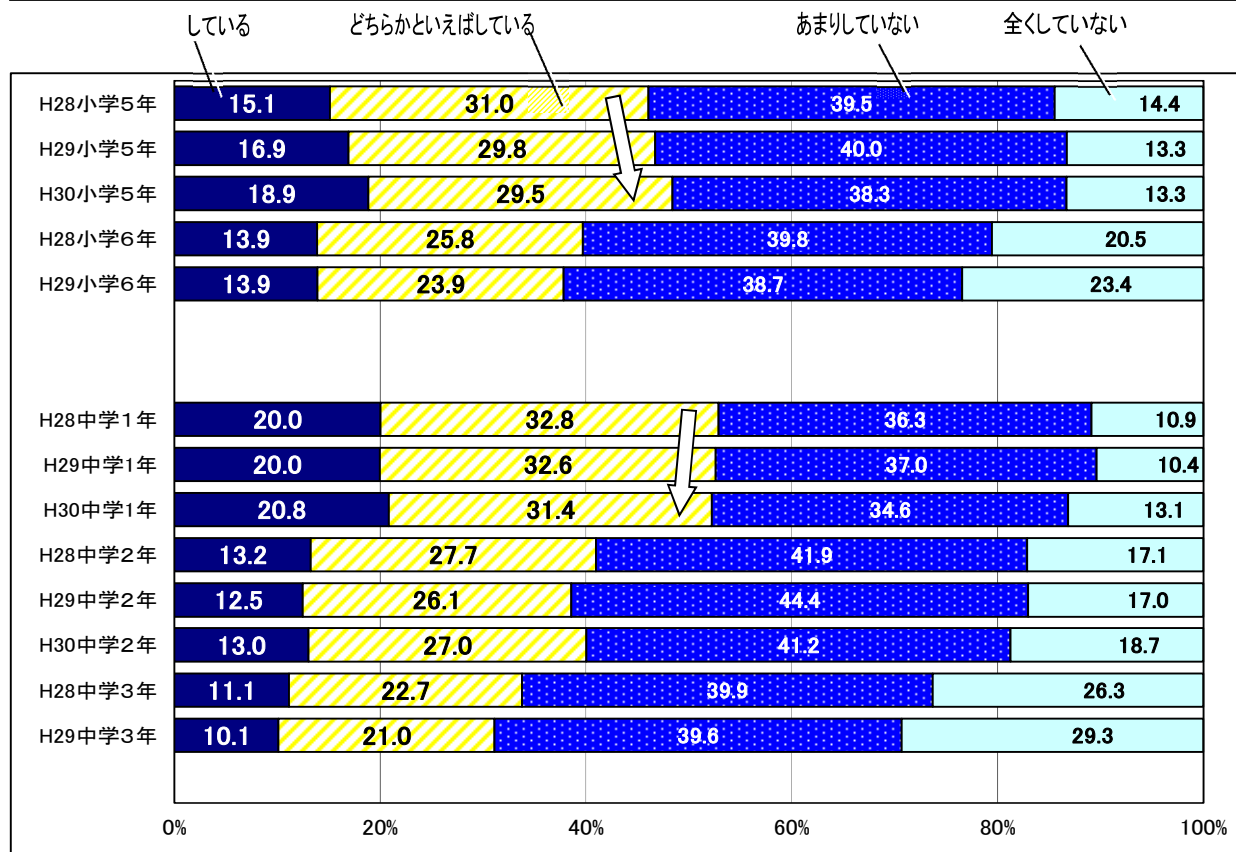
[グラフ 22-2] 「自分で計画を立てて勉強している」の質問に対する回答と教科(小5、中1、中2は国語、算数・数学、小6と中3は国語、算数・数学、理科)平均正答率とのクロス集計結果



[グラフ 23] 学校の宿題をしている。平成 28～30 年度「同一学年」の経年比較

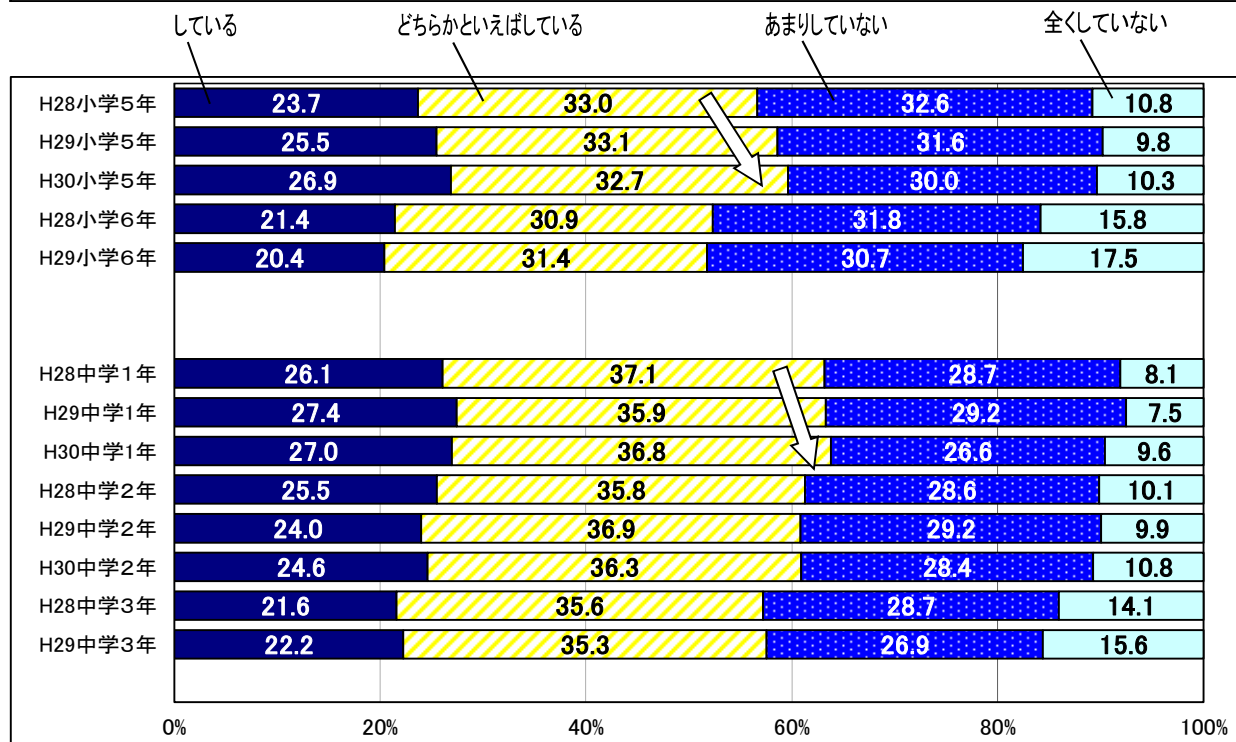


[グラフ 24] 学校の授業の予習をしている。平成 28～30 年度「同一学年」の経年比較



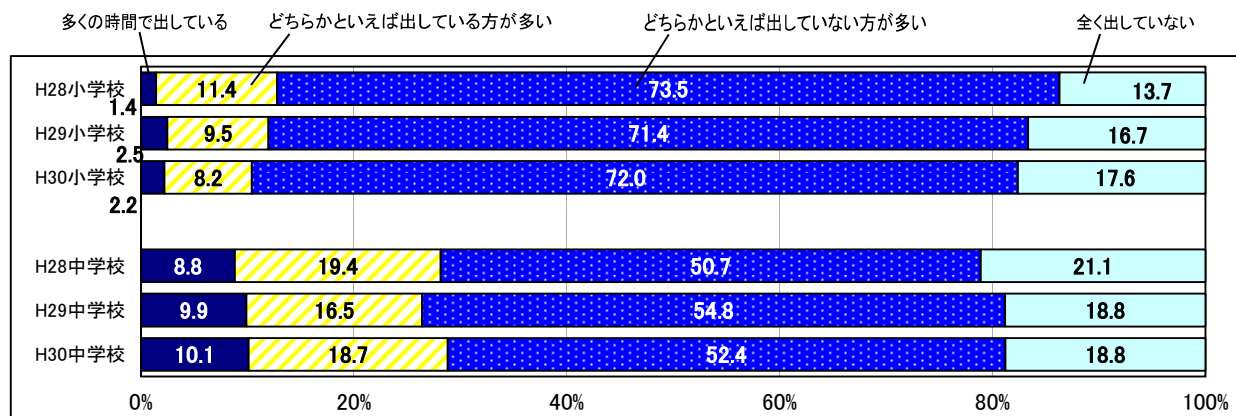
※ 小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、H30年度の本質問項目のデータはない。

[グラフ 25] 学校の授業の復習をしている。平成 28～30 年度「同一学年」の経年比較

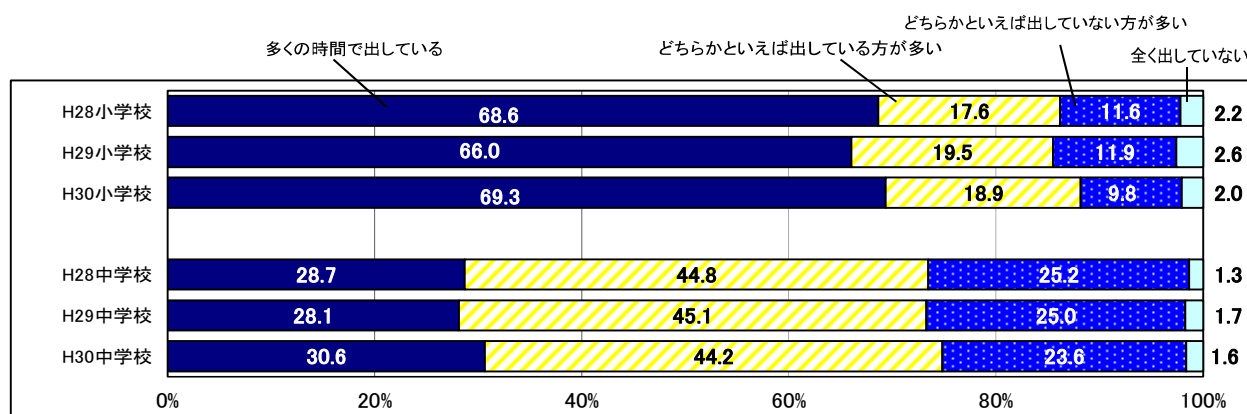


※ 小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、H30年度の本質問項目のデータはない。

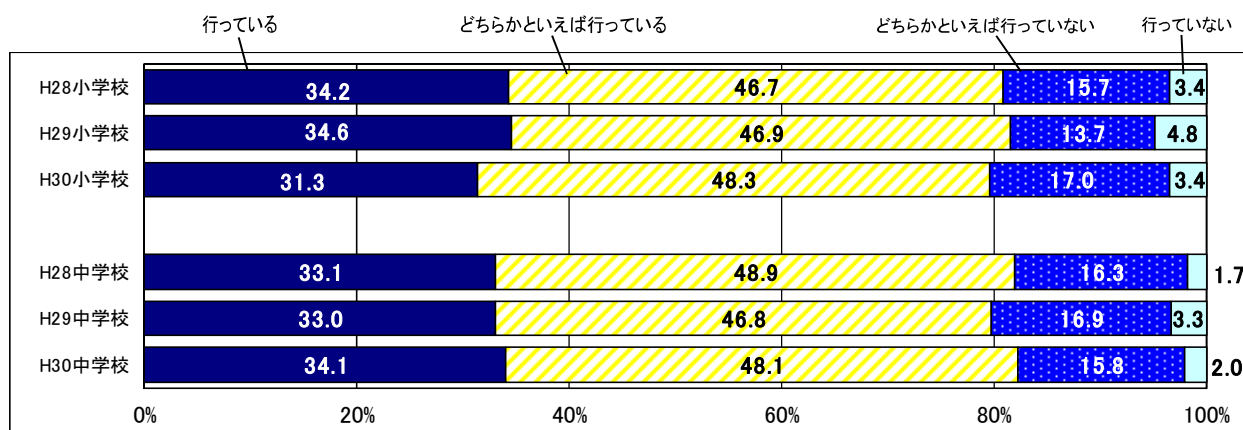
[参考 4] 予習的な内容の宿題を出していますか。
 ※教師意識調査より 平成 28～30 年度の経年比較



[参考 5] 復習的な内容の宿題を出していますか。
 ※教師意識調査より 平成 28～30 年度の経年比較

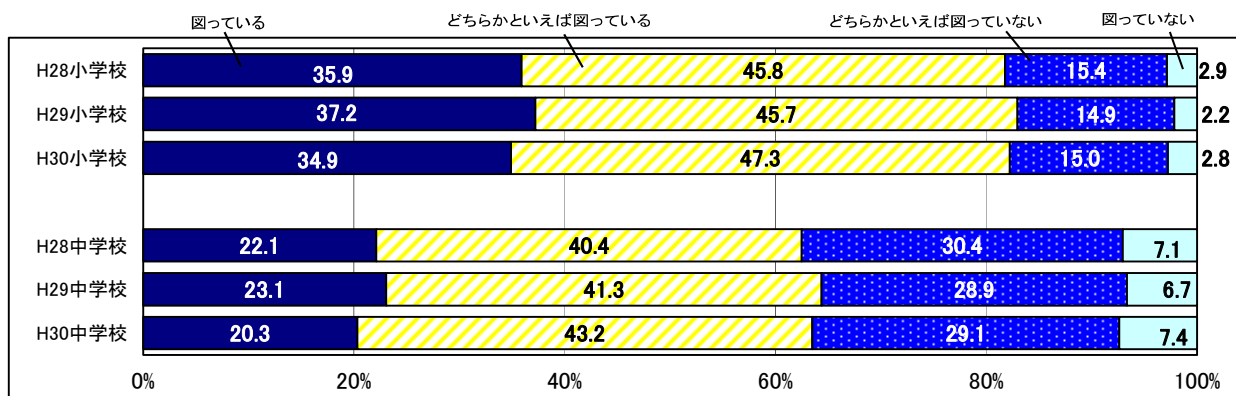


[参考 6] 家庭での学習方法について、具体例を挙げながら指導していますか。
 ※教師意識調査より 平成 28～30 年度の経年比較



[参考 7] 宿題の出し方について、校内の教職員で共通理解を図っていますか。(平成 30 年度
 中学校の意識調査は、「宿題の内容や量、教科のバランスについて、校内の教員で
 共通理解を図っていますか。)

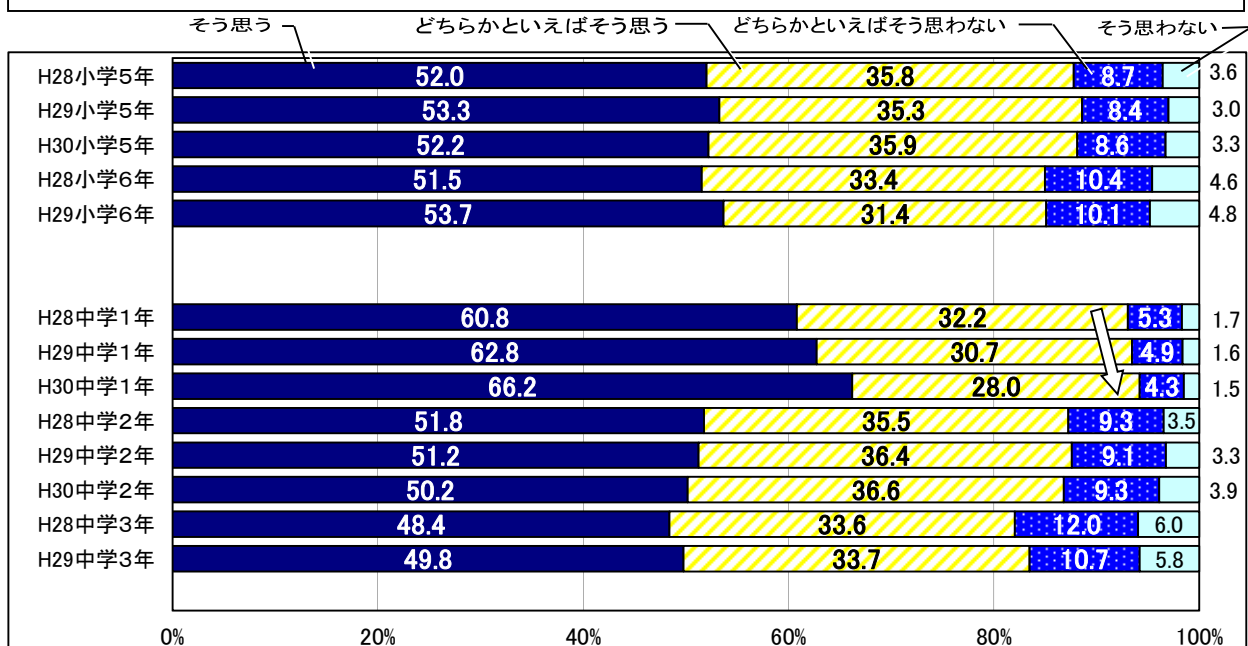
※教師意識調査より 平成 28～30 年度の経年比較



(4) 学校生活、家庭生活について

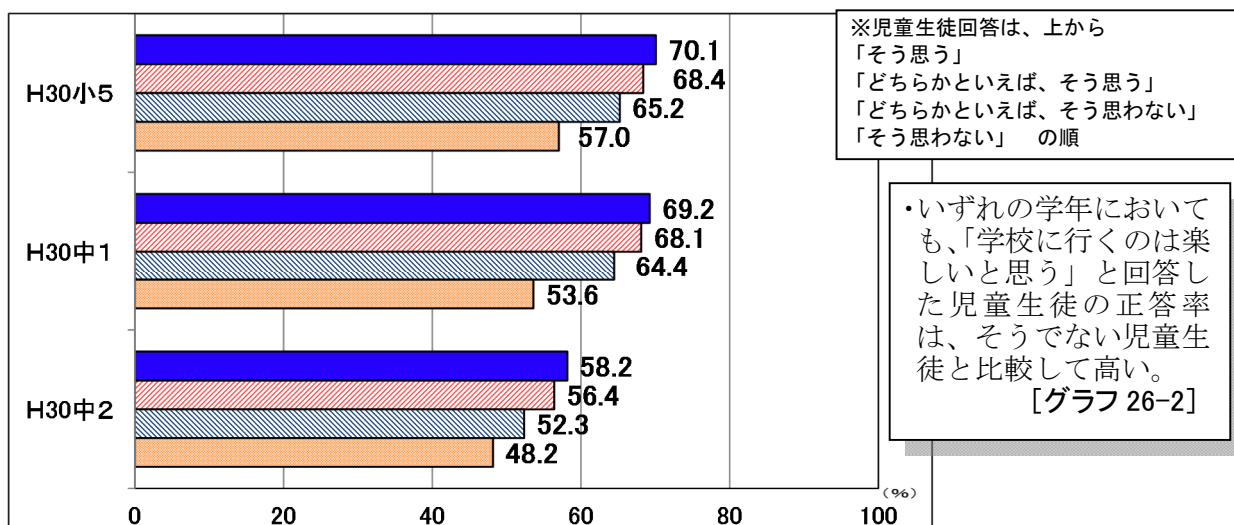
- 「学校に行くのは楽しいと思う」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、中学1年で増加しているが、小学5年、中学2年で前年度を下回っている。[グラフ 26-1]
- 「学校では落ち着いて勉強することができる」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学5年、中学1年で増加しているが、中学2年で前年度を下回っている。[グラフ 27-1]
- 「学校に行くのは楽しいと思う」「学校では落ち着いて勉強することができる」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の正答率は、そうでない児童生徒と比較して高い。[グラフ 26-2、27-2]
- 平日2時間以上テレビやビデオ・DVDを視聴する児童生徒の割合は、中学2年で減少している。小学5年、中学1年では前年度を上回っている。[グラフ 28-1]
- 平日2時間以上テレビゲームをする児童生徒の割合は、小学5年で増加しており、中学1年、中学2年で前年度を上回っている。[グラフ 29-1]
- 平日に、携帯電話やスマートフォンを1時間以上使用している児童生徒の割合は、小学5年、中学1年、中学2年で増加している。[グラフ 30-1]
- テレビやビデオ・DVDを視聴する時間、テレビゲームをする時間、携帯電話やスマートフォンを使用する時間が長いほど、正答率が低くなる傾向にある。[グラフ 28-2、29-2、30-2]
- 「将来の夢や目標をもっている」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学5年、小学6年と中学1年で概ね8割から9割、中学2年、中学3年で約7割である。中学1年では増加している。中学2年では前年度を上回っているが、小学5年、小学6年、中学3年で前年度を下回っている。[グラフ 31-1]

[グラフ 26-1] 学校に行くのは楽しいと思う 平成 28～30 年度「同一学年」の経年比較

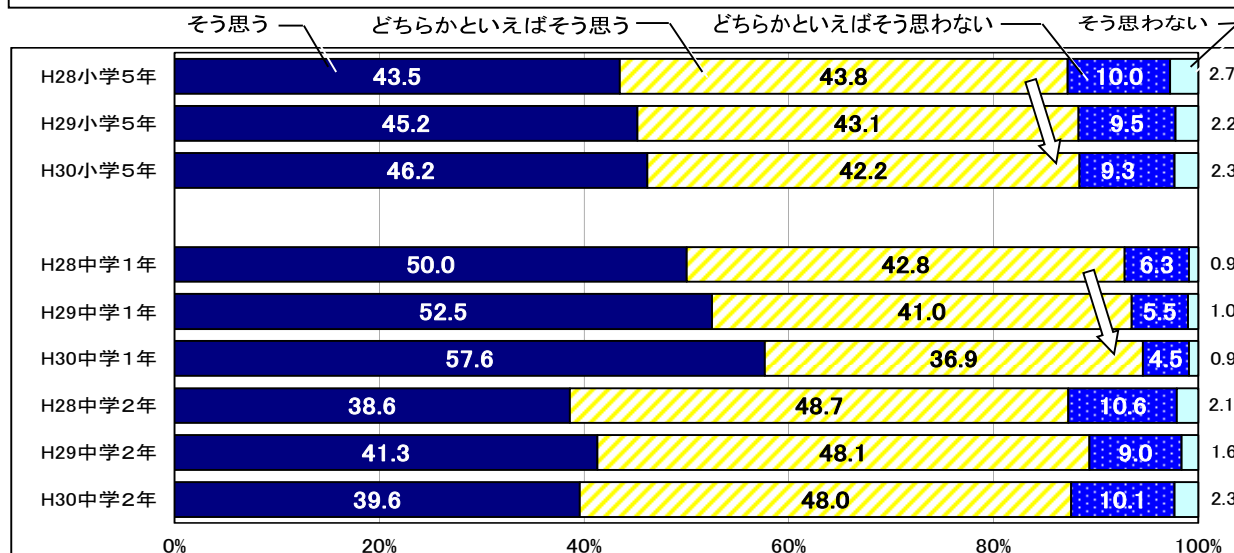


※ 小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、H30年度の本質問項目のデータはない。

[グラフ 26-2] 「学校に行くのは楽しいと思う」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果

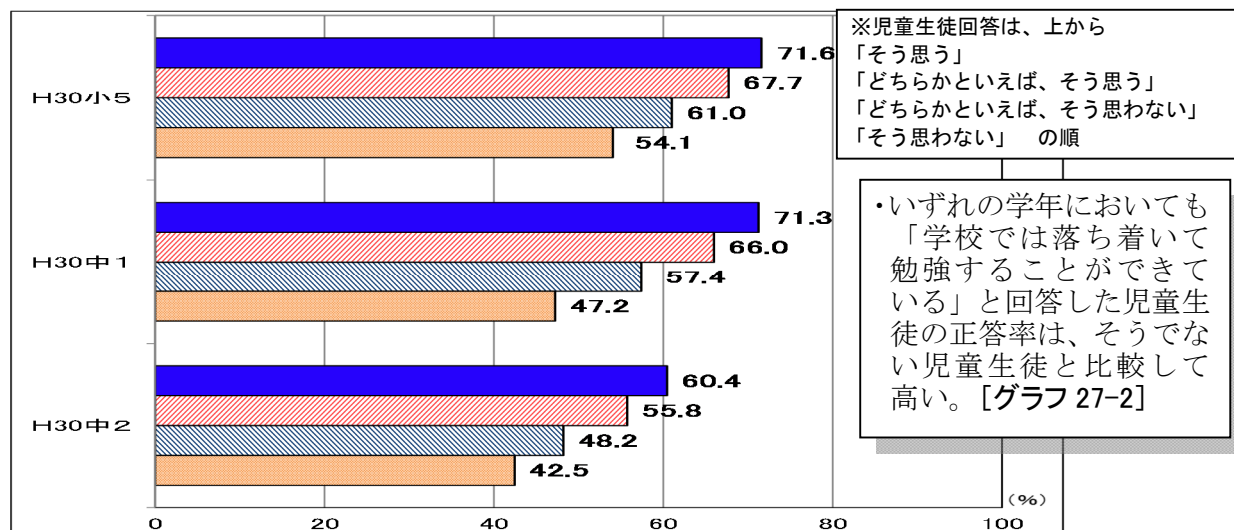


[グラフ 27-1] 学校では落ち着いて勉強することができる 平成 28～30 年度「同一学年」の経年比較

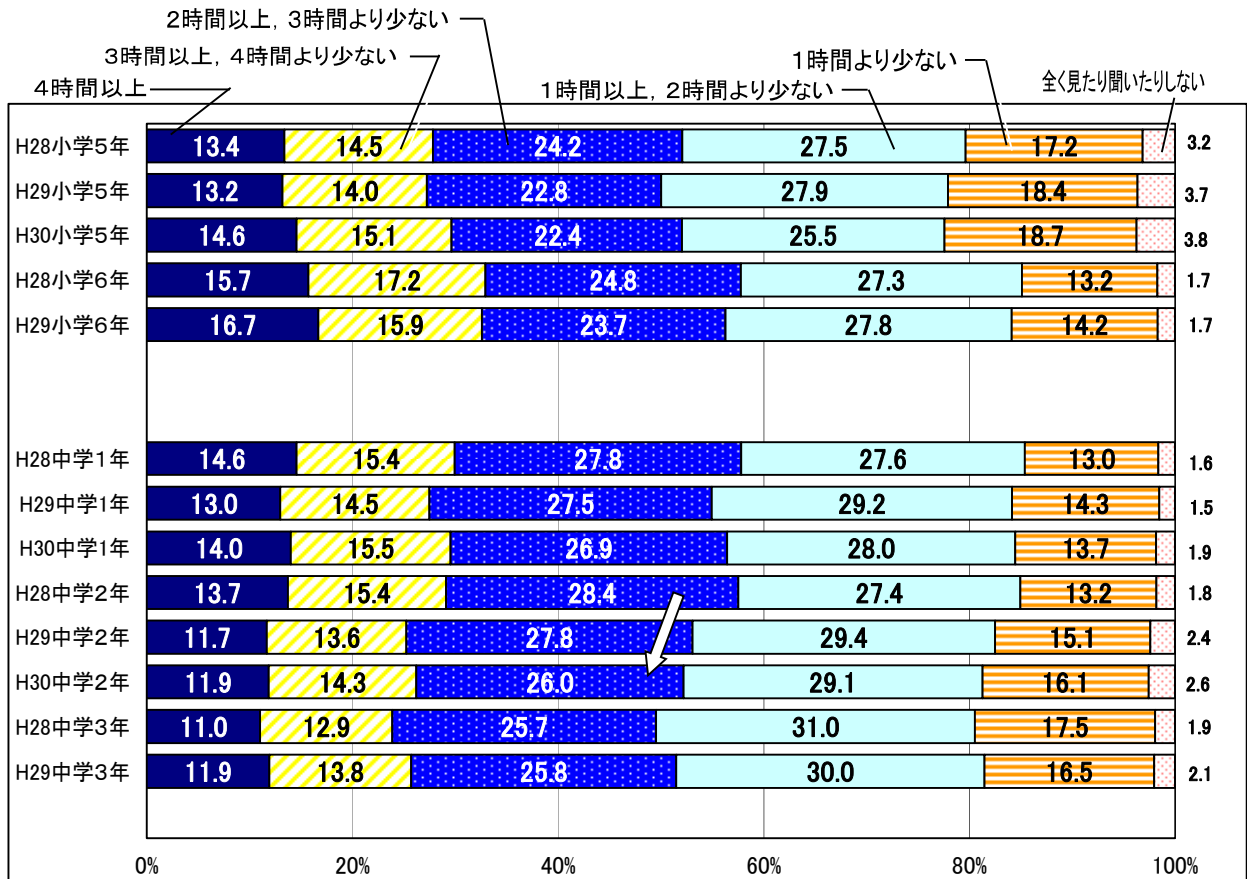


※ 小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、H30年度の本質問項目のデータはない。

[グラフ 27-2] 「学校では落ち着いて勉強することができる」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果

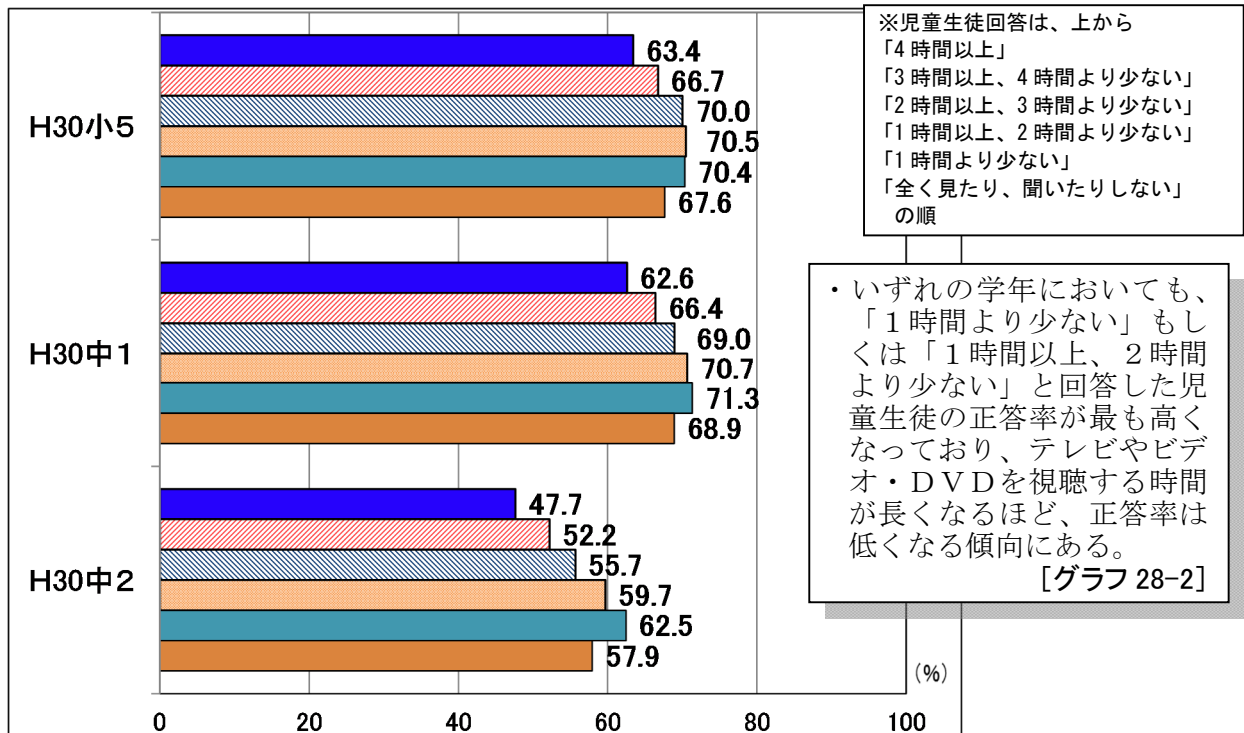


[グラフ 28-1] 1日あたりテレビやビデオ・DVDを視聴する時間(月～金曜日)
平成 28～30 年度「同一学年」の経年比較(テレビゲームをする時間は除く)

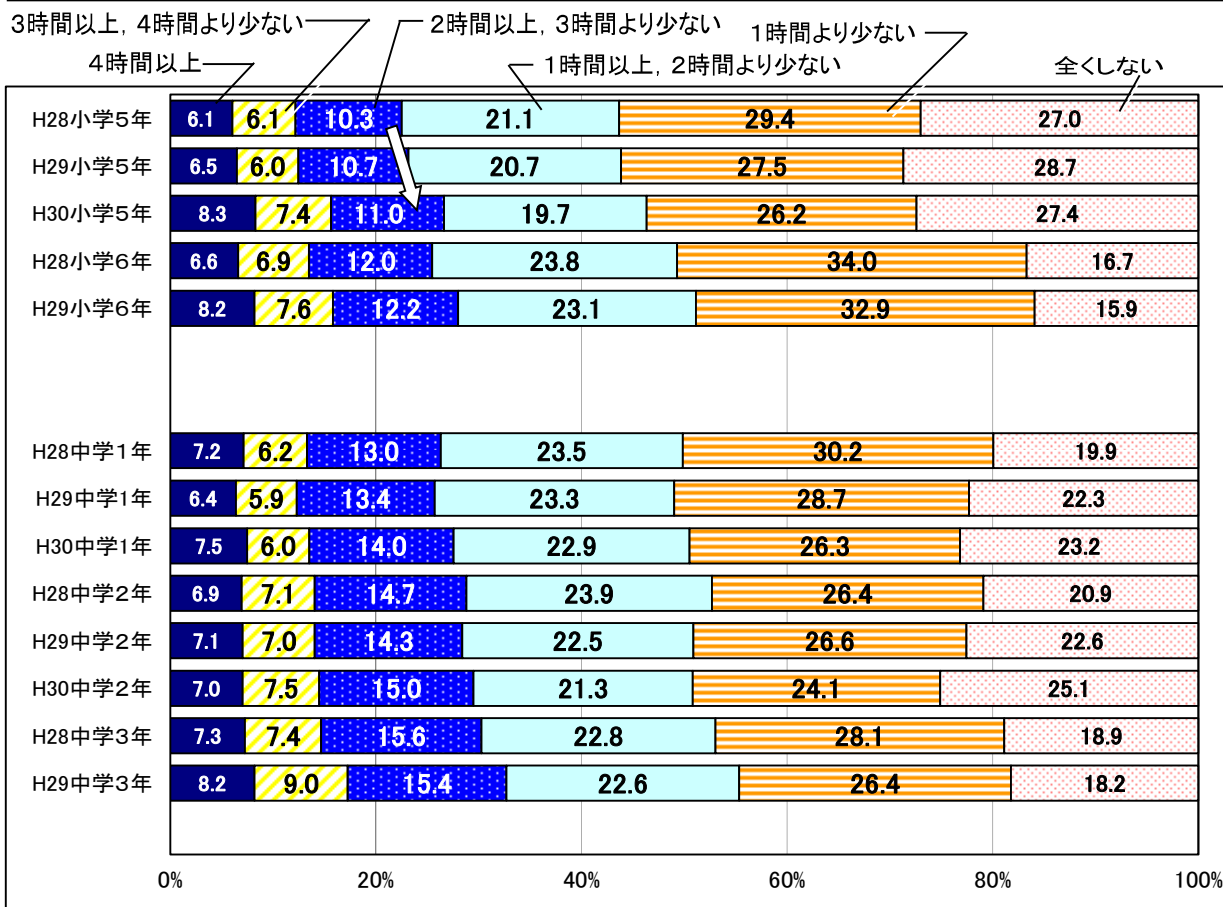


※ 小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、H30年度の本質問項目のデータはない。

[グラフ 28-2] 「1日あたりテレビやビデオ・DVDを視聴する時間(月～金曜日 テレビゲームをする時間は除く)」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果

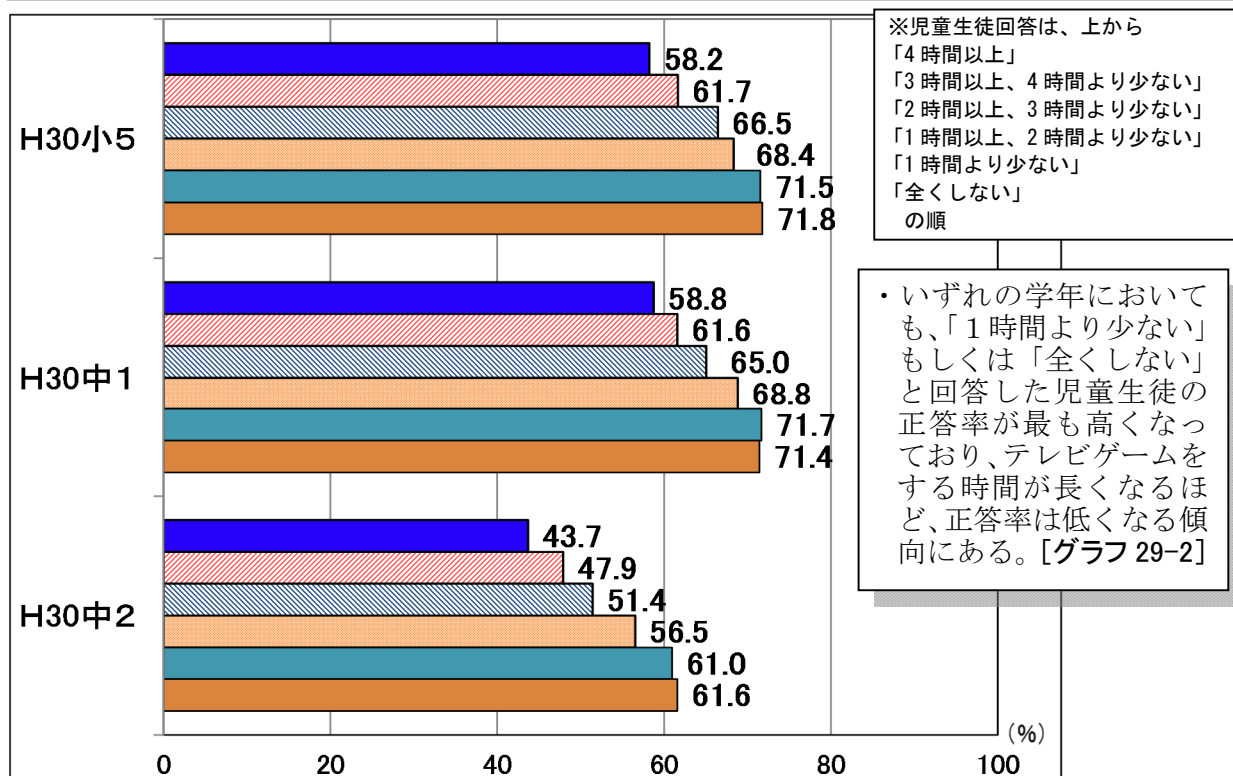


[グラフ 29-1] 1日あたりテレビゲームをする時間(月～金曜日)
平成 28～30 年度「同一学年」の経年比較(コンピュータゲーム、携帯式のゲームを含む)

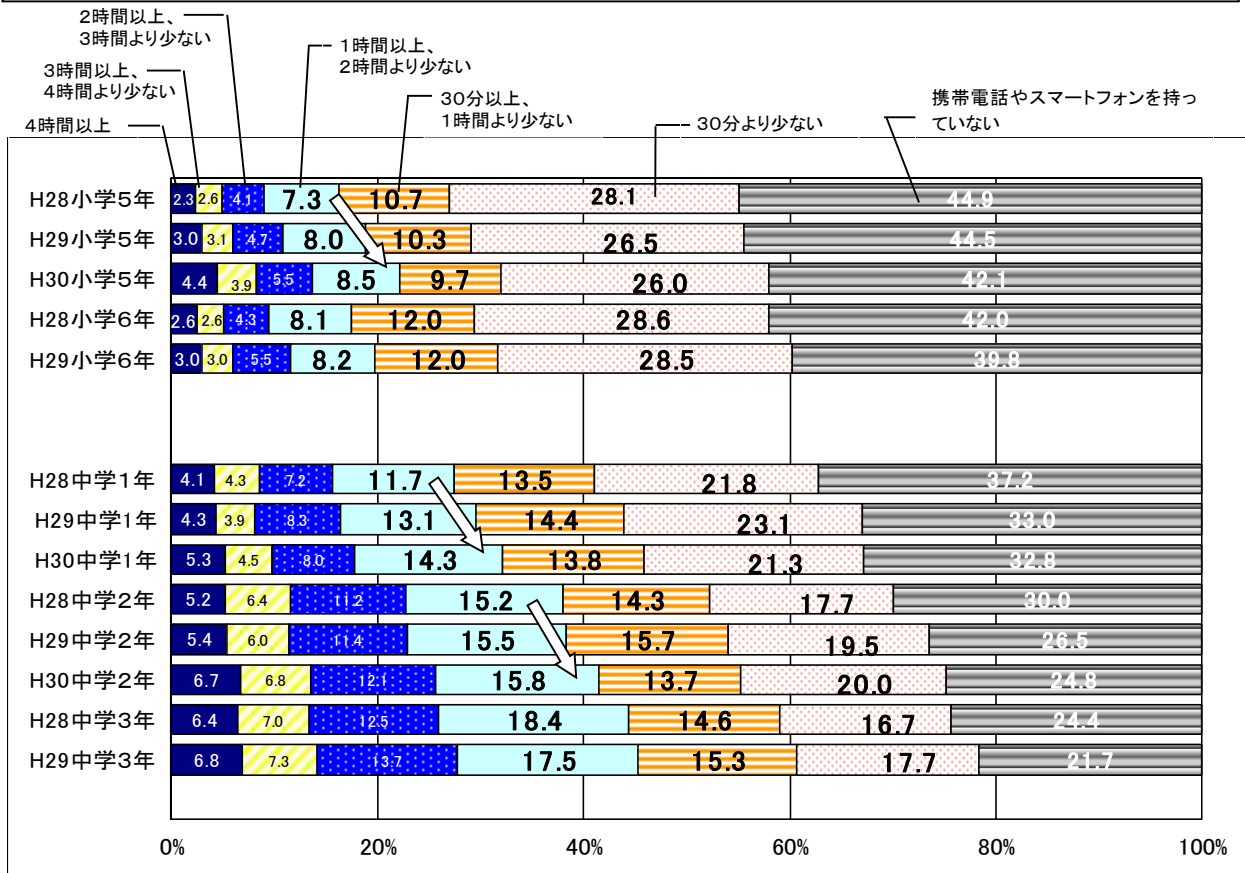


※ 小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、H30年度の本質問項目のデータはない。

[グラフ 29-2] 「1日あたりテレビゲームをする時間(月～金曜)」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果

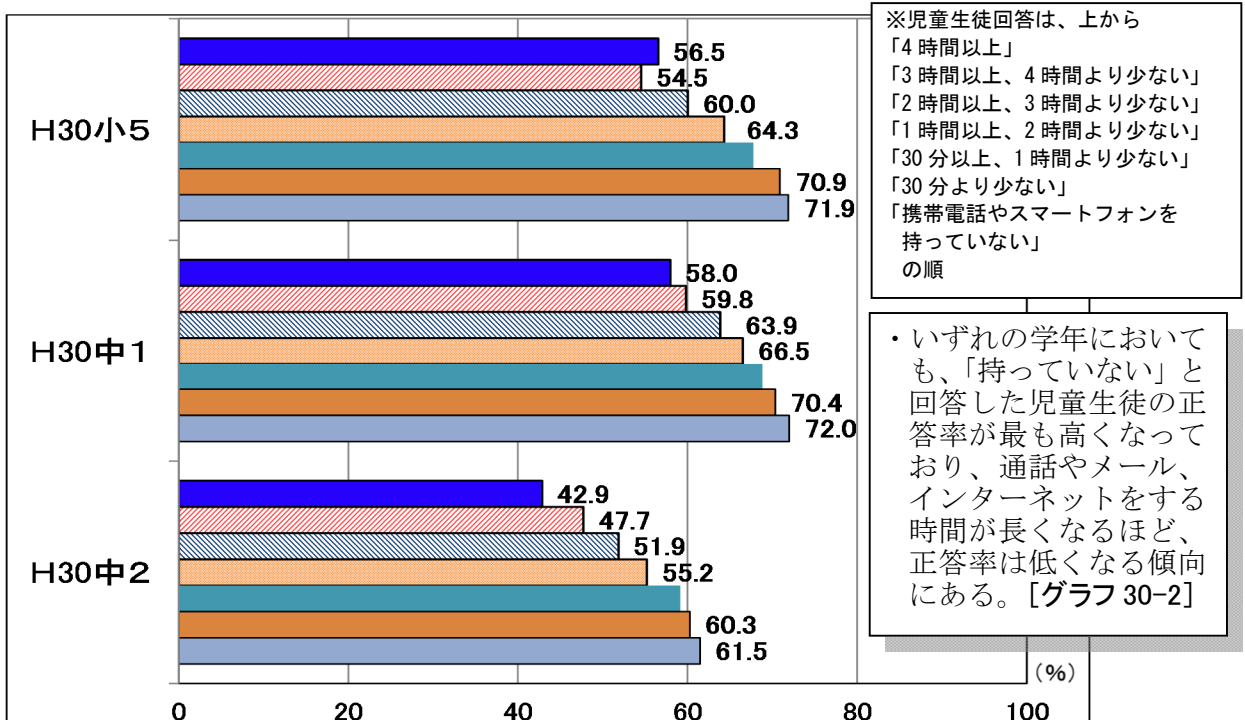


[グラフ 30-1] 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをするか ※平成 26 年度から調査項目に加わった(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)

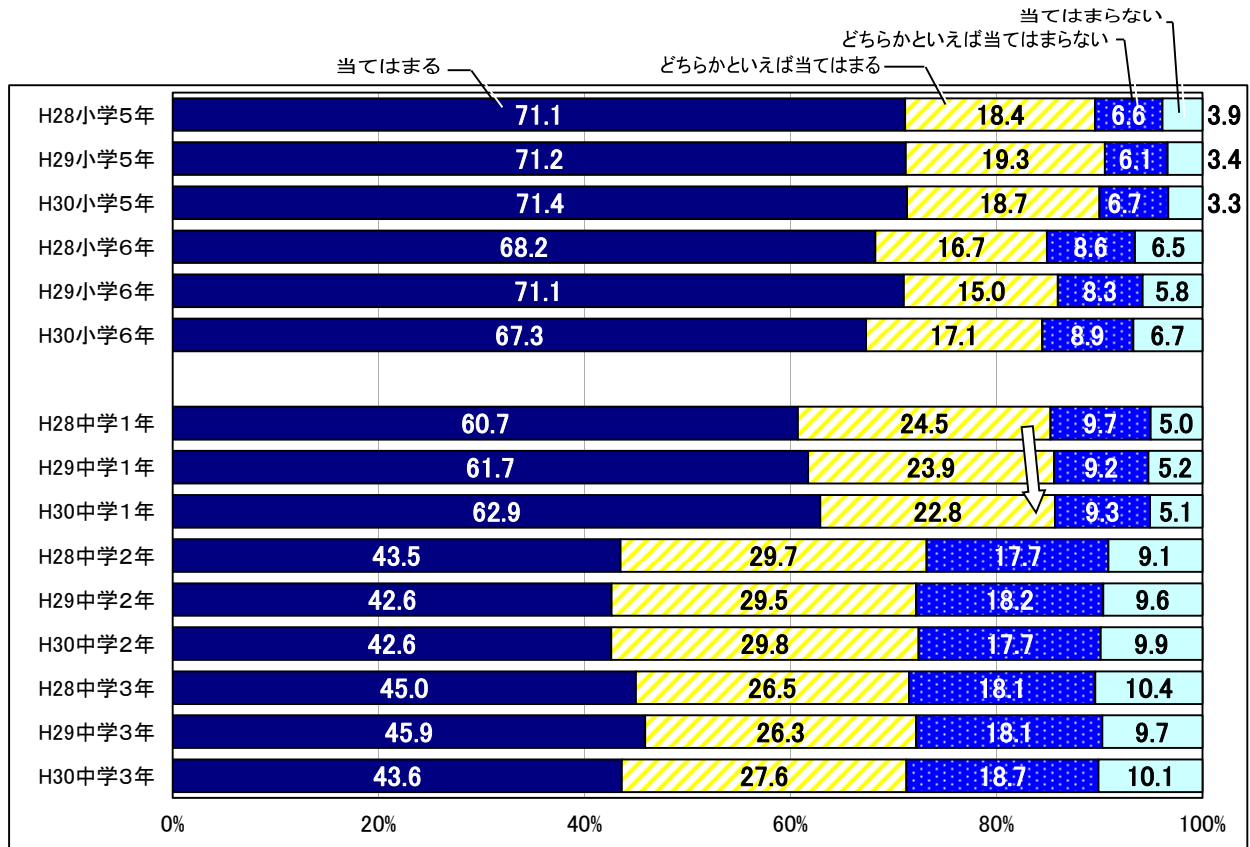


※ 小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、H30年度の本質問項目のデータはない。

[グラフ 30-2] 「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをするか」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果



[グラフ 31-1] 将来の夢や目標をもっている 平成 28～30 年度「同一学年」の経年比較

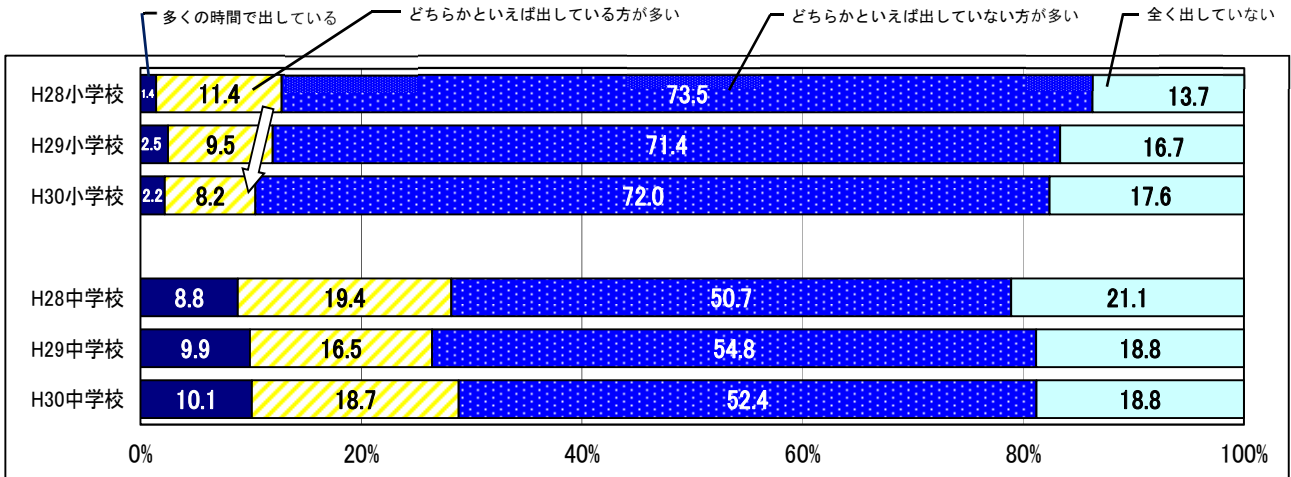


(5) 教師意識調査から

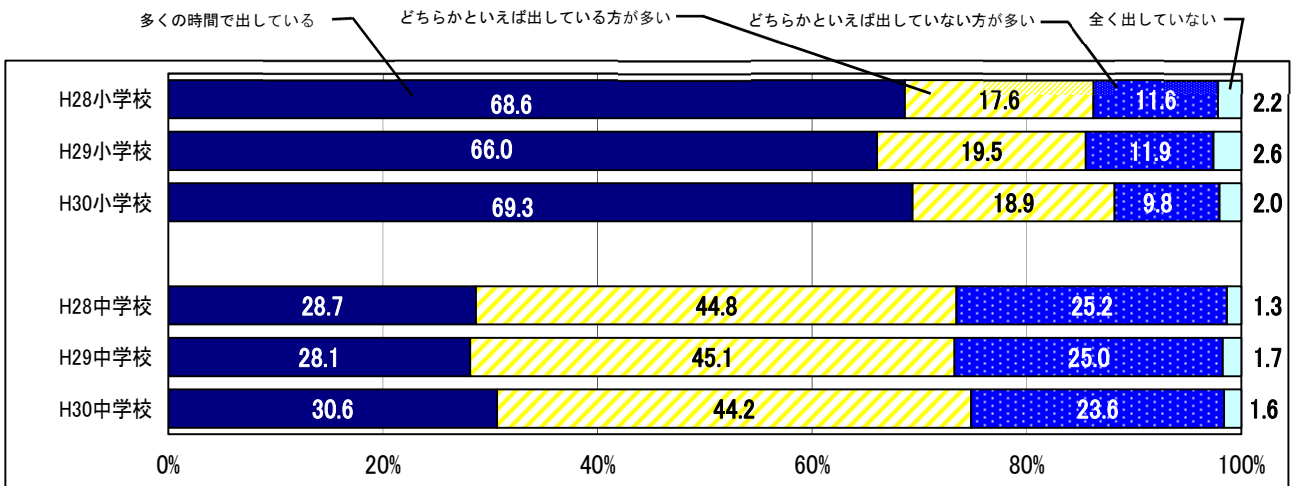
- 「予習的な宿題を出していますか。」という問いに「多くの時間を出している」「どちらかといえば出している方が多い」と回答した教師の割合は、小学校では減少しているが、中学校では前年度を上回っている。小学校では約1割、中学校で3割弱である。[グラフ 32]
- 「復習的な宿題を出していますか。」という問いに「多くの時間を出している」「どちらかといえば出している方が多い」と回答した教師の割合は、小学校、中学校共に前年度を上回っている。小学校では9割弱、中学校では約7割である。[グラフ 33]
- 「授業の中で目標(めあて・ねらい)を児童に示す活動を計画的に取り入れていますか。」という問いに対して「取り入れている」と回答をした教師の割合は、小学校では減少しているが、中学校では前年度を上回っている。小学校では約8割、中学校では約7割である。[グラフ 34]
- 「授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れていますか。」という問いに対して「取り入れている」と回答をした教師の割合は、小学校では減少しているが、中学校では前年度と変わらない。小学校では4割弱、中学校では3割弱である。「どちらかといえば取り入れている」を含めた肯定的な回答は小学校で9割弱、中学校で8割弱である。[グラフ 35]
- 「ノートのとまとめ方や話し合いの進め方など、学習方法についてきめ細やかに指導を行っていますか。」という問いに対して「行っている」と回答をした教師の割合は、小学校では前年度を下回っているが、中学校では増加している。小学校では約3割、中学校では3割弱である。「どちらかといえば行っている」を含めた肯定的な回答は小学校で約9割、中学校で約8割である。[グラフ 36]
- 「家庭での学習方法について、具体例を挙げながら指導していますか。」という問いに対して「行っている」と回答をした教師の割合は、小学校では前年度を下回っているが、中学校では前年度を上回っている。「どちらかといえば行っている」を含めた肯定的な回答は小学校、中学校ともに約8割である。[グラフ 37]
- 「宿題の出し方について、校内の教職員で共通理解を図っていますか。」という問いに対して「図っている」と回答をした教師の割合は、小学校、中学校ともに前年度を下回っている。「どちらかといえば図っている」を含めた肯定的な回答は小学校で約8割、中学校で約6割である。[グラフ 38]

※ 教師意識調査はいずれも当該年度の前年度2月に調査対象児童生徒を指導している教師を対象に実施したものである。(例： H30小学校 → 平成29年度中の平成30年2月に調査を実施)

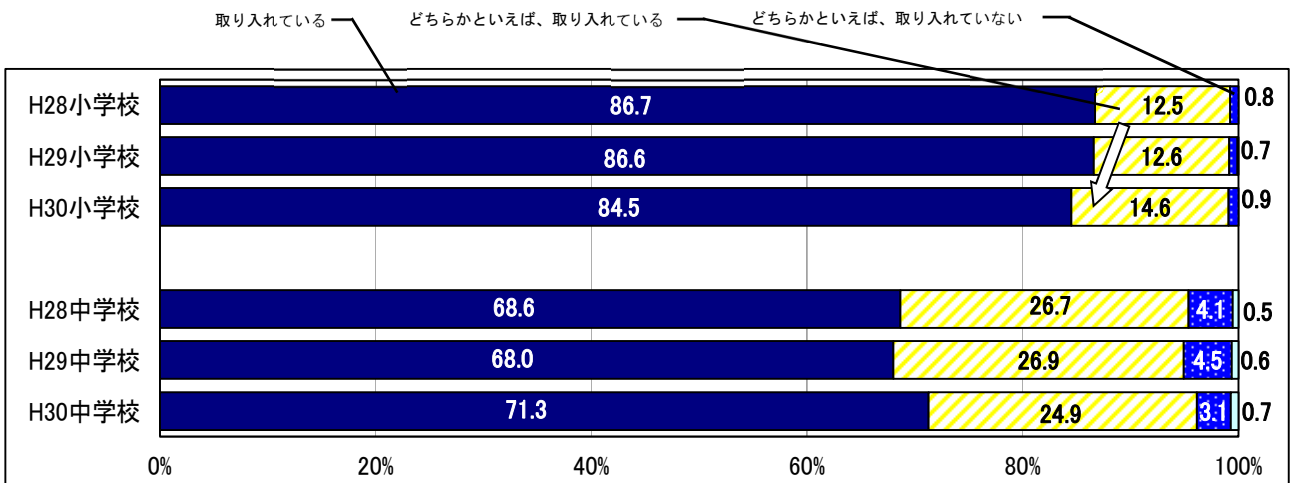
[グラフ 32] 予習的な宿題は出していますか。 平成 28～30 年度の経年比較



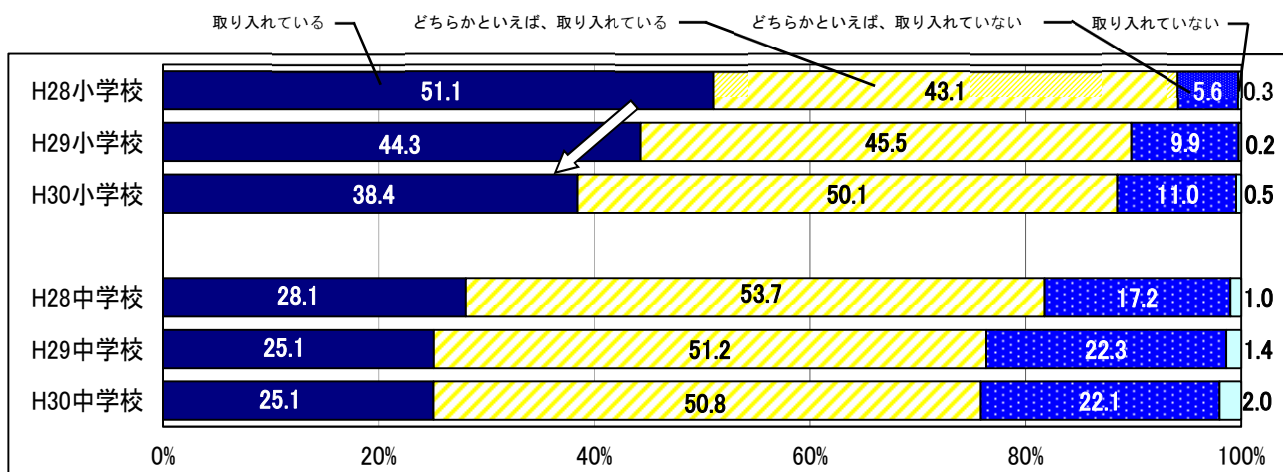
[グラフ 33] 復習的な宿題は出していますか。 平成 28～30 年度の経年比較



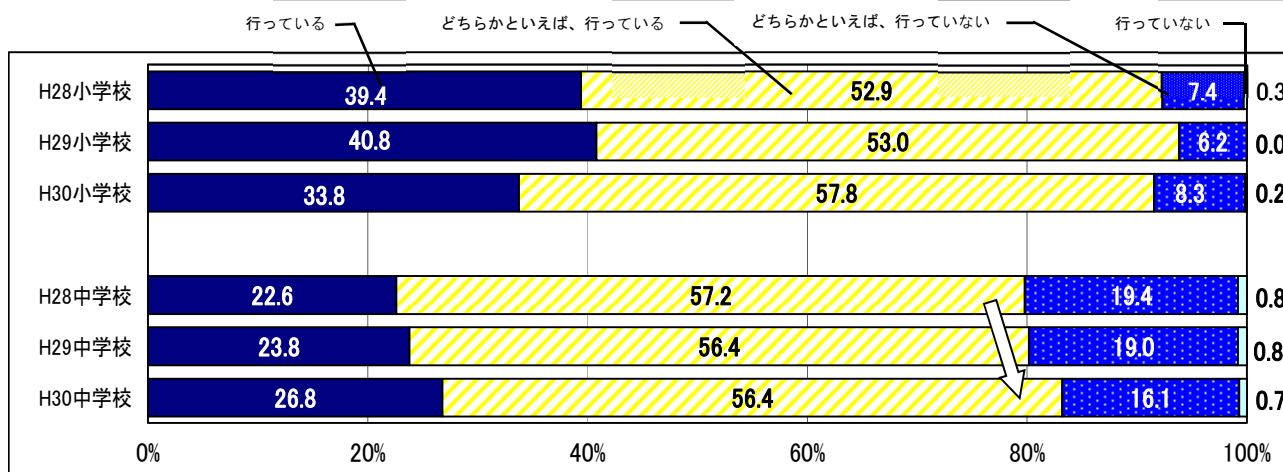
[グラフ 34] 授業の中で目標(めあて・ねらい)を児童に示す活動を計画的に取り入れていますか。 平成 28～30 年度の経年比較



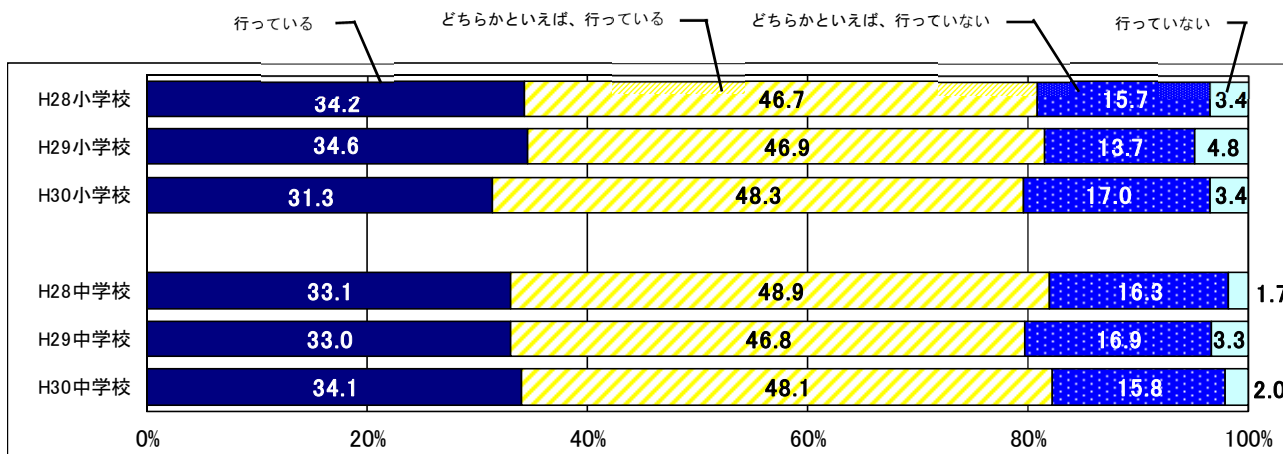
[グラフ 35] 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れていますか。
平成 28～30 年度の経年比較



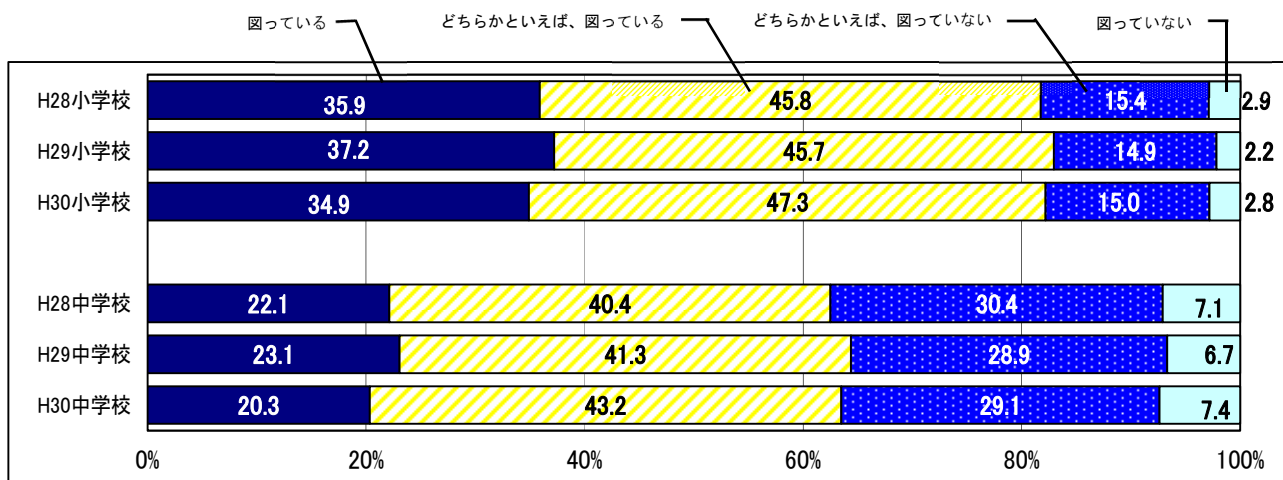
[グラフ 36] ノートのまとめ方や話し合いの進め方など、学習方法についてきめ細やかに指導を行っていますか。
平成 28～30 年度の経年比較



[グラフ 37] 家庭での学習方法について、具体例を挙げながら指導していますか。
平成 28～30 年度の経年比較



[グラフ 38]宿題の出し方について、校内の教職員で共通理解を図っていますか。(平成30年度中学校教師意識調査は、「宿題の内容や量, 教科のバランスについて, 校内の教員で共通理解を図っていますか。」)
平成 28~30 年度の経年比較



(6) 地域別の状況

《児童生徒質問紙調査及び児童生徒意識調査》

※県全体の回答との差が

- 2. 0以上5. 0未満は「やや高い」「やや低い」
- 5. 0以上は「高い」「低い」と標記しています。

① 児童生徒の様子

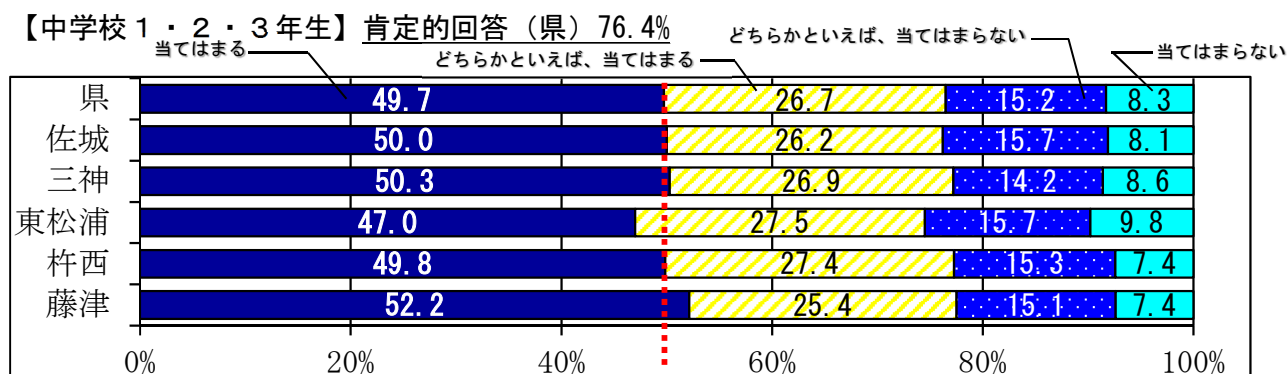
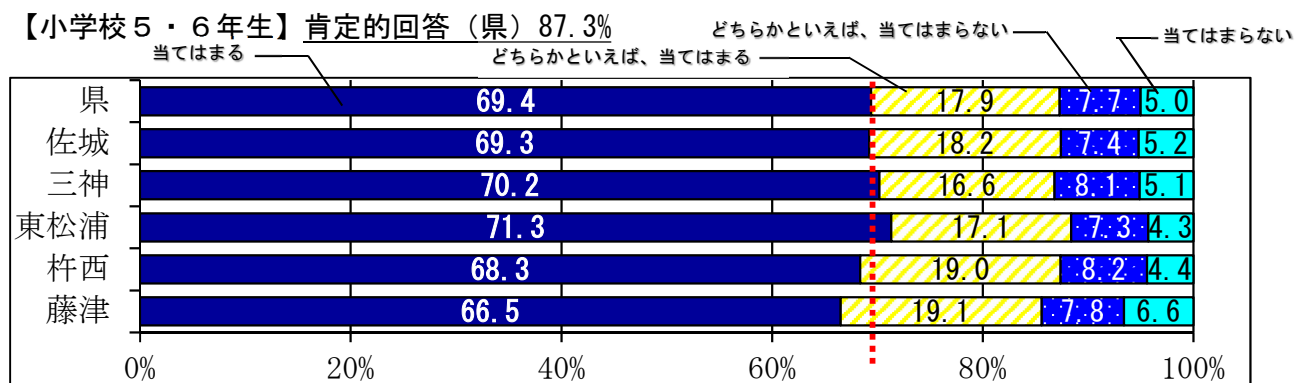
- 「将来の夢や目標を持っている」に「当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校では70%程度であり、県と比べて藤津地域がやや低い。中学校では50%程度であり、県と比べて藤津地域がやや高く、東松浦地域がやや低い。

[グラフ 39]

- 「人の役に立つ人間になりたいと思う」に「そう思う」と答えた児童生徒の割合は、小学校では75%程度であり、県と比べて杵西地域がやや低い。中学校では70%程度であり、県と比べて佐城地域・藤津地域がやや高く、東松浦地域・杵西地域がやや低い。[グラフ 40]

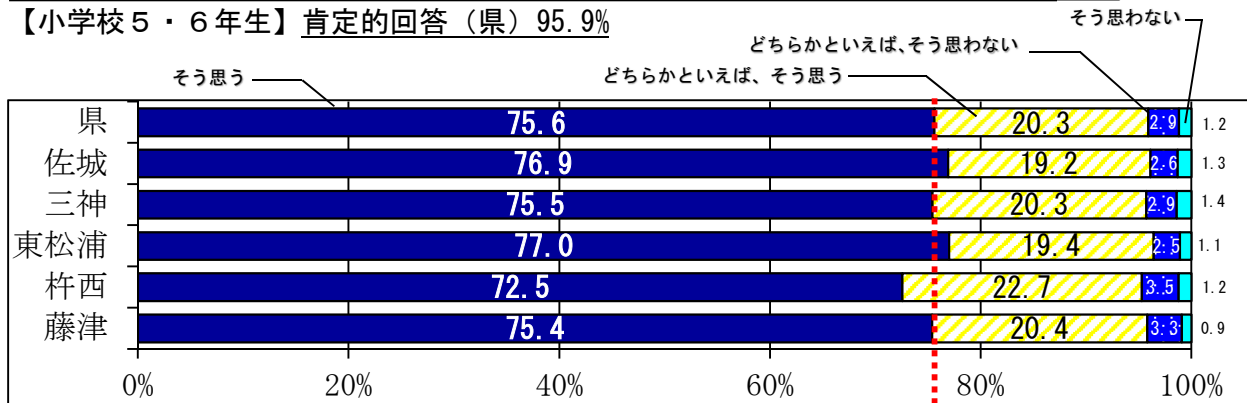
- 「今住んでいる地域の行事に参加している」に「当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校では50%程度であり、県と比べて杵西地域・藤津地域が高く、佐城地域が低く、東松浦地域がやや低い。中学校では30%程度であり、県と比べて杵西地域・藤津地域が高く、佐城地域が低く、三神地域・東松浦地域がやや低い。[グラフ 41]

[グラフ 39] 将来の夢や目標を持っている。

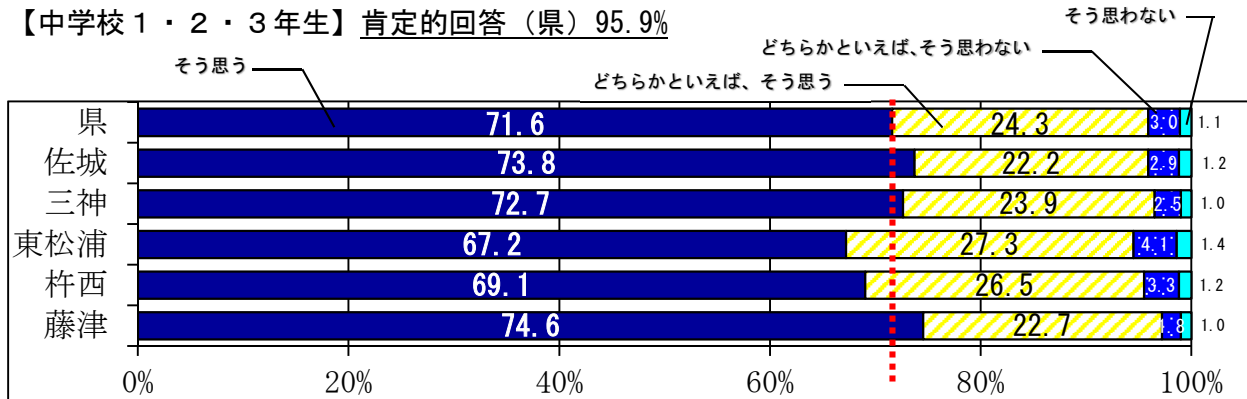


[グラフ 40] 人の役に立つ人間になりたいと思う。

【小学校 5・6 年生】 肯定的回答 (県) 95.9%

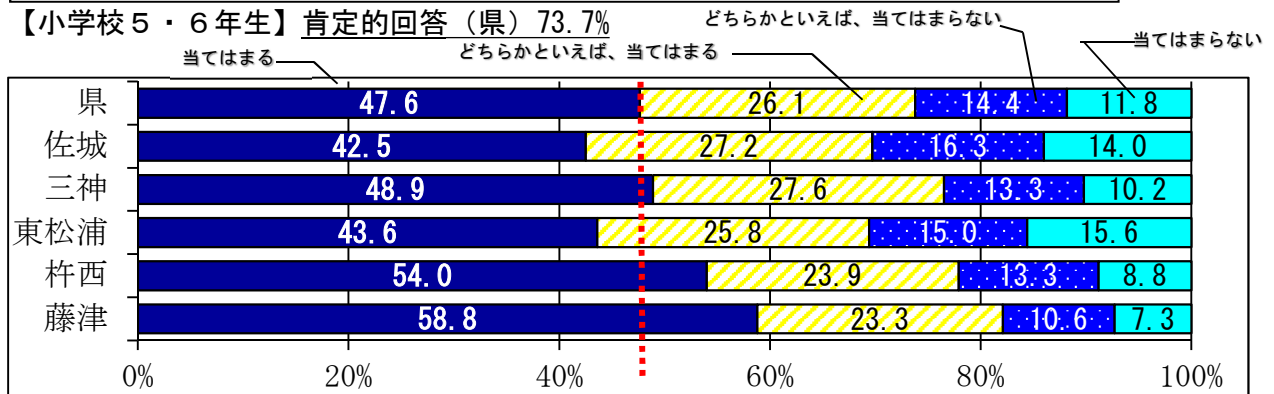


【中学校 1・2・3 年生】 肯定的回答 (県) 95.9%

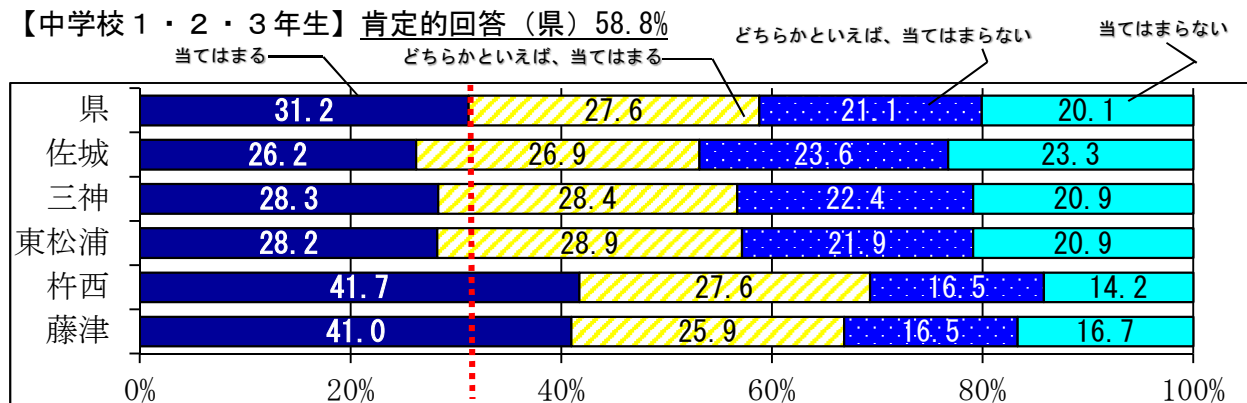


[グラフ 41] 今住んでいる地域の行事に参加している。

【小学校 5・6 年生】 肯定的回答 (県) 73.7%



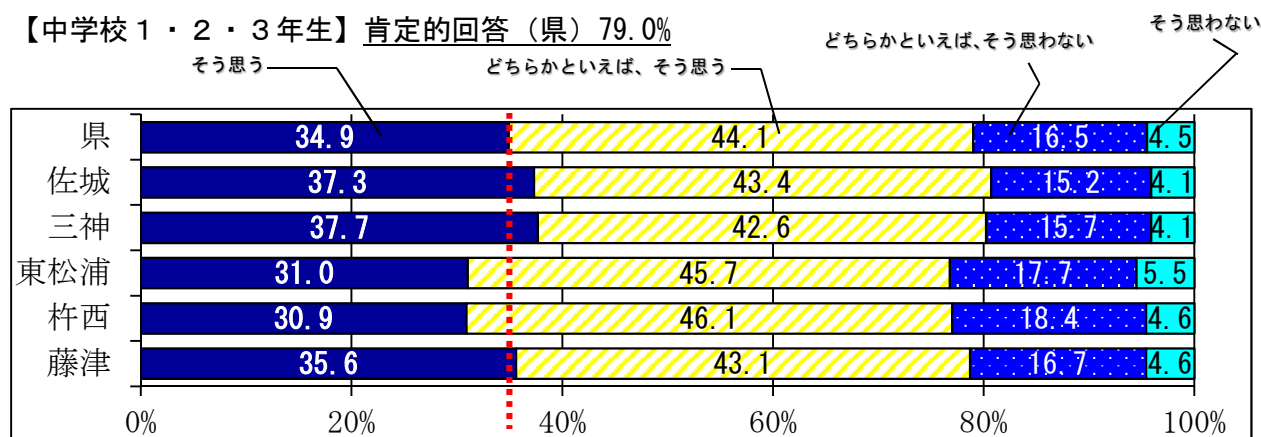
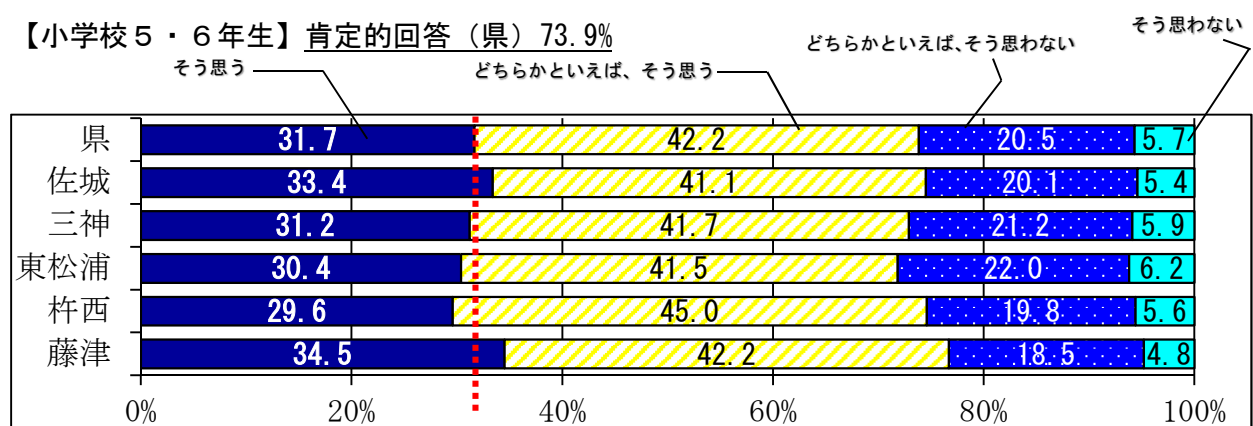
【中学校 1・2・3 年生】 肯定的回答 (県) 58.8%



② 学校での学習について

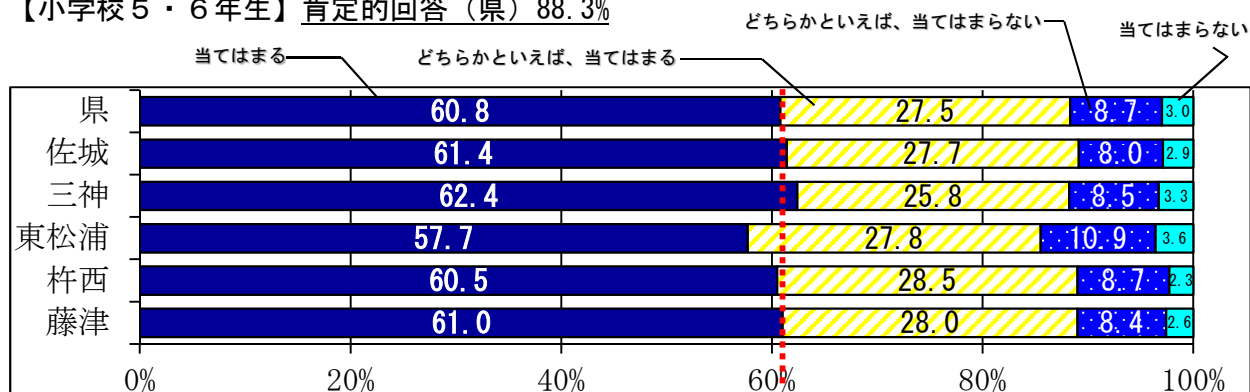
- 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思う」について、「そう思う」と答えた児童生徒の割合は、小学校では30%程度であり、県と比べて藤津地域がやや高く、杵西地域がやや低い。中学校では35%程度であり、県と比べて佐城地域・三神地域がやや高く、東松浦地域・杵西地域がやや低い。[グラフ 42]
- 「算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」について、「当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校では60%程度であり、県と比べて東松浦地域がやや低い。中学校では55%程度であり、県と比べて佐城地域・三神地域・藤津地域がやや高く、東松浦地域が低い。[グラフ 43]
- 「理科の授業の内容はよく分かる」について、「当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校では60%程度であり、三神地域・藤津地域がやや低い。中学校では35%程度であり、県と比べて東松浦地域がやや低い。[グラフ 44]

[グラフ 42] 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思う。

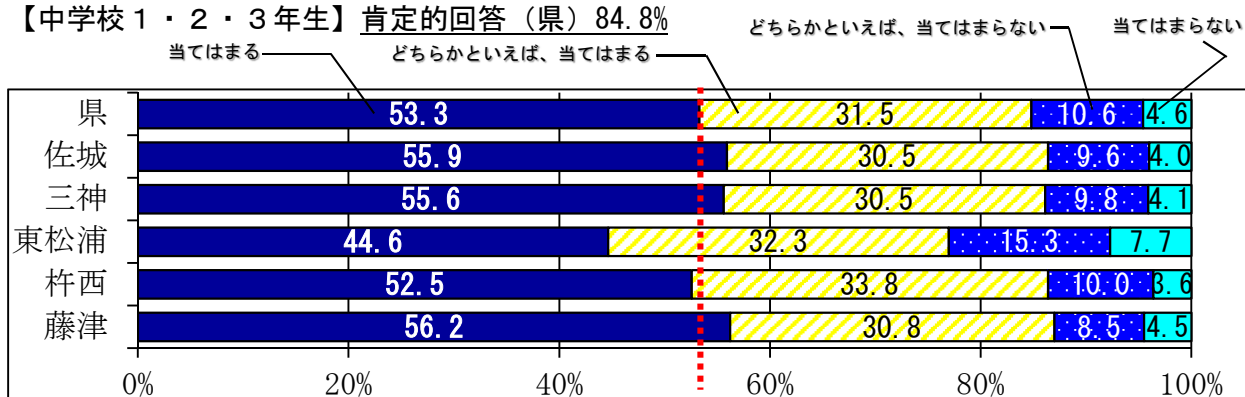


[グラフ 43] 算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。

【小学校5・6年生】肯定的回答（県）88.3%

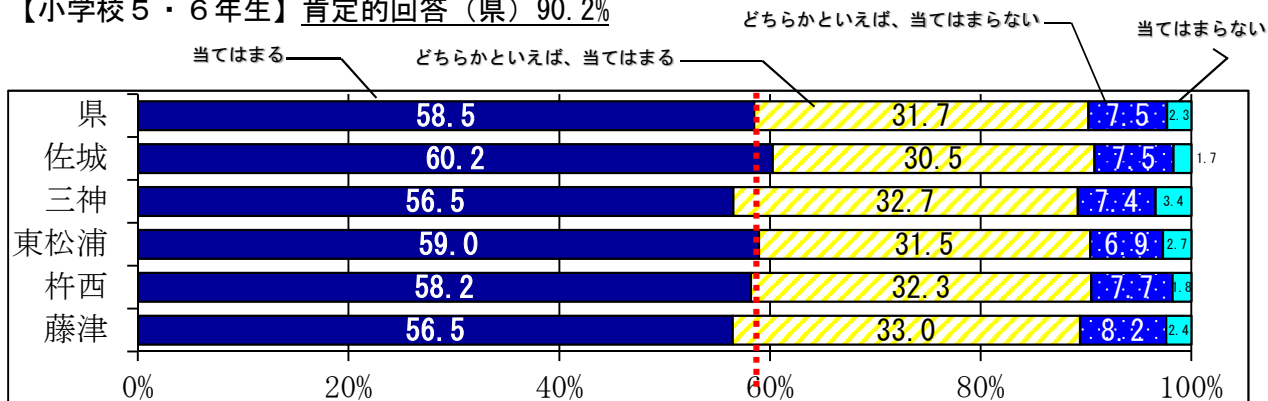


【中学校1・2・3年生】肯定的回答（県）84.8%

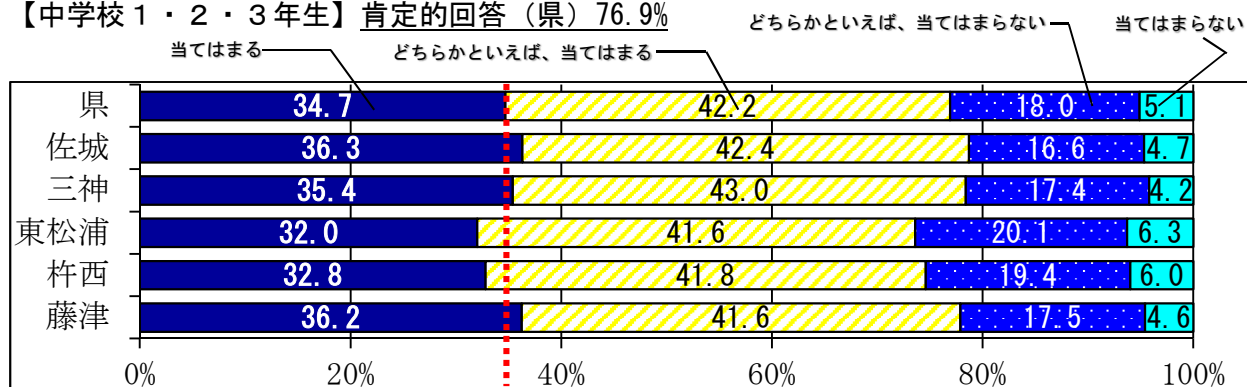


[グラフ 44] 理科の授業の内容はよく分かる。

【小学校5・6年生】肯定的回答（県）90.2%



【中学校1・2・3年生】肯定的回答（県）76.9%

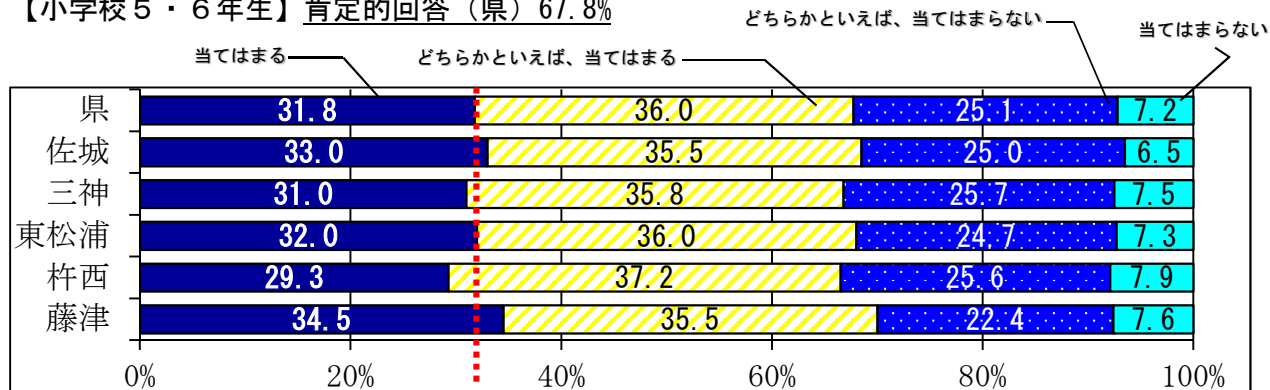


③ 家庭での学習について

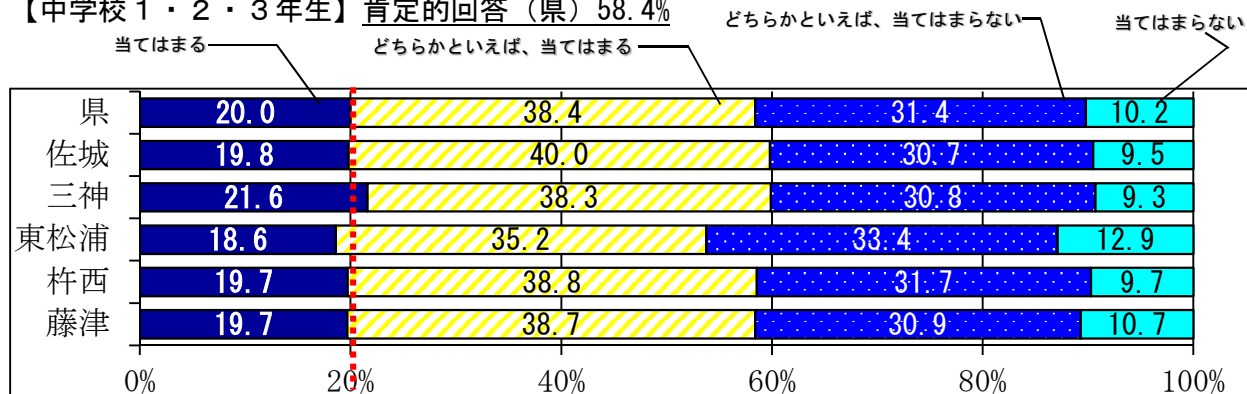
- 「自分で計画を立てて勉強をしている」について、「当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校では30%程度であり、県と比べて藤津地域がやや高く、杵西地域がやや低い。中学校では20%程度であり、どの地域も同程度である。[グラフ 45]
- 「普段（月曜日から金曜日）、1時間以上勉強している」児童生徒の割合は、小・中学校ともに60%程度であり、小学校では県と比べて東松浦地域・藤津地域がやや低い。中学校では県と比べて杵西地域がやや高く、東松浦地域が低い。[グラフ 46]

[グラフ 45] 自分で計画を立てて勉強をしている。

【小学校5・6年生】肯定的回答（県）67.8%

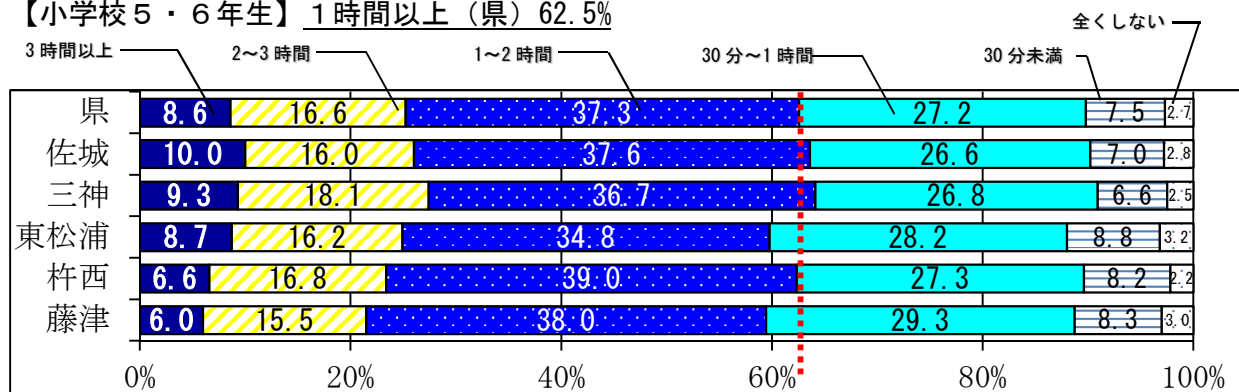


【中学校1・2・3年生】肯定的回答（県）58.4%

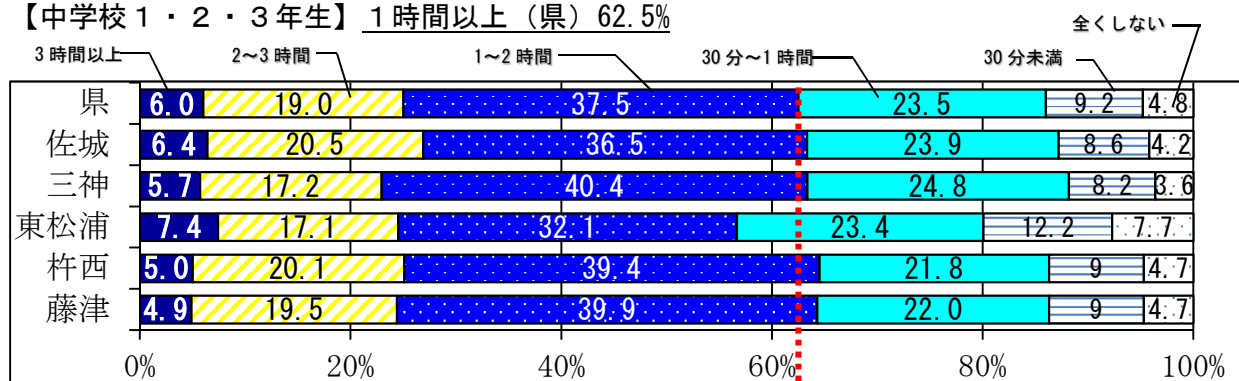


[グラフ 46] 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む）

【小学校5・6年生】1時間以上（県）62.5%



【中学校1・2・3年生】1時間以上（県）62.5%



《学校質問紙調査》

※県全体の回答との差が

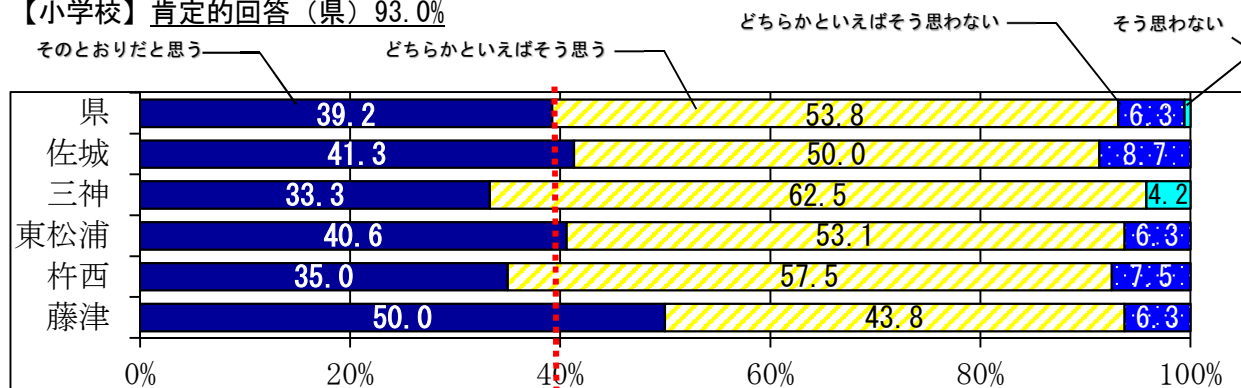
5.0以上は「高い」「低い」と標記しています。

① 児童生徒について

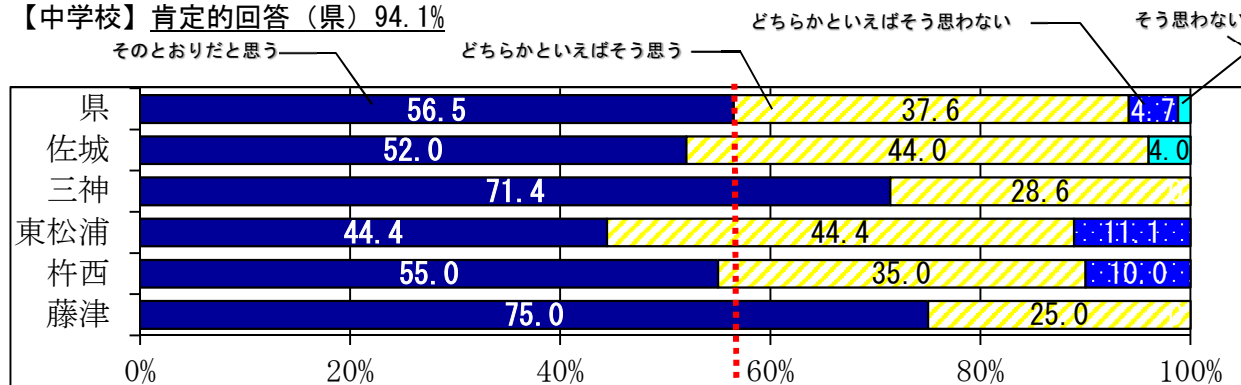
- 「授業中の私語が少なく、落ち着いている」について、「そのとおりだと思う」と回答した学校の割合は、小学校では40%程度であり、県と比べて藤津地域が高く、三神地域が低い。中学校では55%程度であり、県と比べて三神地域・藤津地域が高く、東松浦地域が低い。[グラフ47]

[グラフ47] 児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いている。

【小学校】肯定的回答（県）93.0%



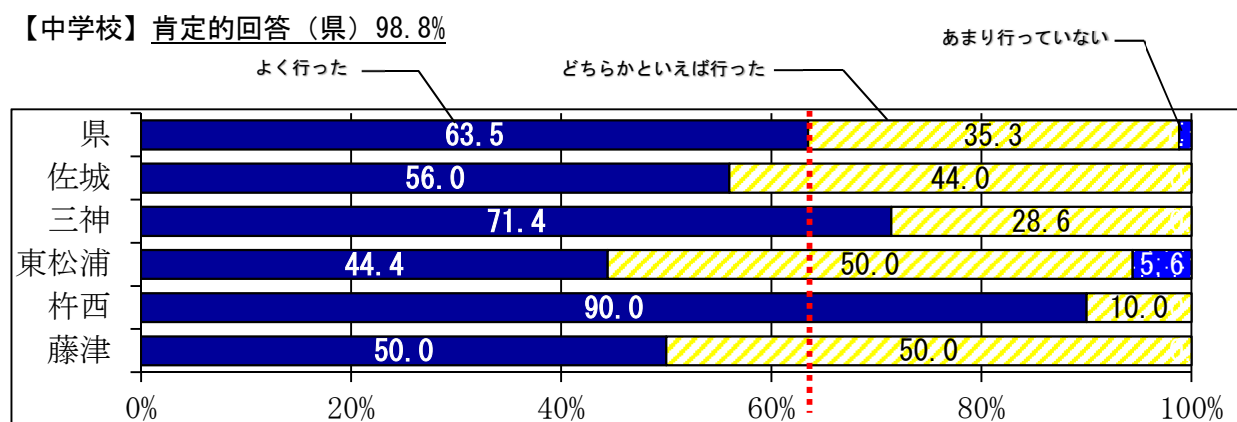
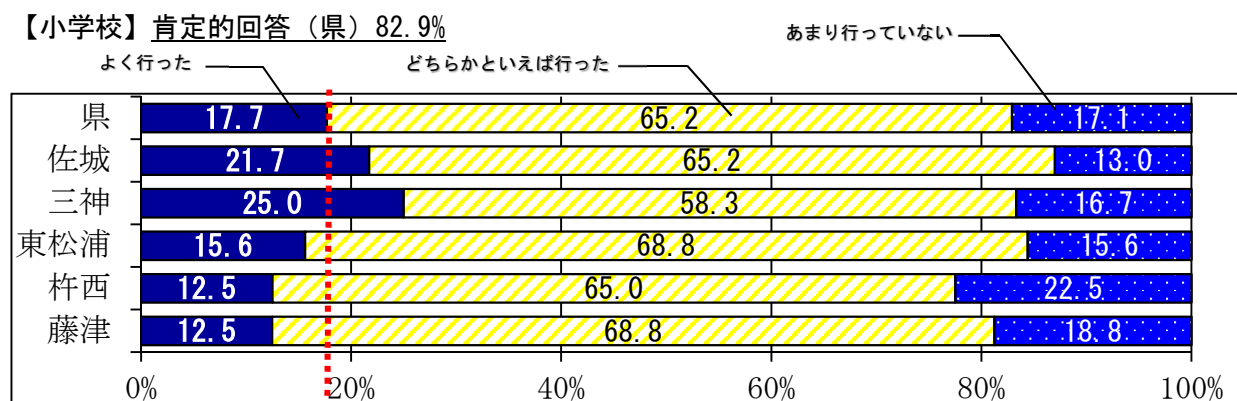
【中学校】肯定的回答（県）94.1%



② 指導方法・学習規律について

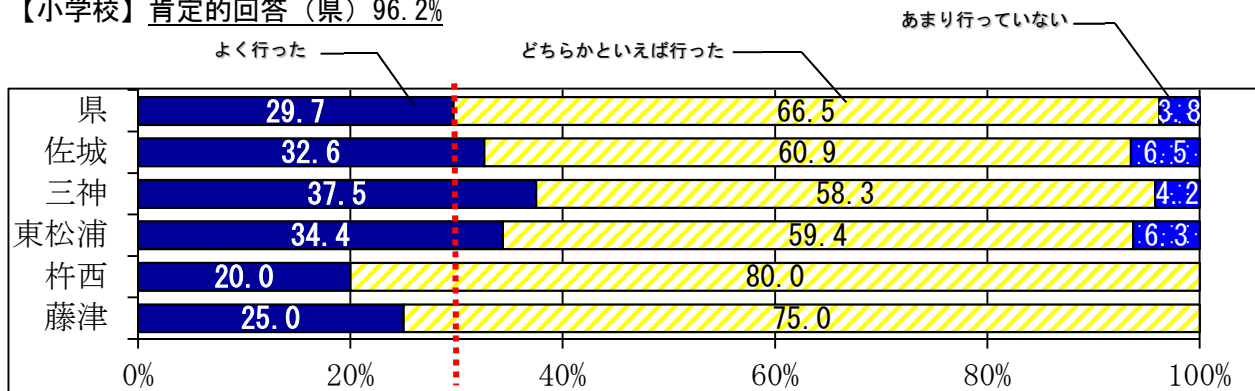
- 「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行った」について、「よく行った」と回答した学校の割合は、小学校では20%程度であり、県と比べて三神地域が高く、杵西地域・藤津地域が低い。中学校では65%程度であり、県と比べて高い地域と低い地域の差が見られる。[グラフ 48]
- 「習得・活用及び探求の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行った」について、「よく行った」と回答した学校の割合は、小学校では30%程度であり、県と比べて三神地域が高く、杵西地域は低い。中学校では35%程度であり、県と比べて三神地域・杵西地域が高く、藤津地域が低い。[グラフ 49]
- 「学習規律の維持を徹底している」について、「よく行った」と回答した学校の割合は、小学校では65%程度であり、県と比べて三神地域・東松浦地域が高く、佐城地域・藤津地域が低い。中学校では70%程度であり、県と比べて佐城地域・三神地域・藤津地域が高く、東松浦地域が低い。[グラフ 50]

[グラフ 48] 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行った。

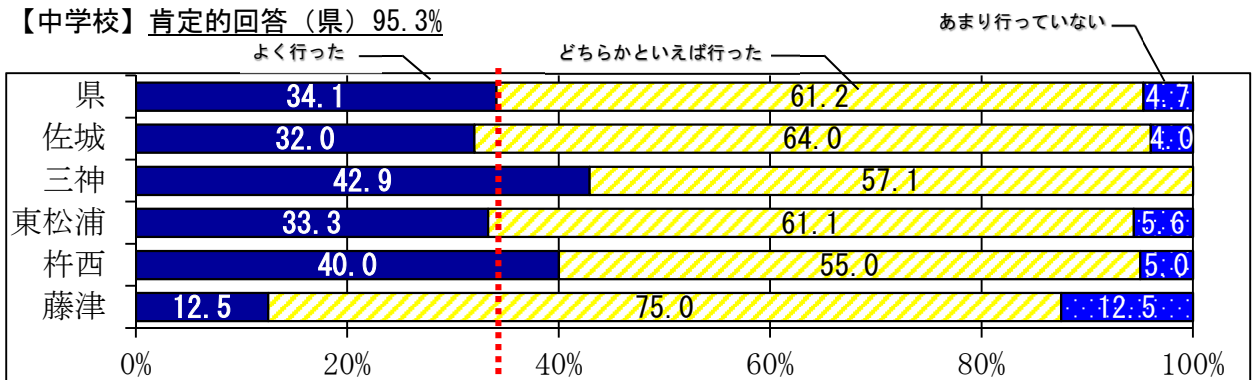


[グラフ 49] 習得・活用及び探求の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行った。

【小学校】肯定的回答（県）96.2%

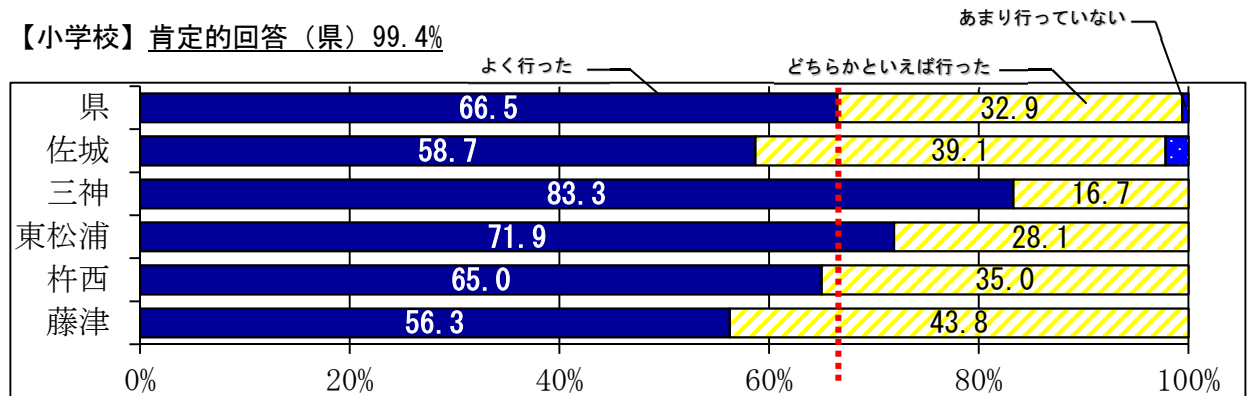


【中学校】肯定的回答（県）95.3%

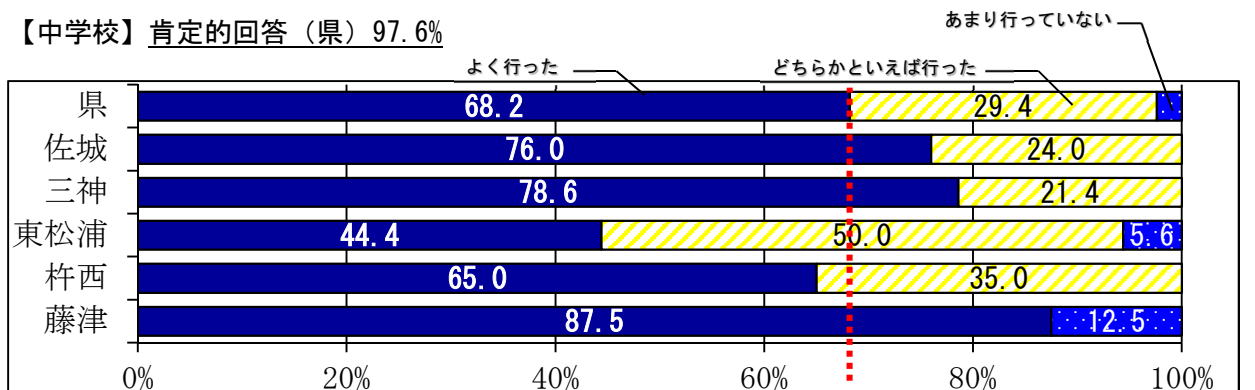


[グラフ 50] 学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底している。

【小学校】肯定的回答（県）99.4%



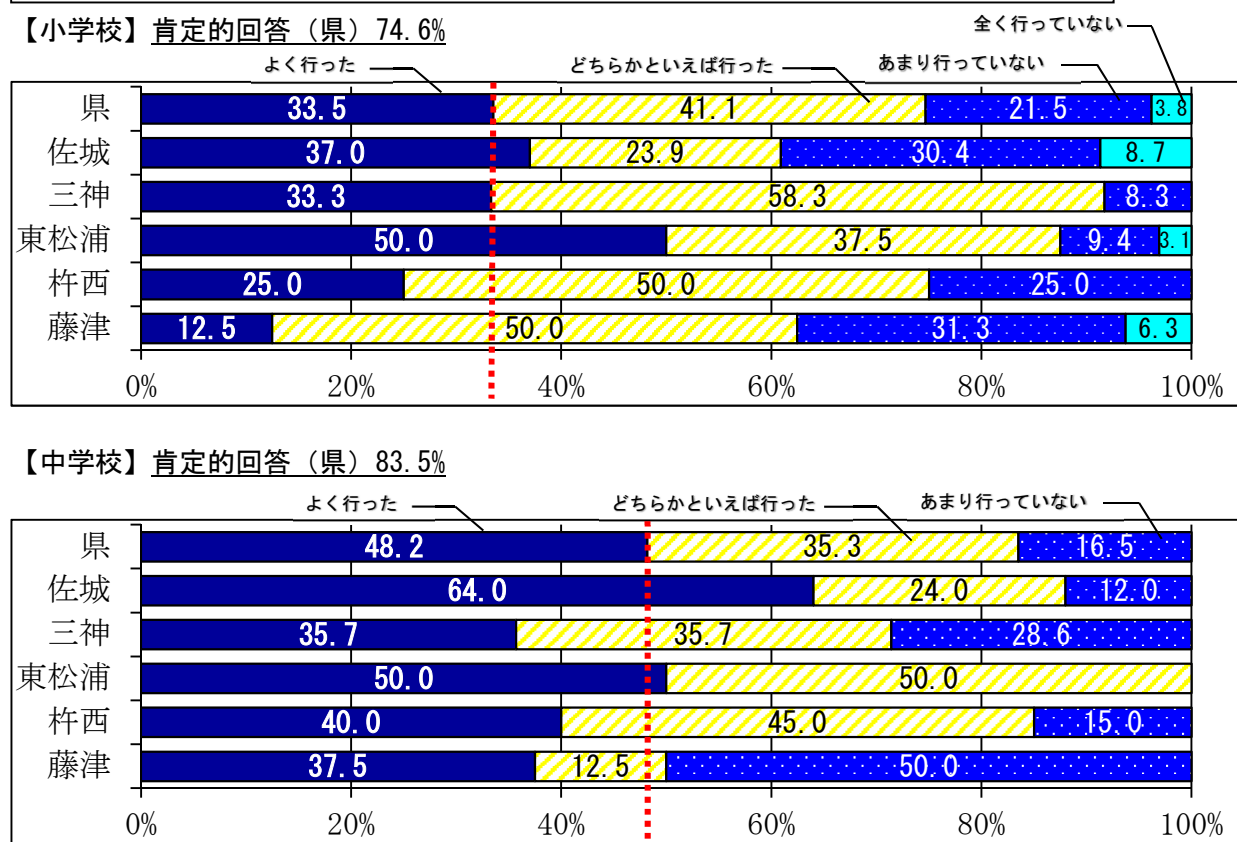
【中学校】肯定的回答（県）97.6%



③ 小学校教育と中学校教育の連携

- 「近隣等の中学校（小学校）と、授業研究を行うなど、合同して研修を行った」について、「よく行った」と回答した学校の割合は、小学校では35%程度であり、県と比べて東松浦地域が高く、杵西地域・藤津地域は低い。中学校では50%程度であり、県と比べて佐城地域が高く、三神地域・杵西地域・藤津地域が低い。[グラフ 51]

[グラフ 51] 近隣等の中学校（小学校）と、授業研究を行うなど、合同して研修を行った。

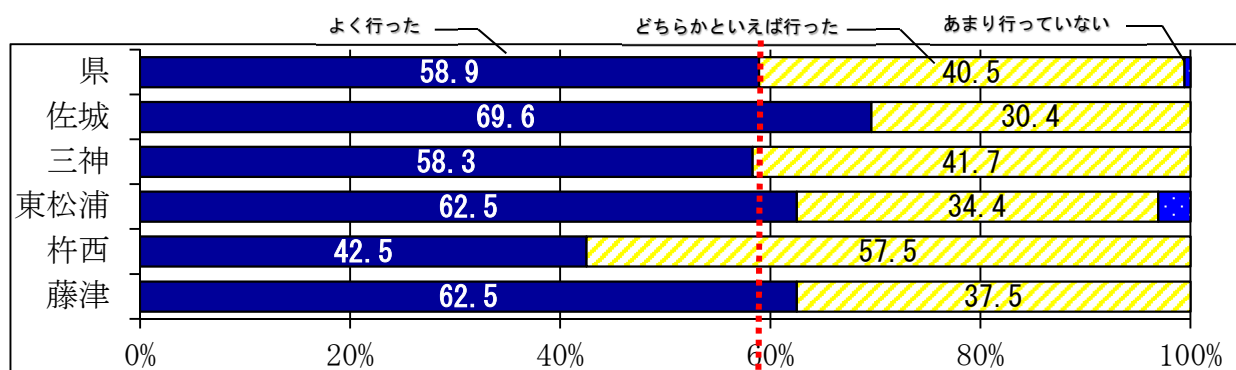


④ 家庭学習について

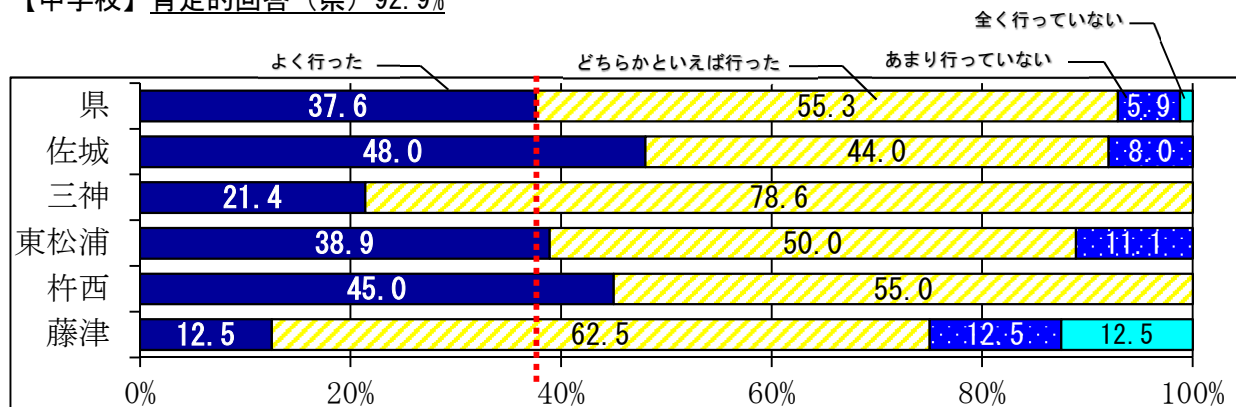
- 「保護者に対して家庭学習を促すような働きかけを行った」について「よく行った」と回答した学校の割合は、小学校では60%程度であり、県と比べて佐城地域が高く、杵西地域が低い。中学校では40%程度であり、県と比べて佐城地域・杵西地域が高く、三神地域・藤津地域が低い。[グラフ 52]
- 「家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えた」について「よく行った」と回答した学校の割合は、小学校では35%程度であり、どの地域も県と同程度である。中学校では15%程度であり、地域により取組の差が見られる。[グラフ 53]

[グラフ 52] 保護者に対して家庭学習を促すような働きかけを行った。

【小学校】 肯定的回答（県）99.4%

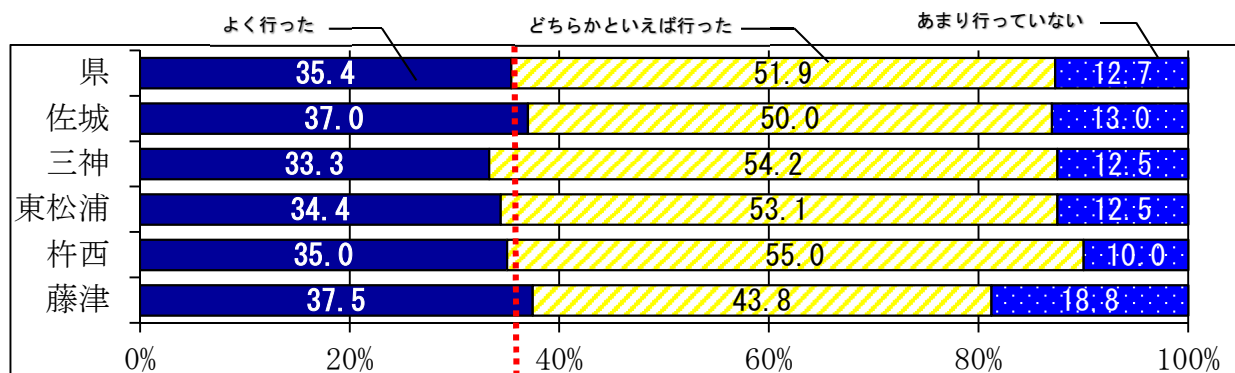


【中学校】 肯定的回答（県）92.9%

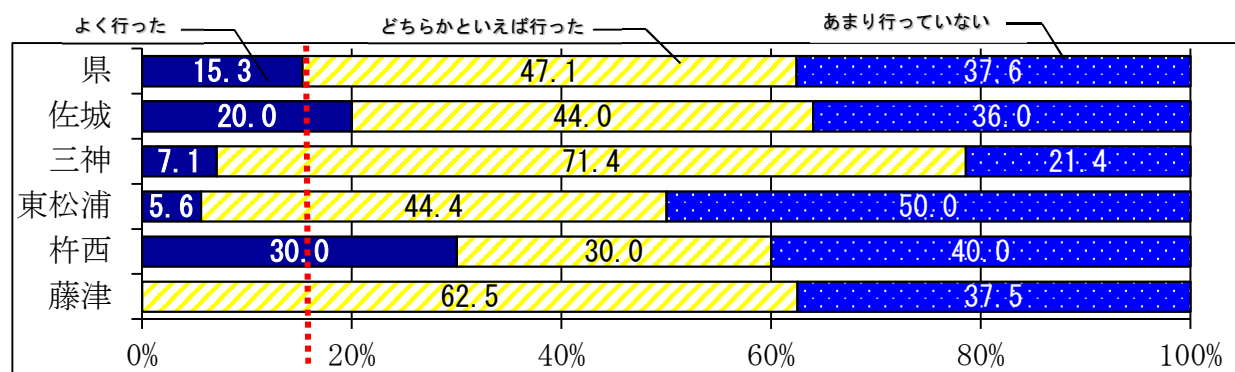


[グラフ 53] 家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えた。

【小学校】肯定的回答（県）87.3%



【中学校】肯定的回答（県）62.4%

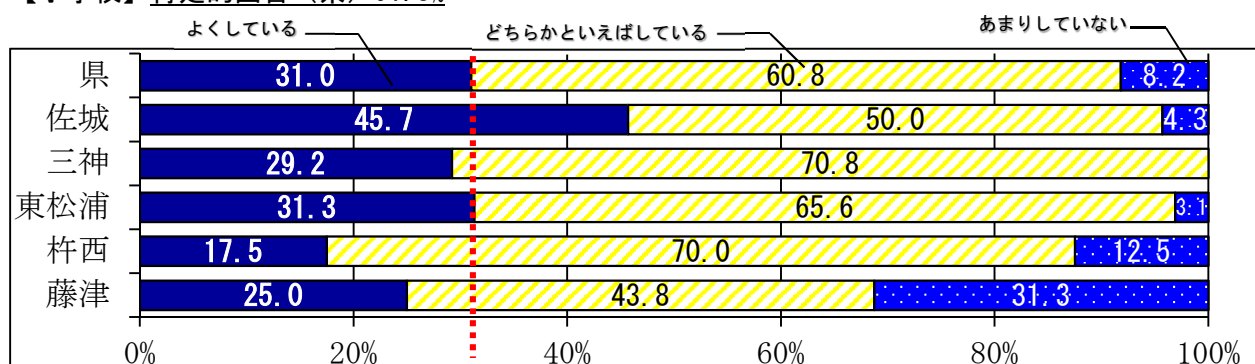


⑤ 教職員の取組について

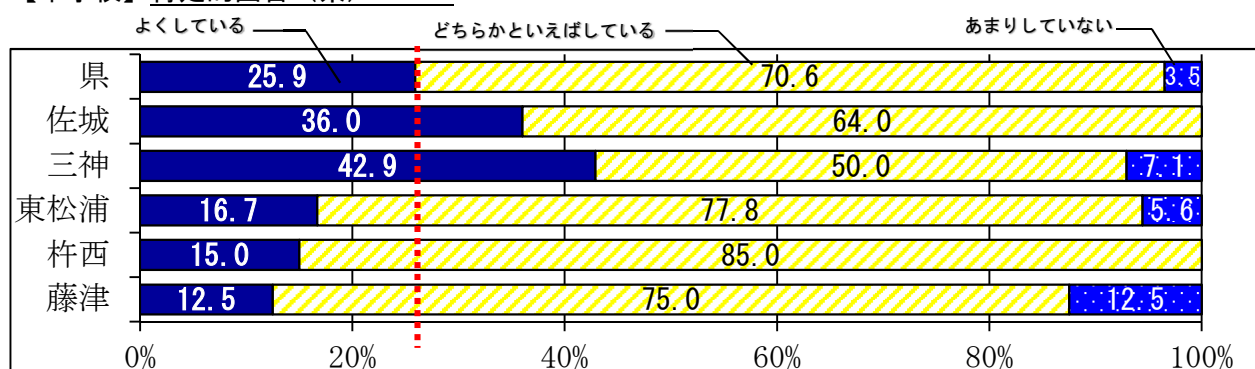
- 「一連のPDCAサイクルを確立している」について「よくしている」と回答した学校の割合は、小学校では30%程度であり、県と比べて佐城地域が高く、杵西地域・藤津地域が低い。中学校では25%程度であるが、地域により取組の差が見られる。[グラフ54]
- 「学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしている」について「よくしている」と回答した学校の割合は、小学校では40%程度であり、県と比べて藤津地域が高く、三神地域が低い。中学校では35%程度であり、県と比べて佐城地域が高く、三神地域・東松浦地域が低い。[グラフ55]

[グラフ54] 児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。

【小学校】肯定的回答（県）91.8%

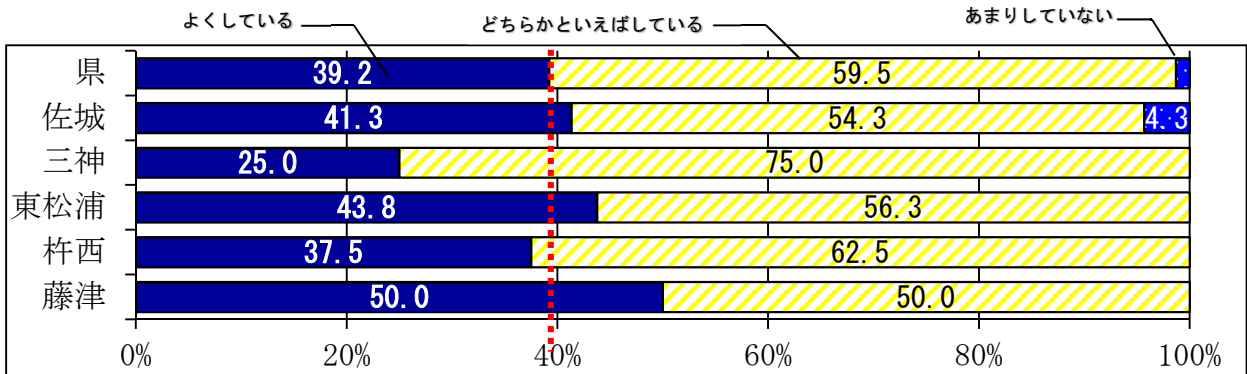


【中学校】肯定的回答（県）96.5%

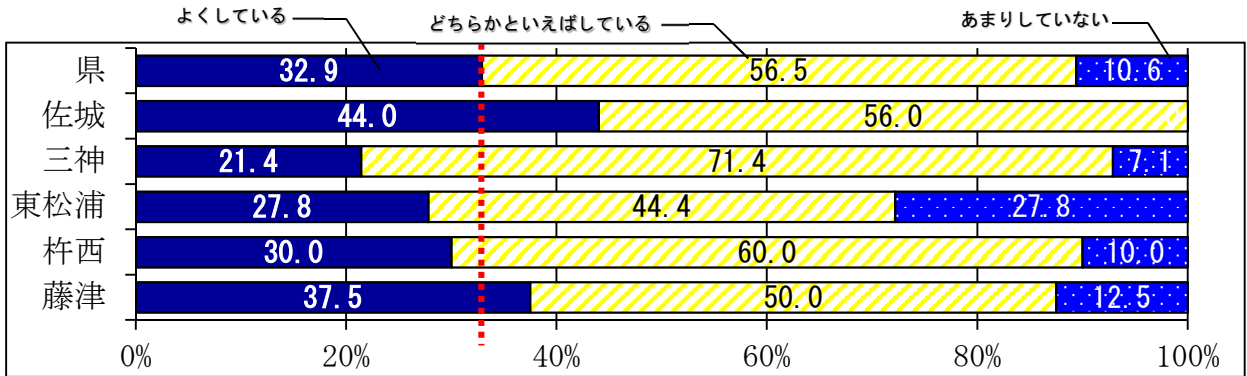


[グラフ 55] 学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしている。

【小学校】 肯定的回答（県）98.4%



【中学校】 肯定的回答（県）89.4%



(7) 結果の考察と指導改善のポイント

ア 授業に対する関心、理解、有用性について

「各教科の勉強は好き」「各教科の授業の内容はよく分かる」「各教科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」という問いに肯定的に回答した児童生徒の割合が、これまでの調査結果と同様に概ね6割から9割となっており、比較的高い水準を維持している。この結果は、教師が指導改善について日々向き合い、取組を続けてきたことに起因していると考えられる。

全面実施が控えている新学習指導要領には、「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら指導改善に向かう必要があることが示されている。このことを踏まえることが児童生徒の「授業に対する関心、理解、有用性」を高めることにつながると考えられる。

(指導改善のポイント)

□ コンテンツ・ベースからコンピテンシー・ベースへ

従来の学力については、どれだけの知識を有しているかがその評価(例えば、テストの成績)の対象の多くの部分として捉えられてきたところがある。いわゆる「内容」を重視(コンテンツ・ベース)した学力観とも言える。新学習指導要領においては、「資質・能力」をより一層確実に育むこと(コンピテンシー・ベース)が求められている。学んだことを実生活の様々な場面で活かす(活用する)ことができるような指導の在り方について考える必要があることを求められているとも言える。

平成27年度から取り組んでいる「児童生徒の活用力向上研究指定事業」では、今年度、新たに8中学校区23校(義務教育学校1校含む)を指定し、県内16中学校区47校(義務教育学校1校含む)で研究が推進されている。このような先進的な取組等も参考にしながら、児童生徒の活用力を高め、児童生徒に学習内容の有用性を実感させることができるような指導を工夫する必要がある。

イ 学校での学習について

「授業では、学級の友達(生徒)との間で話し合う活動をよく行っていると思う」という問いに肯定的に回答した児童生徒の割合は全体的に増加している。特に、中学校における伸びが顕著である。教師意識調査の「ノートのとめ方や話し合いの進め方など、学習方法についてきめ細やかに指導を行っていますか」という問いに「多くの単元で行っている」と回答した教師が中学校で増加していることとも呼応している。

新学習指導要領の全面実施を控え、各学校においては、示された理念の実現に向けた取組がなされ始めている。「授業では、学級の友達(生徒)との間で話し合う活動をよく行っていると思う」という問いに多くの児童生徒が肯定的な回答しているのは、新学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善への取組の状況を反映しているものと思われる。

(指導改善のポイント)

□ 主体的・対話的で深い学びの実現

「主体的・対話的で深い学び」の実現については、平成29年3月に告示された学習指導要領「第3節 教育課程の実施と学習評価」に、次のような3つの視点が示されている。

- ① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。
- ② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。
- ③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

以上の視点については、1単位時間で全てを網羅するのではなく、単元の中でどのように位置付けるのかを考えておく必要がある。

ウ 家庭での学習について

家庭学習の時間は、校種・学年によって、いくらか増減があるものの全体としては大きく変わらない。また、学校の宿題に対する児童生徒の取組状況はこれまでと同様に高い水準にある。このことは、学年や学習内容に合わせた宿題を教師が児童生徒に与え、多くの児童生徒が確実に取り組んでいることの表れだと考えられる。

一方で、教師意識調査の「宿題の出し方について、校内の教職員で共通理解を図っていますか」という問いに肯定的に回答した教師の割合は、小学校で約8割、中学校で約6割となっており、共通理解が十分に図られていない状況が分かる。内容や量、教科のバランスについては、教職員間で適宜協議し、児童生徒の実態に応じた宿題を出すことが、家庭での学習の質を上げることにつながると考えられる。

(指導改善のポイント)

□ 家庭学習への取組の充実

家庭学習については、「家庭で学習をする」という習慣を早い段階から身に付けておくこと、家庭学習に取り組むことによって知識や技能等が身に付くこと等が取組の目的となると考えられる。習慣を身に付けることについては、家庭と連携した指導が欠かせない。また、知識や技能等が身に付いたかどうかについては、取組後の評価(点検)が欠かせない。そして、これらのことを学校と家庭、教師同士が連携して、組織的に取り組むことが欠かせないとする。取り組むこと自体が目的になってしまうような「やりっ放し」の状態になるのではなく、宿題を出すことの目的を改めて共通理解することによって家庭学習の取組の充実を図っていく必要がある。

エ 学校生活、家庭生活について

「学校に行くのは楽しいと思う」「学校では落ち着いて勉強することができている」という問いに肯定的に回答した児童生徒の割合はいずれも8割から9割であることから、これまでと同様に多くの児童生徒が楽しく学校生活を送り、落ち着いて学習に取り組むことができていることがうかがわれる。

平日に2時間以上テレビやビデオ・DVDを視聴する児童生徒の割合、テレビゲームをする児童生徒の割合は、いくらか増減があるものの全体としては大きく変わらない。一方、平日に携帯電話やスマートフォンを1時間以上使用している児童生徒の割合は全体的に増加している。児童生徒にとって

携帯電話やスマートフォンがこれまで以上により身近な存在となっていることを表していると言える。

(指導改善のポイント)

□ 学力向上の基盤となる環境の改善

学力向上を図る基盤として、児童生徒が楽しい学校生活を送り、落ち着いて学習に取り組める環境が整っているということは大切な要件である。県全体としては良好な状態にあると考えられるが、それぞれの学校においては、児童生徒一人一人に目を向け、個に応じた良好な学習環境が整っているかどうかということを定期的に確認し、学校全体としての取組について適宜改善を図ることが必要である。

□ 家庭での過ごし方の見直し

授業に集中できない児童生徒の多くが、家庭での過ごし方に何らかの課題を抱えているとの報告が多く調査でなされている。「早寝・早起き・朝ごはん」のように家庭での生活リズムを向上させることが、学校生活を含め、児童生徒の生活習慣全般の向上につながることは言うまでもない。家庭での学習時間や生活の様子を記録させるなどして、家庭での様子を把握している学校や教師は多いと思われるが、家庭での過ごし方の見直しについては、家庭と連携しながら適宜指導することが必要である。また、児童生徒自身(特に、小学校高学年や中学生)が自分の家庭での過ごし方を見直し、主体的に改善を図ることができるような指導を行うことが必要である。

オ 教師意識調査から

教師意識調査の「授業の中で目標(めあて・ねらい)を児童生徒に示す活動を計画的に取り入れていますか」という問いに肯定的に回答した教師の割合は小学校、中学校ともに9割を超えているものの、「授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れていますか」という問いについては、小学校、中学校ともに減少している。このことは、学習過程を意識して取り組もうとしているものの授業の終末の時間が十分確保できていない状況にあるということが分かる。学習過程については、「めあて」「まとめ」「書く活動」「話し合う活動」「振り返り」の活動ごとの軽重はあるが、基本的な流れは変わらないと考える。小学校では45分間、中学校では50分間の学習過程を事前に踏まえて授業に臨むことが必要だと思われる。

(指導改善のポイント)

□ 「授業づくりのステップ1・2・3」の積極的な活用

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けては、学習者主体の授業づくりを行うことが必然となる。「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.1」では、授業づくりの基本的な視点を「めあて」、「まとめ」、「書く活動」、「話し合う活動」、「振り返り」の5つに焦点化し、それぞれを3つのステップで示している。また、「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」では、「書く活動」、「話し合う活動」に焦点をあて、それぞれにおける教師の主な役割について示している。ぜひ、自らの授業の日々の振り返りや校内授業研究会での参観の視点などに積極的に活用し、児童生徒にとっての「主体的・対話的で深い学び」となっているかどうかといった視点で不断の見直しを図り、授業の質的改善につなげてほしい。

カ 地域別の状況から

地域間の学力差は、10区分(小学校6年生及び中学校3年生の理科を除く。)中7区分で縮小している。これは、「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.1」の全県的な取組等により、「めあての提示」などをはじめとした指導実践が定着してきたことが要因として考えられる。また、「平日1時間以上の家庭学習時間」については、中学校では昨年度と同程度であったが、小学校では改善されるなど、家庭学習の充実が図られてきたと考えられる。質問紙調査においては、「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行った」や「学習規律(私語をしない等)の維持を徹底している」について「よく行った」と回答した割合が高い地域は、正答率が高い傾向にある。また、「一連のPDCAサイクルを確立している」と「習得・活用及び探求の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行った」割合は、平均正答率との親和性が高い傾向にある。

(指導改善のポイント)

□ 授業改善リーフレットのさらなる活用促進

地域間の学力差のさらなる縮小に向け、今年度配布した「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」や「数学リーフレット」も含めて、授業改善リーフレットのさらなる活用促進を行い、授業の質的改善につなげることが大切である。

□ 家庭学習の充実

生活習慣を含めた家庭学習の充実に関する家庭の意識を高めていくための、「家庭学習の手引きリーフレット」の活用や家庭学習の質の充実を図るため、宿題の内容や量が児童生徒の学習内容や学習状況を踏まえたものになるよう取り組むことが大切である。

□ PDCAサイクルの徹底

調査結果をもとに、正答率や無解答率のみならず、誤答傾向や児童生徒のつまずきについての分析を行い、全職員の共通理解のもと、「学力向上対策評価シート」に基づく成果の継続と課題解決に向けた取組を行い、PDCAサイクルをより徹底させることが大切である。

以上、意識調査結果の考察と指導改善のポイントについて示している。各学校の実態や学校を取り巻く環境はそれぞれに異なると思われるので、各学校においても調査結果についての考察を行い、参考となる指導改善のポイントについてはぜひ活用していただきたい。